

## 第1篇

においは、過去の経験をその時の気持ちとともに思い出させることがある。音楽を聞けしきいたり、景色を見たりしたときの同じようなことがあるが、においのほうがもっと強い。においには、何のにおいかと考えさせる前に、体や心を動かす力があるようだ。

においのこのような特徴は、いろいろな形で利用される。体や心を休ませたり、集中する力をつけたりするためにも使われるが、最近では次のような利用方法が増えている。例えば、あるスーパーで、人工的に作られたカレーのにおいを売り場に流したら、カレーの材料がいつもより3割ぐらいく売れたそう。においが、その味やそれを食べたときの満足感をはっきりと思い出させ、また食べたいと思わせたからだろう。また、衣類のような、においのしない商品の売り場に、人工的な花のにおいを流している店もあるそう。においによって商品のイメージを作ろうとしているのだ。

おどろこれらの話を聞いたときは、においにそんな使い方があったのかと驚いた。

専門家によると、今ではほとんどのにおいが人工的に作れるそう。しかし、人工的なにおいは本当のカレーや花のにおいではない。小学生にある実験をしたら、自然のイチゴのにおいよりも、人工的なイチゴのにおいのほうを本当のイチゴのにおいだと思ってしまう子どもが多かったそう。

作られたにおいばかりに囲まれていると、それに慣れてしまい、本当のにおいが忘れられていく。人工的なにおいを利用する可能性が広がることはいいことではあるが、本当のにおいも忘れないようにしたい。

1、このような特徴とあるが、それは何か。

- A 他の感覚よりも強く体や心に影響を与えること
- B 運動したくなるような気持ちにさせること
- C 消費行動を強く起こさせること
- D 何のにおいかを考えさせること

2、この文章によると、最近、においのどんな利用の仕方が増えているか。

- A 体や心を休ませるために利用する。
- B 集中する力をつけるために利用する。
- C 商品を売るために利用する。
- D 客に満足感を持たせるために利用する。

3、そんな使い方とあるが、それは、例えばどのような方法か。

- A 客の目の前でおいしそうなカレーを作る。
- B 食料品売り場に人工的なカレーのにおいを流す。
- C 衣類の売り場にいいにおいの花を飾る。
- D 人工的な花のにおいのついた衣類を作る。

4、においについて、この文章を書いた人はどう言っているか。

- A においによって、不要な商品を買わされることがあるから、注意したほうがいい。
- B においには不思議な力があるから、もっといろいろなところで利用したほうがいい。
- C 人工的なにおいを利用するのもいいが、本当のにおいも大切にしたいほうがいい。
- D 人工的なにおいはなるべく使わないようにして、本当のにおいに慣れたほうがいい。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第2篇

日本の電車は時刻表の通りに走ると聞いていたが、初めて新幹線に乗った時も、駅に着く時間がぴったりだったので、驚いた。速い速度で長い距離を走っているのに、ほかの電車と同じように走れて、本当にすごいと思った。何百キロもある長い距離を遅れたり早すぎたりせずに、どうやって走っているのだろう。鉄道会社に勤めている知り合いに聞いてみた。

聞いて驚いたのだが、新幹線は、停車する駅の到着時間、出発時間だけではなく、停車しない駅を通り過ぎる時間も、9時5分15秒や9時5分30秒のように、15秒単位で決まっているのだそうだ。運転士は、その細かく決められた時間を守るため、いつも速度を考えながら運転している。停車駅の数キロメートル前からホームに入るまでは、コンピューターが速度を決めて運転するが、それ以外は、運転士が運転する。次の駅に着くまでの残り時間と距離をいつも意識し、頭の中で一番適当な速度を計算して走らせているのだそうだ。最後にホームの決まった位置に電車を止めるのも、運転士だ。

運転士になるためには、厳しいトレーニングが必要で、特に距離と時間から適当な速度を計算する訓練をしっかり受けなければならないそうだ。新幹線が時刻表の通りに走れるのは、運転士の厳しいトレーニングのおかげなのだ。

この話を聞いてから、新幹線に乗ると、速度が微妙に変わるたびに、「ああ、今、運転士は適当な速度を計算して、速度を変えたんだ。」と思い、旅が以前より楽しめるようになった。

1、本当にすごいと思ったとあるが、何をすごいと思ったのか。

- A 新幹線以外の電車が時間ぴったりに走っていること
- B 新幹線以外の電車がかなり長い距離を走っていること
- C 新幹線が時間ぴったりに走っていること
- D 新幹線が速い速度で長い距離を走っていること

2、聞いて驚いたとあるが、何に驚いたのか。

- A 到着、出発時間、駅を通り過ぎる時間が非常に細かく決められていること
- B 到着、出発時間、駅を通り過ぎる時間が駅の時刻表に書かれていること
- C 到着、出発時間、駅を通り過ぎる時間を知り合いが決めていたこと
- D 到着、出発時間、駅を通り過ぎる時間をコンピューターが計算していたこと

3、速度を考えながら運転しているとあるが、それができるようになるためにどんな訓練を受けるか。

- A 距離と時間から、頭の中でちょうどよい速度を計算する訓練
- B コンピューターで、距離と時間から適当な速度を計算する訓練
- C コンピューターが計算して決めた速度を守って、時刻表の通りに運転する訓練
- D 正しい位置に止められるように、ホームに入るまでの速度を計算して運転する訓練

4、この文章を書いた人が最も言いたいことは何か。

- A 新幹線を時間の通りに運転することができない運転士には、厳しいトレーニングが必要である。
- B コンピューターによる正しい速度計算が、新幹線を時刻表の通りに走らせているのだ。
- C 厳しい訓練を受けた運転士が速度計算をしているから、新幹線は時刻表の通りに走れるのだ。
- D ほかの電車よりも微妙な速度の変化を楽しむことができるのが、日本の新幹線なのである。

### 第3篇

私の娘が高校生の頃、カバンに小さな人形をぶら下げているので、「それは何のお守り」と聞いたら、「幸運グッズで、これを付けていると試験の成績が良くなる」という返事が戻ってきました。「現に、この前の中間試験の成績が良かったから効き目がある」と信じているようです。そこで私は、「そんなもの付けても、次の試験はきっと悪い成績になるよ」と予言をしました。そして、その予言どおり娘の期末試験の成績は散々で、幸運グッズの効き目がないことが証明されました。

そこで、私は娘に、「あなたの大体の実力は70点を取るくらいである。しかし、人間には好不調というものがあって、90点を取ることも、40点しか取れないこともある。おそらく、あなたは前の期末試験が実力以下の成績だったので、神にすぎるような気持で幸運グッズを買ったのだろう。ところが、それは単に不調で実力が発揮できなかっただけだから、幸運グッズを買おうと買うまいと、あなたの通常の実力どおりなら、次の成績は上がることになる。それが、前の中間試験であった。成績が平均点を上回ったり下回ったりしているだけなのである。それを誤解して、幸運グッズを身につければ成績が良くなると信じてあまり勉強していないようだったから、成績は必ず下がると予言できたのだ」という説明をしました。

人生は山あり谷ありで、山があればいずれ谷が来るし、谷があればいずれ山が来るのです。たとえ谷に落ち込んでも慌てず、いずれ自然の成り行きとして谷を脱するときが来るだろうと、時を待っておれば良いのです。(\_\_\_\_)、怪しげな宗教を信じ込んだり、幸運グッズに手を出す人は、この当たり前のことがよくわかっていないようです。谷に落ち込むと追い詰められた気分になって、つい神に頼ったり幸運グッズに手を出してしまうのです。やがて、時の流れとともに谷の時期が去って山の時期がやって来るのですが、それを頼んだ神や幸運グッズのお陰だと信じてしまう、というわけです。

1、この娘の最近3回の試験の成績はどのように変化したか。

- A 良い→悪い→良い
- B 悪い→良い→良い
- C 良い→悪い→悪い
- D 悪い→良い→悪い

2、筆者によると、幸運グッズにはどのような効果があるか。

- A 何も効果がない。

- B 幸運を与える。
- C 自信をつける。
- D 実力を出させる。

3、( ) に入れる言葉として、適当なものはどれか。

- A それでは
- B ところが
- C つまり
- D だから

4、筆者がこの文章で言いたいことはどんなことか。

- A たとえ宗教や幸運グッズに頼ったとしても、人間のいいときと悪いときが来る順番を変えることはできない。
- B 人間には悪いときと良いときがあるものだが、神や幸運グッズは悪いときにだけ頼りにすればいい。
- C 悪いときには人間は落ち込むが、神や幸運グッズがあれば、良いときが来るまで安心して待つことができる。
- D 悪いときの次には必ず良いときがやって来るので、悪いときが来ても神や幸運グッズに頼る必要はない。

## 第4篇

わたしたち夫婦は明日、引っ越しの日を迎える。

今度住む息子の家は広くないので、物はできるだけ減らすつもりで片付け始めたが、これが意外に難しかった。私たちの着なくなった服や古い靴などはすぐに捨てられるのだが、押入れの奥の段ボール箱から次々に出てくる物はそうではない。「これは何だろう。」「それはあの時の？」などと思い出を語っているうちに、時間がたってしまう。そして、捨てられなくなる。

例えば、その小さな黄色い靴。これは息子が初めて履いた靴だ。息子の小さかったころを思い出して本当に懐かしくなる。ついこの間まで子供だった息子が新しい家を建てて、一緒に住もうと言ってくれた。優しい子に育ってくれたとうれしくなったり、時間が過ぎるのがあまりに早くて少し悲しくなったり…。

家族のアルバムや古い手紙などが出てきても、同じことになる。片付けは引っ越しの一週間前になっても終わらず、物もほとんど減らせなかった。

でも、これではだめだということになり、私たちは考えをまったく変えることにした。今度の家は広くないし、私たちにとっては大事な物でも息子たちにとってはそうではないだろう。それで、思い出の物は、アルバム以外は全部捨てることにした。私たちの思い出は段ボール箱ではなく、心の中にしまっておけばいいのだ。

しかし、この三週間はとても楽しかった。歩いてきた人生をもう一度思い出すことができたからである。そして、持ち物の整理もすることができた。頼んでおいた引っ越しのトラックは、少し大きすぎたかもしれないが、それはそれでいい。

1、難しかったとあるが、何が難しかったのか。

- A 息子の家に引っ越しすると決めること
- B 引っ越しのために物をできるだけ減らすこと
- C 押し入れに入っていた物を次々に出すこと
- D しまっておいた物が何だったか思い出すこと

2、同じことになるとあるが、どうなるのか。

- A 片付けに時間がかかってしまい、思い出が十分に語り合えなくなる。
- B 時間のたつのが早く、片付けが間に合わなくなりそうで、嫌になる。
- C いろいろと思い出話をしてしまい、結局、捨てることができなくなる。
- D 今住んでいる家の良さをあれこれ話してしまい、悲しい気持ちになる。

3、考えをまったく変えることにしたとあるが、どうすることにしたのか。

- A アルバムだけを残して、思い出の物をみんな捨てる。
- B 息子たちにも相談して、持っていく物を初めから選び直す。
- C 荷物が多くなってもかまわないから、すべての物を持っていく。

D 思い出の物をできるだけ持っていけるように、ほかの荷物を減らす。

4、引っ越しの準備について、「私」はどう思っているか。

A 大変だったが、楽しい時間でもあり、持ち物も減らすことができてよかった。

B 大変だったが、荷物を息子と整理しながら、自分の人生を伝えられてよかった。

C 楽しかったが、荷物が減らせたので、もっと小さなトラックを頼んだほうがよかった。

D 楽しかったが、もっと計画を立ててから、荷物を整理したほうがよかった。

## 第5篇

野菜工場は、電気の光で野菜を育てる工場です。屋内に上下に何段も棚を重ねて作り、そこで野菜を育てます。それぞれの棚で野菜が作れるので、同じ広さの場所でも畑より多くの野菜を生産することができます。

野菜工場では、畑と違って環境も人間が作れます。例えば、工場では温度や湿度、野菜が光を浴びる時間も決められるので、外の天気に影響されずに野菜が育ちます。冬に夏の野菜を作ることも可能です。

また、工場は虫などが入りにくいので、農薬を使う必要がありません。ですから、工場で作られた野菜は安心して食べられます。畑で育った野菜より栄養があるものもあるそうです。

野菜を作る人にとっても、いい点があります。畑では作物を地面で育てますから、長時間腰を曲げて働かなければならず、足や腰が痛くなります。しかし、工場では棚を、仕事がしやすい高さにすることができますので、楽に仕事ができます。

こう見てくると、いいことばかりのようですが、問題もあります。まず、工場を作るのにかなりの建設費がかかります。そして、野菜を作るには、電気やエアコンを長時間つけておく必要があるので、電気代もかかります。また、作れる野菜の種類もまだ少ないし、畑で育てた野菜のほうが味がいいと言う人もいます。

現在、国、大学、企業などが協力して、このような問題を解決するための新しい技術の研究を行っています。時間がかかるかもしれませんが、日本のように山が多く、利用できる土地が少ない国では、今後、野菜工場を利用した作物の生産も増やしていかなければならないでしょう。

1、多くの野菜を生産することができますとあるが、どうしてか。

A 棚を重ねて使って育てるから

B 電気の光を使って育てるから

C 広い場所で育てているから

D 建物の中で育てているから

2、環境も人間が作れますとあるが、それは、例えばどうすることか。



- A 野菜がよく育つように、エアコンで適当な温度にする。
- B 野菜が虫に食べられないように、棚の高さを工夫する。
- C 野菜に太陽の光がよく当たるように、棚の置き方を工夫する。
- D 野菜を作る人が働きやすいように、温度をいつも同じにしておく。
- 3、工場で作った野菜について、この文章を書いた人はどう言っているか。
- A 畑で作るより安く作れるが、栄養が少ない。
- B 季節に関係なく作れるが、一度にたくさん作れない。
- C 安心して食べられるが、作るのにお金がかかる。
- D いろいろな種類があるが、味はあまりよくない。
- 4、野菜工場について、この文章を書いた人はどう考えているか。
- A 研究に時間がかかるので、今まで以上に畑で育てた野菜の生産を増やす必要がある。
- B いい点もあるが問題が多く、工場以外で野菜を作る新しい技術を考える必要がある。
- C 問題があるがいい点も多く、将来は工場での野菜の生産を増やしていく必要がある。
- D 研究が行われて問題が解決されてきたので、すぐに野菜工場の建設を始める必要がある。



## 第 6 篇

僕は生まれてからずっと、東京に住んでいる。といっても、子供の頃住んでいたのは東京の田舎だし、今住んでいるのは川崎市だ。まあ、「東京通勤圏」に住んでいる、というほうが正しい。東京は便利なところだけれど、いろいろつらいことがあって、例えばその一つとして通勤地獄がある。常識では考えられないような密度で人間を箱に詰め込んで、一時間以上にわたって運ぶという非常識なことをやらざるを得ない。それでも足りなくて、列車の本数を増やしまくり、ラッシュ時には数分おきに電車が走るということになる。

さて、それでも足りないとなると、どうするか。いろいろな手がある。たとえば、JR 山手線では座席を折り畳み式にし、ラッシュ時には座席をたたんで人が立てるスペースを広くして、もっといっぱい乗れるようにした。

また、これほど混雑してくると、人の乗り降りにかかる時間が馬鹿にならなくなる。そこで、在京の私鉄の A 社と B 社では、人が素早く乗り降りできるようにドアを改良することにした。素早く乗り降りできるようにするためには個々の車両の出口を増やすか大きくしてやれば良い。A 社はドアの数はそのまま（一車両ずつ片側四つ）で一つ一つのドアを大きくした。B 社はドアの大きさを変えずにドアの数を増やした（片側五つ）。なんとなく、どちらでもいいように思える。ところが、結果は B 社はうまくいって乗り降りの時間が短縮されたが、A 社はうまくいかず、むしろ余計に時間がかかるようになってしまった！  
全く不思議な話だ。

1、人の乗り降りにかかる時間を短くするため、A 社ではどんな改良をしたか。

- A ドアの手数は変えないで、ドアを一つだけ大きくした。
- B ドアの手数は変えないで、全部のドアを大きくした。
- C ドアの手数を一つ増やして、全部のドアを大きくした。
- D ドアの手数を一つ増やして、大きさは変えなかった。

2、人の乗り降りにかかる時間を短くするため、B 社ではどんな改良をしたか。

- A 全部のドアを大きくして、ドアの手数も一つ増やした。
- B 全部のドアを大きくして、ドアの手数は変えなかった。
- C ドアを一つだけ大きくして、ドアの手数は変えなかった。
- D ドアの大きさは変えないで、ドアの手数を一つ増やした。

3、ドアを改良した結果、A 社と B 社の人の乗り降りにかかる時間は、どうなったか。

- A A 社は短くできたが、B 社はもっと時間がかかるようになった。
- B B 社は短くできたが、A 社はもっと時間がかかるようになった。
- C A 社も B 社も、乗り降りにかかる時間を以前より短くできた。
- D A 社も B 社も、乗り降りにもっと時間がかかるようになった。

4、全く不思議な話とあるが、何が不思議だか。

- A A 社と B 社の改良の結果がぜんぜん違うこと
- B A 社はドアを大きくしたこと
- C B 社はドアの数を増やしたこと
- D 東京の交通



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第7篇

この三年ほどをかけて、東京・新宿のデパートで、販売員の社員研修をしました。社員教育といっても、販売員の場合は、研修室にひきこもって（注1）勉強や練習をしているだけでは意味がありません。現場、すなわち売り場に立って、お客様とのやりとりを重ねる中で、**実地**に（注2）研修していかなければなりません。

その中で気づいたのが、販売員とお客様との距離の問題です。ある日ネクタイ売り場に、40代ぐらいの男性が1人、スタスタとまっすぐな一直線の**動線**（注3）を描いて入ってきました。歩き方のスピードは、街中よりは遅いものの、デパート内の買い物の場面としては速いほうです。視線がショーケースの上にとり出して**陳列**して（注4）あった数本のネクタイのうち、真ん中あたりのものにとまりました。その瞬間、ぐっと近寄った販売員が**間髪を入れずに**（注5）、「いらっしゃいませ、いかがですか。そちら、今年流行の柄です」。

すると、この男性客は、まるで販売員の言葉を無視するかのように、何と逆の方向へ歩き出してしまったのです。もちろんネクタイは買わずに、です。

これが客を追い払ういわゆる「客追い動作」と呼ばれるものです。

販売員がせっかくのチャンスを逃がしてしまった主な原因は何だったのでしょうか？

その答えこそが、「販売員の**対人距離のパフォーマンス**（注6）の失敗」なのです。つまり、失敗の第一の理由は、「距離の接近のいきすぎ」にあります。

（注1）ひきこもって：ずっと外に出ないで

（注2）実地：実際に現場で

（注3）動線：人が動いたあとを線で描いたもの

（注4）陳列して：よく見えるように並べて

（注5）間髪を入れずに：間、髪と区切って読む。すぐに、「髪の毛の入る間もないくらいに」の意味

（注6）対人距離のパフォーマンス：人と人との間に適当な距離を置く行動

1、ネクタイ売り場にきた男性は、どうするつもりだったと思われるか。

- A ネクタイを買うつもりで、特に気に入ったものをよく見ようとしていた。
- B ネクタイを買うつもりだったが、いろいろなネクタイを見て迷っていた。
- C ネクタイを買うつもりはなく、たまたまネクタイ売り場に来て見ていた。
- D ネクタイを買うつもりはなかったが、たまたま気に入ったものがあった。

2、販売員に声をかけられた男性が逆の方向へ行ってしまったのはなぜか。

- A ただ見ていただけなのに販売員が声をかけたから。
- B 販売員が自分を無視するような態度を取ったから。

- C 販売員が急に自分の近くまで来て声をかけたから。  
D 販売員に勧められるより自分で選びたかったから。
- 3、販売員が男性にネクタイを買ってもらうのに失敗した主な理由は何か。
- A 男性に声をかけるのが早すぎたこと  
B 男性が買いたい柄がなかったこと  
C 男性を無視する態度を取ったこと  
D 男性に急に近づきすぎたこと
- 4、この文章によると、販売員にとって、しなければならないのは何か。
- A 研修室にひきこもること  
B お客を追い払うこと  
C お客とのやりとりを重ねて、実地に研修すること  
D お客に声をかけること



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 8 篇

地球の気温は現在上昇しつつあるが、今のペースで温暖化が進んでも、西暦 2100 年の気温は「縄文時代（注 1）と同程度」にすぎない。要するに「縄文時代の気温に戻りつつあるだけ」だ。さらにその前の時代を見ると、人類誕生後だけを見ても地球の気温は激しく変動を続けてきており、海面が現在よりも 30 メートル以上高かった高温期が何回もある一方で、逆に 100 メートル以上低かった低温期も何回もあった。実は、北極の氷は存在しなかった時代のほうがはるかに（注 2）長く、また、北海道に行くと珊瑚礁の化石が多くある。

したがって、現在起きている程度の温暖化で「地球が大変なことになっている」とか「地球が悲鳴を上げている」などということはありません。地球は、現在の温暖化よりもはるかに激しい気温変化を経験してきており、この程度の気温変化で「地球」がとんでもないことになるはずがないのだ。（ ）、  
「地球を守ろう」「地球のため」「地球に優しい」「地球がかわいそう」といった発想は、すべて誤りである。地球が聞いたら怒るだろう。多くの人々が「普通の気温」と思っている気温は、激しい温暖化・寒冷化を繰り返してきた地球の歴史の中では、たかだか過去 200 年程度の瞬間的なものにすぎないのである。

（注 1）縄文時代：日本の B. C.（紀元前）1 万 2,000 年～2,400 年ごろの時代

（注 2）はるかに：ずっと

1、北極の氷は存在しなかった時代のほうがはるかに長くとはどんなことの例か。

- A 地球が現在今までなかった温暖化の危険にあること
- B 地球が今まで高温期と低温期を何回も繰り返したこと
- C 地球が今より気温が低い時間がまっただけでなかったこと
- D 地球では今より気温が高いことが珍しくなかったこと

2、（ ）に入れる言葉として、どれがいいか。

- A つまり
- B ところが
- C ところで
- D ただし

3、地球が聞いたら怒るのはなぜか。

- A 温暖化は地球にとっては大した問題ではないのに人間が勝手に心配しているから
- B 人間の活動による温暖化で地球の環境がとんでもないことになってしまったから
- C 温暖化の原因は人間の活動にあるのに人間が地球のせいだと誤解しているから
- D 将来今の温暖化よりも激しい気温変化が来ることに人間が気づいていないから

4、筆者は現在の地球の気温上昇についてどう考えているか。

- A これから 200 年間、「普通の気温」に戻ることはできないだろう。
- B この程度の温暖化ではすまず（に）、とんでもないことになる。
- C 長い地球の歴史の中で見ると地球が危険な状態であるとは言えない。
- D 人類は誕生以来何度もこの危機を乗り越えたから今度も大丈夫だ。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第9篇

みんなで楽しく食事をしている時、ふと見ると意外に偏食する人が多いのに驚くことがある。もちろん子どもではなくて、立派な大人である。あれもだめこれもだめと言いながら必死になって(ア)を皿の隅に避けている姿を見ると、その人には悪いけど、「あまりみっともないものじゃないな」と思う。

こういうわたしも子どものころはすさまじい偏食児童であった。食べられるのはお菓子とご飯と海苔と玉子だけ。野菜などまったく食べなかった。最初はわたしの気に入ったものだけがちゃぶ台(矮飯桌)に登場していたが、あるときを境にして突然、大嫌いな食べ物のオン・パレード(全体出場)になってしまったのである。ご飯はあるが、海苔と玉子の姿はない。当然のようにわたしは抵抗した。

「こんなのいやだ。」と言ってみても、母親は知らないふりをしていた。次は大声で泣いていた。また無視された。最後の手段として畳の上にひっくりかえって、足をばたばたさせながら「海苔と玉子じゃないといやだあ」と泣きわめいても、またまたわたしは無視されたのである。

「これしかないの。いやだったらしょうがないわね。」

そう言って、母親はさっさとわたしの目の前にあった食べ物を片付けてしまった。いちおうわたしにも抵抗したプライドがあるので、そばを向いていたが、それから三食連続でそういう調子で一日ハンスト(絶食)したが、結局は大嫌いな食べ物を口に入れることになってしまったのである。

それ以来、わたしはまったく好き嫌いがなくなった。母親の強硬手段も今になっては感謝している。きつといい年をしてもひどい偏食が治らない人は、よほど甘い母親に育てられたのであろう。他人が偏食をしても、別にわたしに迷惑が及ぶわけではないのだけれども、食べ物の材料を細かく分析し、あれもいやだ、これもいやだと言われると、一緒に食事をしているこちらとしては、とても不愉快になってしまうのである。

1、(ア)に入れるのに最も適当な言葉を選びなさい。

- A まずいもの
- B 美味しいもの
- C 好きなもの
- D 嫌なもの

2、文中に「そういう調子」とあるが、それはどんな調子を指すか。

- A 抵抗して、頭をそばに向けた。
- B 抵抗しながら、いやなものを全部食べてしまった。
- C お母さんはまた美味しいものを多く作ってくれた。
- D お母さんは目の前にあった食べ物を片付けてしまった。

3、筆者が偏食する人に言いたいことは何か。

- A 母親の強硬手段がなかなか必要だ。



- B 毎日、好きなものだけ食べれば、もう充分だ。
- C 食べ物の材料の栄養がそれぞれ違うから何でも食べるべきだ。
- D 食べ物の種類がいろいろあるが、食べても食べなくてもいい。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 10 篇

方向オンチ直し方がないものかといつも私は悩んでいる。どこでそうなったかを考えてみると、方角に弱いのは小さい頃からだった。小学生の時に学校で、東西南北を教わった時に、「北に向って、お箸を持つ手のほうが東、お茶碗を持つ手のほうが西です」と言われた。私はそのときは納得したのだが、家に帰ると頭が混乱した。私の父は左利きだったので、並んでご飯を食べていると、違う方向にお箸を持っていることになる。私にとっての東と、父親にとっての東が違うのである。

「いったい家では東西南北はどうなっているんだろう」と、首をかしげたまま、先生にも聞かずにほったらかしておいたので、それが未だに尾を引いている(影响持续存在)のではないかとと思っている。

例えば引っ越した直後、最寄りの駅からアパートまでまともに帰れたことがない。最低二度か三度は近所で遭難する。ぐるぐると付近を 30 分程度歩いた結果、「はて、アパートはこんなに遠かったかしら」とやっと(ア)に気が付くのだ。

友達の間でも私の方向ウンチは有名で、いっしょに出かけるとなると、今度は何をやらかすかと楽しみにしているようだ。

先日も博物館に行って食事をしたあと、つい一時間ほど前に入り口を通ったはずなのに、どういうわけか平気な顔をして厨房に入って行ってしまった。その時もコックさんと目が合って、初めて間違えたことに気づくのだ。私の背後では友人が、無関係な他人というようなそぶりをしながら、顔を真っ赤にして笑いをこらえている。どこかに遊びに行く時も、下手な場所だと迷うので、待ち合わせはいつも駅のホームだ。それも絶対迷わない、進行方向の一番前だ。そこにボーッと立っていると、とても空しくなってくる。友達は喜ぶけれども、方向オンチの苦しみは方向オンチにしか分らないのだ。

1、文中の「首をかしげた」の意味は次のどれか。

- A 心配のある様子をする。
- B 疑問のある様子をする。
- C 自分で納得できる様子をする。
- D 自分自身に聞かせる様子をする。

2、(ア)に入れるのに最も適当な言葉を選びなさい。

- A 不思議に思うこと
- B 迷っていること
- C 悩んでいること
- D 泣いていること

3、待ち合わせる時、方向を間違えない、いい方法は何か。

- A 他人が迎えてきてくれる家で待ち合わせる。

- B 両方とも知っている入り口で待ち合わせる。
- C 自分がよく知っている場所で待ち合わせる。
- D 駅のホームで、進行方向の一番前で待ち合わせる。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 11 篇

カラオケの世界に浸透しているナルシズム(自我陶醉)と関連して思い起こされるのは、日本社会の「騒音不感症」ともいうべき状態である。

車内放送、商店街の BGM、物売りの車の PR、電話待ち時間の音楽、自動販売機などのコンピューターのサービス音声など、街には時に耳につく音があふれている。外国旅行で列車が発車のアナウンスやベルなしに走り出すと、一瞬の(ア)の後、発射の通知などなければいけないのだなと思い、日本で暮らしているといかに無用で過剰なサービスやコマーシャルの音に慣らされてしまっているかに気づく。

クラス会で久しぶりに会った友人とゆっくり話そうと入ったスナックで、カラオケの威圧的な音に悩まされるときにも、そんな思いに駆られる。概して、見知らぬ人のカラオケで思わず聞きほれてしまうというようなものは少ないようだ。スナックなどでカラオケの歌は、ほとんどの場合やかましい BGM 以外の何物でもない。ひところウォークマンが若者の聴覚を損なうことが話題になったが、カラオケもその面で要注意ではないだろうか。

カラオケは周りの騒音に比較的寛容な日本社会の一面を表わしている。目と違って、耳を「閉じる」わけにはいかないので、音の迷惑にはわれわれは気を配るべきだろう。実際、カラオケボックスが郊外の住宅地近辺にも続々作られるようになって、騒音問題をめぐってトラブルを生じるケースも出てきている。マンションの下層にカラオケボックスができたため、酔客の声や不特定多数の人の出入り、カラオケ伴奏の重低音などに悩んだマンション住民が当のカラオケボックスの全面営業停止を求めて訴訟を起こした例もある。

1、文中の「BGM」とは何か。

- A コマーシャル
- B カラオケのメロディ
- C アナウンサーの放送
- D 背景として流す音楽

2、(ア)に入れるのに最も適切な言葉を選びなさい。

- A 不安感
- B 安心感
- C 恐怖感
- D 親近感

3、上の文章の内容と合っているものはどれか。

- A 日本の街はいつも静かだ。

- B スナックでカラオケの歌がとてもきれいだ。
- C 日本社会は「騒音不感症」というべき状態だ。
- D カラオケの騒音問題は郊外の住宅地で起こっていない。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 12 篇

コンピュータソフト会社に勤める明子さん(25)とメーカー勤務の夫(31)は昨年、結婚した。現在は二人暮らしである。

明さんは「家事をしると言われないから快適」と言う。だが、週末に一週間分の料理を作りおきして冷凍しておく。平日もなるべく夕飯を一緒にとる。多くて週に三日だが、夫の帰宅時間に合わせて、明さんも仕事を切り上げる。

独身時代に比べると仕事をセーブする面はある。残業時間を気にする。週末に持ち帰り仕事をしないようにする。

「彼は好きなようにさせてくれる。理解がある。だから、〈夫婦円満〉が第一。仕事は好きだけど、一番にならないようにしている」と、明さんが言う。

ただ、夫婦にはネックが二つある。一つは子どもである。

明さんの父は家庭を顧みない仕事人間で、母子家庭状態で育った。専業主婦の母は「かわいそうだった」。だから、明さんはずっと仕事を続けるつもりだ。もし出産しても育児休業後に職場復帰したい。

だが、夫は「子どもが小学校に上がるまで母親は家庭にいるほうがいい」との考えを持っている。しかも、時々話し合うと、夫は子どもが欲しそうだ。明さんは欲しいかどうか、「まだ分からない。モラトリアム。でも、子どもが生まれたら今のような〈ままごと〉じゃなくなる。責任も生まれるし、お互いに〈こうして〉と要求するでしょう」と。

もう一つのネックは転勤だ。転勤族は承知の上で結婚したが、そろそろ辞令が下りる年次なのである。別居か、退職か。ついて行くなら、いっそ子どもを生むか。

「単身赴任させるほどの仕事を比較します。夫婦は離れるとよくないので、転勤族なのは結婚をためらうほどのマイナス要素ではありませんでした。ついていけば、何かビジネスチャンスがあるかも。何もないかもしれませんが。」

1、文中に「かわいそうだった」とあるが、そう思う人は誰か。

- A 明子さん
- B 明さんのお父さん
- C 明さんのご主人
- D 明さんのお母さん

2、文中に「転勤族なのは……要素ではありませんでした」とあるが、それはどんな意味か。

- A 転勤族はしっかりした価値観があって、結婚を断る理由はない。
- B 転勤族は悪質な人間ではなく、結婚相手にならないことはない。
- C 昔、転勤族はみんなに大事にされ、軽蔑されたことはなかった。

D 転勤族を承知の上で結婚したのだが、それが自分の生活に影響を及ぼすとは思わなかった。

3、この文章の内容と**合わない**ものはどれか。

A 明子さんはご主人と結婚して二人で暮らしている。

B 明子さんは仕事が好きだが、一番にならないと言った。

C 明子さんは一人の子どもを産んで、仕事を続けている。

D 平日、明子さんとご主人はできるだけ一緒に晩御飯を食べる。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ



## 第 13 篇

最近は、子どもたちの離反にはじまって、女房族の反乱などといった家庭についての話題が、いろいろとマスコミでも取り上げられています。

この正月に見た、テレビドラマにこんなのがありました。

定年まぢかの中年男が、ある日突然、北海道の支店に行くが、会社をやめて子会社に出向するかの決断を上司から迫られます。大学受験をひかえた息子と青春を楽しむ娘をかかえた男は、家族会議を開いて結論を出そうとしますが、息子や娘はもとより、長年つれそった妻も自分たちの生活第一で、勝手気まま。家族会議どころではありません。夫は、ひとり寂しく庭で犬とたわむれ、苦い孤独をかみしめていました。

このドラマの中で、夫はつぶやきます。「男には女にわからない苦労があるのに、すこしもわかってくれない」と。

なにも、男だけの苦労をことさら強調するわけではありませんが、元日の朝日新聞にも、作家の山田太一さんが「ことしは夫族にとって受難の年になる」と書いていました。

中年のサラリーマンといえば 会社では中間管理職の部課長クラスで、トップと部下との間に挟まって苦労する、サンドイッチの悲哀を味わっているケースが多いようです。

当然のことですが、公私にわたって忙しく、休日返上や深夜の帰宅も多くなりがちです。

こんな夫に対して 妻や子どもたちからは「話を聞いてくれない」とか「気持ちをわかってくれない」、「いっしょにどこへも行かない」などといった不満がぶつけられます。

最悪の場合は、子どもの非行や妻の浮気、離婚などといった家庭崩壊につながるケースも、最近では増えているようです。

こうなると働きバチの夫族は孤独なものです。「女房も子ども、自分のことしか考えていない。家庭の平和のためにがんばってきた亭主の気持ちを、ひとつもわかってくれない」とぼやきたくもなるのです。

フーテンの寅さんなら「男はつらいものよ」と割り切って、ふらりと旅に出かけるのですが、現実の世界では、こう簡単にはいきません。

いま日本は、物質的にも豊かになり、みんな気ままな暮らしを満喫しているようです。しかし、最近の社会風潮をみますと、( ア ) ような気がしてなりません。

ことしは亭主族にとって「受難の年」だといわれても、これといった妙案は残念ながらありません。しかし、お互いに相手の立場をもう少し思いやるという、精神的にも豊かな暮らしがあってもいいのではないかと考えております。

1、文中に「苦い孤独」とあるが、その孤独は何を指すか。

A 会社をやめる家族の孤独

B 会社をやめて子会社に出向する夫の孤独

- C 家族会議を開いて結論を出さない家族の孤独
- D 家族たちには自分の苦勞がわからない夫の孤独

2、( ア )に入れるのに最も適当な言葉を選びなさい。

- A 何か大切なものを守っている
- B 自由自在な生活を送っている
- C 自由自在な生活を求めている
- D 何か大切なものを見失っている

3、この文章の内容と合っているものはどれか。

- A 家族を失った夫は精神的に孤独をかみしめている。
- B 働きバチの夫族は「男はつらいよ」と割りきって旅に出かける。
- C 最近、マスコミで家庭についての話題がよく取り上げられている。
- D いま日本人は精神的にも物質的にも豊かな暮らしを満喫している。



煦 | 和 | 日 | 語  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 14 篇

ひとに金を渡すとき、金を包むという言い方は今も残っている。そのしきたりがなおまったくなくなっているはいないからである。商売の金銭の受取は別だが、いくらかでも社交の意味が加わると、むき出しの金を渡すのは失礼になる。

冠婚葬祭に金を贈るときには包み金でなくてはならない。そのために袋を市販している。もとは半紙を折って袋にしたものだが、今はその作法を知る人は少ない。売っている袋でも安物は、開くとすぐ金が出てくる。そういうのを見ると、受け取った人は、よその家に入ったら、着物を着ない主人公が出てきたのに似たあわて方をする。もうひとつ中袋がほしい。外袋があるのだから、むき出しとは違うが、開いたら、もう一つの中袋があって、その中に金が入っている。裸の金をはばかりの気持ちはそれくらい強い。

こういう人たちの間で、あるがままのことをことばにキスを着せないで率直に述べる修辭が喜ばれないのはむしろ当然である。正確さが欠けているとって日本語は責められてきたが、お祝いに「裸の札」を差し出すのが明快であると感じる心をもつ人が大多数になるまで、仮に言いたいことがあっても、それはほかの言葉で、一重、二重と包み込む表現法がなくなることはないと考えられる。

芭蕉「いひおほせて何かある」と述べたのも、すべてを白日のもとにさらけ出してしまつては、面白さも趣きもあったものではないという日本的感情に根をもった言葉である。

人間は全裸で人前にでない、出てはいけない、とするのが文明社会の常識になっている。(ア)それが妥当なら、言葉だって、あからさまに使つては嗜みに欠け、公序良俗に反することになるはずである。

言葉にも装いがいる。着物を着せれば、本当の姿があいまいになるのはやむを得ない。日本の着物は、肉体の線を殺すようになっている。外国の衣装が体の輪郭を強調するのは対照的である。

そういう日本語があいまいになるのはむしろ当然である。明晰とははっきり「いひおほせる」ことで、美に反する。お金をむき出しにして渡そうとするのに似ている。失礼である。言いたいことがあっても、それをのっけから出してしまつては、実もふたもない。ためらい、控え、抑えて、言外ににおわす。やんわり寓するのが大人である。

自分のこと、相手のことも、外国語の多くがそうであるように、はっきり第一人称、第二人称で示せば、わかりやすい。しかし、「私は私の家へあなたがおいでくださることに当惑を感じます」などと言ったらどうであろう。着物を着せて、「わざわざおいでただただいては恐縮です」とやる。論理の線はぐつとやわらかくなり、それだけおもむきがただよう。来てほしくないのか、来てもらっては相手に悪いと思っているのか、とりようによってはどちらにもなる言い方は日本語である。

はっきりした、誤解の余地のないような言葉では、相手の気持ちにつよく当たりすぎる。傷つけるおそれもある。わざとはかして、真意をかくし、わかりづらくする。それがいいない言い方になる。日本語の敬語は、言葉を包むヴェールのような役割を果たす。

1. 文中に「冠婚葬祭に……なくてはならない」とあるが、それはなぜか。
  - A. むき出しの金を渡すのは失礼になるから
  - B. むき出しの金を渡すのは礼儀正しいから
  - C. むき出しの金を渡すのは自分が貧しいのを示すから
  - D. むき出しの金を渡すのは変なことだから
2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
  - A. しかし
  - B. もし
  - C. ただ
  - D. だから
3. 文中の「いひおほせて何かある」は何を指すか。
  - A. すべてを白日のもとにさらけ出してしまつては、面白さも趣きもあつたものではないこと
  - B. すべてを白日のもとにさらけ出してしまつては、面白さも趣きもあつたこと
  - C. すべてを白日のもとにさらけ出さなくては、面白さも趣きもあつたものではないこと
  - D. すべてを隠しては、面白さも趣きもあつたものではないこと
4. 文中に「そういう日本語があいまいになるのはむしろ当然である」とあるが、それはなぜか。
  - A. 日本人が言いたいことを率直に述べることができないから
  - B. あいまいな言葉が自分の気持ちを伝えることができるから
  - C. 日本語の敬語はあいまいの役割を果たしているから
  - D. 言いたいことをはっきり言うことは美に反して失礼なことだから
5. 文章の内容に合っていないものはどれか。
  - A. 日本語の敬語は、言葉を包むヴェールのような役割を果たす。
  - B. 日本語の敬語は、現実生活に全然役に立たない。
  - C. はっきりした、誤解の余地のないような言葉では、いつも相手を傷つけるおそれもある。
  - D. はっきりした、誤解の余地のないような言葉では、いつも相手の気持ちにつよく当たりすぎる。

## 第 15 篇

私たちの周りを見ると、物が溢れています。しかも、ビデオ、コンパクトディスク、レーザーディスク、ファミリーコンピュータ……次々と新しいものが登場してきます。「素晴らしい文明社会」といってよいでしょう。

それでは、その中で私たちは満足しているかというと、そうでもありません。もちろん人間は欲深いですから、どんなに豊富なものに囲まれても、まだまだ欲しいという面もありますが、いまの不満は量や新奇なものを欲しがるのとは少し違います。

たとえば、今では当たり前のことになりましたが、冬でもトマトやキュウリが出まわっていること。サラダの彩りとして、トマトを使うと、まわりの緑が引き立って美味しそうになりますから、いつでもトマトが手に入るのは、お料理をする人間としては嬉しいことです。

でも、私は、トマトが実をつけるには、かなりの温度、十分な太陽が必要だということを知っています。ですから、冬のトマトは、石油を燃やして温室で作っていることが分かっているので、「本物」の気がせず、ありがたいと思う一方、なんだか不満です。

台所の中にはプラスチック製品がたくさん。色とりどりできれいですし、割れなくて便利ですが、これもどこか「本物」でない気がします。

これまでに「本物」という言葉を使ってきましたが、それで本物とは何かということになります。こう考えると難しいのですが、その一つに自然をうまく利用しているもの、自然とうまく溶け合うものの場合、なんとなく安心感があるといえるのではないのでしょうか。

バイオテクノロジー(生物技术)は、そのような願望を実現しようとする技術です。私たち人間は、暮らしていくために食べ物、衣服、住居を必要とします。それらを何から作るか。食べ物はもちろん植物や動物、魚など、そのほとんどが生き物です。衣服も、麻木綿、毛織物に絹とすべて生物由来のものでした。住居さえ、日本の場合木や草、紙を使ってきたのですから、これも生物を利用してきたというわけです。

このような生物依存の生活、ついこの間まで三、四十年前ですが、それは人類の歴史の中ではこの間です——そうでした。近年、石油を材料にしたプラスチックが生まれ 合成繊維が安価で大量に生産され、化学肥料が合成されるようになり、私たちの生活は急速に生物離れしました。そのために、最初に書いたような豊かさが生まれたのは確かです。

(ア)生物離れしたためのマイナスも少なくありません。それが、やはり自然とうまくマッチした形で、できれば生物をもう少し上手に利用したほうがよいのではないかという気持ちを生んだわけです。もう一度生物技术を見直そうということです。

1. 文中の「そのような願望」とは、何を指すか。

A. 自然を利用し、自然と溶け合い安心感を得ること

- B. 冬でもトマトが豊富に食べられるようにすること
- C. プラスチック製品などをより多く生産すること
- D. 本物は何かということを明らかにすること
2. 文中に「そうでした」とあるが、何を指すか。
- A. 多くの生物に頼る生活をしていたこと
- B. プラスチックや合成繊維が高かったこと
- C. 三、四十年前はそれほど昔ではなかったこと
- D. バイオテクノロジーの実現は難しかったこと
3. 文中に「私たちの生活は急速に生物離れしました」とあるが、それはなぜか。
- A. 室内でビデオなどを楽しむことが増え、自然に接する機会が減るから
- B. 人間の暮らしがコンピューターに囲まれ、ほかの人と話せなくなるから
- C. 住居が狭くなって、自分の家で動物や植物が育てられなくなるから
- D. 石油などから作られたものが増え、生物をあまり利用しなくなるから
4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- A. しかも
- B. そこで
- C. けれども
- D. したがって
5. この文章で筆者がもっとも言いたいことは何か。
- A. 私たちの身の周りには、物が溢れている。
- B. 生物技術は人間の願望を実現できるすぐれた技術だ。
- C. 私たちの生活は急速な生物離れによって、豊かになった。
- D. 私たちはもう一度生物技術を見直すべきだ。

## 第 16 篇

最近、さまざまな国や地域との交流が盛んになり、異文化を体験する機会もふえていますが、異文化を体験するということは、本質的には、いったいどういうことなのでしょう。

一つには、異質な空間と時間を体験するということが挙げられます。異質な空間という意味については、私たちのいる空間と文化の空間が違うのは当たり前のことですから、容易に理解できるでしょうが、異質な時間というのは、時差の認識や感覚に違う面があることを意味します。

ここでは、異質な時間の例として、「夕刻」という時間について考えてみます。夕刻という時間は、一日の中で昼は終わったが、まだ夜にはならない狭間であり、一種の境界である時間です。そして、それは、仕事と憩いの、公と私の境目の時間にも当たります。例えばヨーロッパのホテルでは、夕刻になると、ロビーなどでピアノが演奏されるゆったりとした時間を設け、うまく間を持たせて夕食に繋げる工夫をしているところがあります。またアジアでは、仕事を終えた人々が、夕食の始まる前にお寺に行き、花や水を供えるところがあります。これらの夕刻のひとつときに接すると、何かほっとするものを感じます。

それに対して、現代の私たちの社会では、休みなく続く日常の仕事の時間が全体を覆っており、朝起きてから夜寝るまで、境界の時間はほとんどありません。結局、日常の時間の流れに裂け目を作る装置がないために、ゆとりのない社会になってしまっています。( ア )、ヨーロッパのホテルやアジアの社会で、夕刻のゆったりとした時間を過ごしたり、公と私の境目の時間に出会ったりすると、何かほっとした充実した気持ちになるのです。つまり、私たちは、異質な時間に接することで、日常の仕事の時間に支配されてしまっている時間を見直すことができ、緊張した心が穏やかになるのです。日本でも、以前には生活の中に境界の時間に当たるものが組み込まれていたのですが、近代化と都市化の過程で、ほとんど失われてしまいました。いまでは、私たちの文化になくなってしまったものを、境界の時間のように、異文化の中に見つけ出すことがあります。

異文化を体験することの意義は、このように、私たちの文化になくなってしまったものを発見して、それがどうしてなくなってしまったんだろうと改めて考えさせずにはおかないところ、つまり、私たちの文化を見直す機会を与えてくれるところにあります。異文化と出会い、私たちの文化を捉え直す中で、私たちの生きる意味も発見できるのではないのでしょうか。

1. 文中の「夕刻」の意味に合わないものはどれか。

- A. 「夕刻」は一種の時間の境目だ。
- B. 「夕刻」は昼と夜の間の狭間だ。
- C. 「夕刻」は仕事と休憩の分かれ目だ。
- D. 「夕刻」は自国の文化と異国の文化の境界だ。

2. 文中に「現代の私たちの社会」とあるが、それは何を指すか。



- A. 異国との文化交流に忙しい社会
  - B. 異文化に対抗しようとする社会
  - C. 公と私の時間の境界がない社会
  - D. 異質な時間を作ろうとする社会
3. 文中の「日常の時間の流れに裂け目を作る」とは、どのようなものか。
- A. 公と私の時間をはつきりさせる。
  - B. 夕刻のゆったりとした時間を作る。
  - C. 異質な時間に接する機会を提供する。
  - D. 音楽や花などを楽しむ雰囲気を作る。
4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- A. たとえ
  - B. だから
  - C. さらに
  - D. または
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
- A. 公と私の時間の境界がないところに、異文化を考えていく意義がある。
  - B. 異質な空間と時間を体験するところに、ゆったりとした時間を作る意義がある。
  - C. ヨーロッパのホテルのように、ゆったりとした時間を作るところに意義がある。
  - D. 私たちの文化を見直す機会を与えてくれるところに、異文化を体験することの意義がある。

## 第 17 篇

社会へ出て仕事をする事と、家にいて育児や家事をする事と、どちらが尊いであろうか。

世の男性の多くは大昔から今日にいたるまで、仕事の方が高級だと思い続けてきたようである。

(ア)、仕事は収入や権力や名誉をもたらしてくれる。それに対して、育児や家事は、いくら懸命にやっても、お金にはならないし、だれからも評価されないからだ。

このような価値観は当然、家庭を守る女性に対する悔りを生む。今でも、自分の収入を武器に、「だれのおかげで生活できると思ってるんだ」と妻に圧力をかける夫は何と多いことか。男女差別のそもそもの原因はこの価値観にあるのではないかと私などは思う。だが、本当に育児や家事は仕事よりも価値のないものだろうか。私は、育児や家事も仕事同様になくってはならぬものであり、両者の価値は等しいと思っている。仕事のもたらす収入、権力、名誉などが、育児や家事のもたらす温かい人間関係よりも価値のあるものだりはすっかり思わない。

職業に貴賤はないという。それには異論はないが、人々にとってどうしても必要な職業と、なくてもそれほど困らない職業とがあることも事実である。この必要性という点で分類すれば、育児は間違いなく、トップクラスに入る「職業」である。乳幼児期の教育が赤ん坊の一生を大きく左右することは、心理学などによってすでに十分証明されている。赤ん坊が善良な心をもって幸福な人生を歩むか、邪悪な心をもって不幸な人生を歩むかは、母親の育て方による、とまで主張する人も少なくない。

家事もまた温かい家庭を築くためにはなくてはならないものだと思う。たとえば、子供の健康や好みを考えた手料理を毎日食べている子供と、インスタント食品ばかり食べさせている子供とでは、身心の発育の面で大きな差が出るはずである。また、いつも家の中が整理整頓されていれば、それだけで家族は毎日を気持ちよく過ごせるだろう。

現在、日本では、男女平等が実現しつつある。これまで男性が独占していた職場にも女性がどんどん進出している。男性を部下にもつ女性もすいぶん増えてきた。企業や男性も、女性が働きやすくなるように職場や家庭で少しずつ協力を始めた。女性にも平等に機会が与えられるというのはたいへんいいことである。

1. 文中の「それ」は何を指すか。

- A. 家にいて育児や家事をすること
- B. 仕事は収入や権力や名誉をもたらすこと
- C. 家庭を守ること
- D. 社会へ出て仕事をする事

2. 文中に「このような価値観は……悔りを生む」とあるが、それはなぜか。

- A. 育児や家事は、いくら懸命にやっても、お金にはならないから
- B. 仕事は育児や家事よりも価値があるから

- C. 育児や家事も仕事同様になくってはならぬものであり、両者の価値は等しいから
- D. 男性が職場を独占していたから
3. 文中に「乳幼児期の教育が赤ん坊の一生を大きく左右すること」とあるが、それはなぜか。
- A. 赤ん坊がどんな心をもって人生を歩むかは母親の育て方によるから
- B. 赤ん坊がよく食べるといい体になるから
- C. 赤ん坊が暖かい家庭で育つと立派な人になるから
- D. 赤ん坊が栄養バランスに食べないと体によくないから
4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- A. なぜならば
- B. だから
- C. さらに
- D. または
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
- A. 日本では、これまで男性が職場を独占していた。
- B. 今日は家にて育児や家事より仕事の方が高級だ。
- C. 今日は仕事より家にいて育児や家事の方が高級だ。
- D. 今日は女性にも平等に機会が与えられる。

## 第 18 篇

地球に大量にある空気は、地球にもともとあったものではないのです。また雨や川や海という大量の水もありませんでした。これらがどうして地球にあるようになったのかは、しばらく前までは謎でした。

一つの説は、宇宙空間にあるガスが地球の引力に捕まって地球の空気になったというものでした。空気のような軽いものにも引力は働きます。薄いながら宇宙空間にガスはあるので、これは一番ありそうな説でした。しかし宇宙空間のガスの成分を調べると地球の空気とは全く違うもので、これでは今の空気の説明はつきません。

宇宙空間からのものではなかったら、地球の空気はどこから来たのでしょうか。それは地球の中から出てきたものに違いありません。

火山が原因だという説もありました。いま現在地球の中から出てきているガスとしては火山からのガスがあります。火山からはガスも水蒸気も大量に出てきています。成分からいえば火山ガスは空気と似ています。だから地球の空気も水もすべて火山から出てきたに違いないという説があったのです。

(ア)、この説には難点がありました。それはガスが出てきた時間の長さでした。もし火山から地球のすべての空気や水が出てきたとしたら、火山は何十億年もの長い間かかって少しずつ地球の空気と水をつくっていったはずなのです。なぜなら地球上で火山がある場所はごく限られていますし、火山の数もそれほど多くはありません。だから地球上のすべての空気と水が火山から出てくることは、あまりに大量すぎて短い間には不可能だったのです。(中略)

火山が起源だという説はこうして消え、結局、地球が生まれてから二、三億年以内というごく初めのころから大量のガスと水蒸気とをもっていたに違いないということになりました。しかしどのように空気が生まれたのかは、まだはっきりわかっているわけではありません。地球がつくられていったときに星くずが激しく衝突して、ガスや水蒸気を吐きだしたり、地球がいったん溶けていた時代に、地球をつくった材料だった隕石の中に少しずつ含まれていたガスや水蒸気が吐き出されたものだと考えられています。

1. 文中に「火山が原因だ」とあるが、その説明として、文中に合っているものはどれか。

- A. 星くずや隕石は地球と似ているから
- B. 現在も火山からガスが出ているから
- C. 火山ガスは空気と似ているから
- D. 宇宙空間のガスは薄いから

2. 火山について、この文章の内容に合っているものはどれか。

- A. 火山は地球上のたくさんの場所にある。
- B. 火山の数は地球上に非常に多い。
- C. 火山からはガスも水蒸気も出てくる。

- D. 空気や水を作るために火山から短い間にたくさんのガスや水蒸気が出てくる。
3. この文章では空気についてのいろいろな説をどのような順番で説明しているか。
- A. 火山説—宇宙空間説—星くず・隕石説
  - B. 宇宙空間説—火山説—星くず・隕石説
  - C. 宇宙空間説—星くず・隕石説—火山説
  - D. 星くず・隕石説—宇宙空間説—火山説
4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- A. だから
  - B. しかし
  - C. なので
  - D. ながら
5. 空気の起源についてどう考えられているか。
- A. 火山から出てきた水蒸気が地球上の空気になった。
  - B. 星くずや隕石がガスを吐き出して空気が生まれた。
  - C. 火山が吐き出したガスが地球上の空気になった。
  - D. 宇宙空間にあるガスが地球の引力で空気になった。

## 第 19 篇

日本語のクラスでは、相手の話に同意する時は「はい」を使い、同意しない時や反対する時には「いいえ」を使うと習う。ところが、実際にはごく限られたシチュエーション(場合)でしか日本人の口から「いいえ」という言葉を聞かない。「アメリカの独立記念日は七月五日ですか」とか「山田さんはまだ東京にいますか」というような事実確認のための質問には、「いいえ」を使って答えを言うことが可能である。また、「英語がとてもお上手ですね」とか「奥さんは料理にかけてはホテルのコックにも劣らないくらいですれ」とか言われて、「いいえ、まだです」とか「いいえ、家内の料理はお客さんに出せるようなものではありませんとか謙遜の気持ちを込めて使う場合には問題がない。

(ア)、自分の意志、判断、価値観などについて質問された時にどうなるであろうか。例えば、次の月曜日までに部長に二つのレポートを出さなければならないサラリーマンが、「今度の土曜日にみんなで花見に行きませんか」と誘われた場合に何と言うであろうか。[いいえ、レポートを二つ書かなければならないので行けません]とは決して言わないだろう。たぶん「土曜日はちよつと……」とか、「是非行きたいですれえ。でもちよつと用事があつて……」とか、「土曜日ですかあ。土曜日は先約がありますから残念ながら……」など、「いいえ」を使わないで、ほかの表現で断るであろう。

また、誰かが意見を述べ、それについて考えを聞かれ、全く反対の考えを持っている場合、例えば、「田中さんは来年四月からニューヨークにオフィスを開くべきだという意見ですが、その考えに賛成ですか」と聞かれ、自分はニューヨークで仕事を始めるべきではないという考えを持っている場合、どう答えるだろうか。「いいえ、私は田中さんの考えに反対です」と言う人はまずいないだろう。「田中さんのお考えもよくわかります。しかし……」とか、「確かにそうかもしれませんれえ。でも見方を変えてみますと……」のように直接田中さんの考えに反対するということを行わず、「いいえ」を用いることを避け、異なる表現を用いて反対の意見を述べることが多い。つまり、できるだけ「いいえ」を使用せずにほかの言い方で「いいえ」という気持ちを伝えようとしているわけだ。英語の「No」と同じ意味で「いいえ」を使うと人間関係がスムーズにいかなくなる恐れがあるから十分気をつけなければならない。

1. 文中の(ア)に入れる適切な言葉はどれか。

- A. しかし
- B. だから
- C. なぜなら
- D. ならびに

2. 文中の「まず」はどういう意味か。

- A. 最初に
- B. 何はともあれ
- C. 多分

D. まずまず

3. 文中に「異なる表現」とあるが、それはどういうことか。

A. 賛成の意見と違う表現

B. 反対の意見と違う表現

C. 「いいえ」と同じではない表現

D. 「いいえ」という気持ちと同じではない表現

4. この文章で筆者がもっとも言いたいことは何か。

A. 自分の意志、判断、価値観などについて質問された時に、「いいえ」を使わない。

B. 日本人は「いいえ」を使用せずに、ほかの言い方で「いいえ」という気持ちを伝えようとしている。

C. 日本では、相手の話に同意する時は「はい」を使い、同意しない時や反対する時には「いいえ」を使う。

D. 「いいえ」を使うと人間関係がスムーズにいかなくなる恐れがあるから、気をつけなければならない。

5. この文章に題目をつけるとしたら、もっともふさわしいものはどれか。

A. 「いいえ」の使い方

B. 「はい」の使い方

C. 日本語の使い方

D. 「ながら」の使い方



煦和日语  
クワニホンゴ



## 第 20 篇

読書というのはまことに不思議な習慣で、同じ親から生まれ同じ環境であった兄弟の中でも、本を好む者と好まない者とが出てくる。私は少年の時分から、兄弟の中でただ一人猛烈な読書好きになった。同じ環境に育ちながらどうしてこの違いが生じたのか、思えばまことに不思議である。

たぶん、少年時代のある時期に、本を読むということがいかに大きな快樂の種であるかを知ったのが、その始まりだったのではあるまいか。縁側に寝そべって借りてきた本に読みふけるとほかのことはすべて忘れて架空の世界に遊ぶことができ、これが実にぞくぞくするほどの楽しさだったのである。本を読まない人は、おそらく子どもの時分にこういうぞくぞくする楽しさを味わわなかったのにちがいない。一度でもその味を知ったらもうこれから逃れられなくなるのだから。

さて、私がそんな少年の日の読書体験の話をしたのは、現代の若者の場合はどうかと考えるからである。若者が本を読まなくなったと言われだして久しいが、むろん、彼らとて全然本を読まないのではあるまい。学校の教科書に出てくる文例やそれに関連する図書はだれもが読んだにちがいない。しかし、それが彼らに読書の習慣をつけなかったとしたら、考えられる理由はただ一つ、彼らはついに本を読むことで与えられるあのぞくぞくするような楽しさを体験しなかったのだろう。

私は電車の中でマンガ本に読みふける若者を見るたびに、もったいないことだ、という気がしてならない。若い時というのは頭が最も柔軟な時である。旺盛な好奇心をもってどんな難解な書物にでも取り組み、古今の天才たちの思考や想像に接して、頭脳のレッスンをすべきだ、というのが私の考えである。事実、私の経験では若い時は十分にたえられるし、若い時にしたそういうレッスンは後の人生において必ず役に立った。

人間が物を考えるのは必ず言葉によってだ。言葉を媒介せずに物を考えることはできない。そしてその言葉と、物の考え方、論理、思考法を学ぶのは、ただ読書によってのみ可能である。だから、読書しない者は、自分で考えるということはできるはずがないのである。それを、そういうかたい本を読むのをきらって、マンガのような抵抗のない刺激だけのものばかり見ていたのでは、君らはいったいどうやって(ア)を養うんだ、と私は彼らを見るたびに言いたくなるのだ。また、本を読む若者でも、自分のフィーリング(口味)に合ったものしか読まないと当たり前のように言うが、そういう抵抗のない読書だけでは、やはり自分の知らぬ世界に、近づく機会はないだろう。

1. 文中「その始まりだった」とあるが、何の始まりか。

- A. 少年時代の始まり
- B. 本を読む始まり
- C. 読書が大きな快樂の種であることがわかる始まり
- D. 読書を好む始まり

2. 文中の(ア)に入れるものはどれか。

- A. 読書の正しい習慣
  - B. 漫画を抵抗する力
  - C. 自分で物を考える力
  - D. 物の考え方
3. 文中の「抵抗のない読書」とあるが、次のどれが「抵抗のある読書」か。
- A. 教科書に関連する図書を読むこと
  - B. 漫画本を読むこと
  - C. 教科書を読むこと
  - D. 自分のフィーリングに合わないものを読むこと
4. 読書はなぜそんなに重要なのか。
- A. 若い時に読んだ本は後の人生において必ず役に立ったから
  - B. 面白い漫画本を読むことが大きな快樂の種であるから
  - C. 難解な書物も教科書も漫画本も読むと、自分の視野を広げることができるから
  - D. 本に読みふけると、ぞくぞくする楽しさを味わうことができるから
5. この文章で筆者が最も言いたいことは何か。
- A. 若い時、読書という習慣をつけることが非常に大切である。
  - B. 本を読むということがとても楽しいことである。
  - C. 現代の若者は学校の教科書のほかに、いろいろな本を読んだほうがいい。
  - D. 物の考え方、論理、思考法などを学ぶのは、ただ読書によってのみ可能である。

## 第 21 篇

この三年ほどをかけて、東京新宿のデパートで販売員の社員研究をしました。社員教育といっても、販売員の場合は、研究室にひきこもって、勉強や練習をしているだけでは、意味がありません。現場、すなわち売り場に立って、お客様とのやりとりを重ねる中で、実地に研究していかなければなりません。

その中で気遣いたのが、販売員のお客様との距離の問題です。あるネクタイ売り場に 40 代ぐらいの男性が、一人すたすたとまっすぐな一直線の動線絵を描いては入ってきました。歩き方のスピードは街中よりはおそいものの、デパート内買物の場面としては、速い方です。視線がショーケースの上に陳列してあった数本のネクタイのうち、真中当たりのものに止まりました。その瞬間、ぐっと近寄った販売員が間髪を入れずに「いらつしやいませ、いかがですか。そちら今年流行の柄です。」と声を掛けました。

(ア)、この男性客はまるで販売員の言葉を無視するかのように、何と逆の方向へ歩き出してしまったのです。これが客を追い払う、いわゆる「客追い動作」と呼ばれるものです。

販売員がせっかくのチャンスを逃してしまった主な原因は何だったのでしょうか。

その答えが、販売員の対人距離のパフォーマンスの失敗なのです。つまり、失敗の第一の理由は距離の接近の行きすぎにあります。(中略) 私たちはみな見知らぬ他人に対してこの範囲内までは近寄らないでほしいと言う「最小限の私的空間」というものをもって印しますから、その範囲をこえて見知らぬ人が侵入してくることに對して、回避の衝動が発生するわけです。これはもちろんその人の属する文化による違いがあり、さらに個人差もあって、かなり複雑です。

欧米での調査結果では約 3 メートルにまで及ぶこの距離は、私が 1985 年から取り続けている日本人対象の実験データでは、1.2 メートルぐらいでした。これはつまり、平均的な大人ならば、お互いに少し手を伸ばすと相手に触れることが可能な距離です。だからこそ、そこまで他人に出しぬけに近寄られると、お客様は逃げてしまうわけです。

もちろん、数回会って、すでに顔見知りになっている人と友人、恋人はこの限りにあらずです。

1. 文中に「対人距離のパフォーマンスの失敗」とあるが、なぜ失敗するのか

- A. 客を追い払う動作をするから
- B. チャンスをつかまなかったから
- C. 客との距離が遠いから
- D. 客との距離が近すぎるから

2. 文中に「かなり複雑です」とあるが、何が複雑なのか。

- A. その人の属する文化
- B. 客追い動作
- C. 最小限の私的空間の範囲
- D. 販売員の対人距離

3. 文中の「この距離」とは、どんな距離か。
- A. 手を伸ばすと相手に触れる距離
  - B. 販売員と客の距離
  - C. 最小限の私的空間の距離
  - D. 友人と恋人との距離
4. 文中の（ ア ）に入れるものはどれか。
- A. すると
  - B. ところで
  - C. つまり
  - D. そして
5. この文章で筆者が一番言いたいことはどれか。
- A. 販売員が商品を売るとき、客との距離の接近の行き過ぎしないほうがいい。
  - B. デパートでは社員研修をもとにして、客と販売員の距離の勉強をするべきだ。
  - C. 販売員と客の例のように、他人に接する時は相手との距離に注意しなければならない。
  - D. だれでも対人距離についての知識を習得したほうがいい。

## 第 22 篇

ニホンウナギの稚魚、シラスウナギの漁期は 4 月末で終わる。今年の歴史的な不漁は避けようもない。

親ウナギを含む過剰な漁獲の他、ウナギの生息環境の悪化、海洋環境の変動が理由である。不漁の要因を徹底的に分析して対策を講じ、資源回復を急がねばならない。

( ア )、密漁を含む乱獲防止は喫緊の課題である。

シラスは毎年 12 月から翌年 4 月までの漁期、特に新月の夜に、河川や海岸線で小型の定置網や網を使って採捕される。長さ 6 センチ、重さは約 0.2 グラム、ごく少量の水があれば簡単に持ち運べる。そのため個人で漁を営む者が多い。

採捕者には登録と報告が義務づけられている。( イ )、採捕した量や場所の特定をさけるため報告を怠る者も少なくない。水産庁や関係自治体、警察などには強い姿勢での対応を求めたい。

捕ったシラスは集荷業者に集められ、複数の業者の手を経て、養鰻業者に供給される。多段階の流通経路と供給不足のため、高騰する売買価格が乱獲、密漁の原因ともなっている。

養鰻業者には許可証を持つ者以外からのシラスを入手しないよう指導を強化すべきだ。密漁、密輸防止には、採捕量と養鰻業者の池に入れる量の徹底した管理が不可欠だ。反社会的勢力もからむ複雑な流通経路にメスを入れたい。

世界最大のウナギ消費国、日本はウナギの輸入大国でもある。その年によって変動があるシラスの国内採捕量を輸入で補い、成魚やかば焼きなどの製品までを海外に頼ってきた。改めて中国、韓国との連携を強化して、資源管理に乗り出さねばならない。

シラスの資源保護には、親ウナギを守ることも重要である。いかに生息環境を整えるか禁漁期間の設置も考える必要がある。

今年は東アジア一帯が記録的な不漁に終わった。海流の変化をはじめ自然条件への対応に、海洋学などとの連携は欠かせない。

手をこまねいていれば、来年開かれるワシントン条約締約国会議で国際取引を制限する対象となろう。ウナギ消費大国は厳しい状況を迎えかねない。資源保護の観点からは取引制限も視野にいれるべきだろう。

クロマグロもそうだが、大量消費を考え直し、資源の回復に努めるときではないのか。

1. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

- |         |        |
|---------|--------|
| A. とりわけ | B. だから |
| C. そして  | D. ただし |

2. 文中の( イ )に入れるものはどれか。

- |         |         |
|---------|---------|
| A. すなわち | B. ところが |
|---------|---------|

C. そこで

D. そのため

3. 乱獲、密漁を防止するために、何が必要ではないのか。

A. 養鰻業者には許可証を持つ者しかシラスを入手できないことの指導を強める。

B. 中国、韓国との連携を強化して、資源管理に乗り出さねばならない。

C. 採捕量や養鰻業者の池に入れる量の面で管理を強化する。

D. 不法な流通経路に手段をとって治理する。

4. 文中の「そう」は何を指すか。

A. 国際取引の制限対象であること

B. 厳しい状況を迎えないこと

C. シラスと同じ状況になること

D. 大量消費を考え直すこと

5. この文章の内容に合わないものはどれか。

A. 個人でシラスを採捕する者が多いのは、シラスが小さくて軽い、ごく少量の水があれば簡単に持ち運べるからだ。

B. 多段階の流通経路と供給不足は高騰する売買価格の原因となっている。

C. 世界最大のウナギ消費国日本は、ウナギとその製品を中国や韓国などに輸入することもある。

D. シラスの資源を保護するために、親ウナギを守ることがもっとも重要なことである。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 23 篇

「ああ昭和 食えない食える 食い飽きる」。平成 17 年の本紙「テーマ川柳」欄に載った句で、昭和時代における国民の食生活の激変ぶりを、動詞の活用をなぞるような形で見事に捉えている。

ことほどさように昭和は、歴史上まれにみる激動の連続だった。これほど明確に印象づけられた時代がかつてあっただろうか。

昭和の幕開け早々には世界恐慌に直撃され、( ア )戦時色を強めながら先の大戦へと突入し、敗戦に至る。戦後の荒廃と窮乏からみるみる復興を果たすと、高度経済成長によって世界有数の経済大国へと発展した。「昭和元禄」の呼び名に象徴されるような平和と繁栄を享受したのである。

昭和天皇の崩御で平成を迎え、30 年がたった。昭和以前の生まれはおよそ 4 人に 3 人となったが、その人たちが今でも特別の感慨をもって昭和時代を語るのは、戦争による甚大な犠牲や戦後の国民の努力が現在の日本の礎となっているからに違いない。

「昭和の日」には、あらためてそのことを深く胸に刻みたい。

( イ )、昭和が遠ざかっていく寂しさを感じることも多いのではなかろうか。来年 4 月 30 日の天皇陛下の譲位に続き、5 月 1 日には皇太子さまが即位され、平成に代わる新しい元号が始まる。昭和への郷愁がいやがうえにも増し、あの時代の空気を今一度吸ってみたいとの思いにも駆られよう。

町の路地には子供らの遊ぶ声が響き、ときに近所のおじさんの厳しくも優しい一喝が交じったりした。漫画のサザエさんの世界のように近隣が助け合い、地域で子供を見守る温かさがあった。家庭内では、ちやぶ台を囲んでの団欒の光景がごく普通にみられた。

たとえ時代が移り、生活スタイルが変わろうとも、昭和時代の温もりは懐古や郷愁を超えていつまでも大切にしたいものである。

戦後の復興、高度成長とともに歩んできた団塊の世代の誰もがまもなく 70 歳代となり、新しい元号の時代は彼らの孫の世代も加わって創造していくことになる。

物心ともに豊かな日本であり続けたいと、夢や期待が日一日と膨らむこの頃である。そんな次代への教訓とするためにも激動の昭和を生きた人たちはぜひ、昭和という時代の句いや悲喜こもごもの経験、さまざまな意義を、後の世代に伝え続けてほしい。

1. 文中に「昭和時代における国民の食生活の激変」とあるが、それはなぜか。
  - A. 昭和時代は歴史上に珍しい激動の連続であったから
  - B. 日本は戦後の貧乏から高度経済成長によって世界的経済大国になったから
  - C. 昭和時代の日本は戦争の雰囲気が強くて、大戦へ突入し、敗戦に至るから
  - D. 昭和のはじめに日本は世界的な恐慌に直撃されたから
2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
  - A. それにしても



- B. しだいに  
C. やがて  
D. なんと
3. 文中の「そのこと」は何を指すか。
- A. 昭和以前に生まれた人は今 4 人の中で 3 人が特別な感慨を持っている。  
B. 昭和時代以来 30 年も経ったが、その時の国民の頑張った姿はまだ心に残っている。  
C. 戦争による甚大な犠牲や戦後の国民の努力で今の盛んに発展している日本がある。  
D. 昭和が遠さかっていくのは少し寂しいという感じを心に持っている。
4. 文中の( イ )に入れるものはどれか。
- A. または  
B. なぜなら  
C. たしかに  
D. 一方で
5. この文章で筆者がもっとも言いたいことはどれか。
- A. 荒廃と窮乏を乗り越えて経済の復興と発展を果たした昭和時代の国民のやったことに感謝の気持ちを持つべきだ。  
B. 今の時代でも昭和時代のようにいつまでも大切にしたいものを持つべきだ。  
C. 物心ともに豊かな日本であり続けたいの今では、昭和時代の精神を貫くべきだ。  
D. 困難に負けず、自分の力で夢を叶う昭和時代の人たちの精神やその時代の意義を伝え続けるべきだ。



## 第 24 篇

日本では、漫画映画の場合、脚本家を立ててそれに優先させて企画を進めるのは、意味がなくなってしまうことが多いんです。メインスタッフは、中心人物である監督が何を作りたいのかが決まるまで待っていないといけない。(ア)、海外では日本と事情が逆で短編ならいざ知らず、長編を一人で作することは不可能だと最初から考える。だから、まず企画を十分に議論して、テーマを決める。次に、作る作品の概要が決まったところで、皆がそれぞれの分野に分かれて作業を開始する。非常に合理的なんです。これは作り方の違いであつて、どちらが正しいということではないですよ。ただ、どうしてこういう違いが生まれるのか疑問でした。

(中略)

海外の場合、たとえば教会を作るとして最初は空から見た視点で全体の形を考えるんです。教会だったら、十字架ですね。その全体を考えてから、部分を作っていく。ところが、日本では江戸時代の武家屋敷がいい例なんだが、全体の設計図はないのです。まず、一つの部屋から考え始める床の間を最初に作るとします。さらに、その床柱をどうするか。棚はどう付けるかといった部分的な装飾やデザインから始めるのですよ。それを作っているときには、全体のことなんて何も考えていない。一つの部屋が完成すると、その横の部屋をどう作るか考え始める。つまり「建て増し」の発想なんです。だから、昔の日本家屋は空から見るとデコボコ(凹凸不平)なんです。日本の建築の大きな特徴として「尺」という測り方がありますね。押入れ(壁橱)だと縦が三尺、横が六尺、これが畳の大きさにもなる。それが全ての基本になってできているから、設計図がいらないんです。つまり、海外が「全体から部分へ」だとしたら、日本は「部分から全体へ」であると加藤さんは言っているんですね。

このことを人間に当てはめる(適用)と、外国人には特徴が三つあるとも言っています。外国人は観念的で、体系的で、理性的であると。日本人は逆で、まず実践的、そして非体系的、感性的であると加藤さんは言うんです。

- 文中の(ア)に入れるものはどれか。
  - また
  - 一方
  - 結局
  - そこで
- 文中の「こういう違い」とは、どういう違いか。
  - 海外では日本と事情が逆で、合理的な作業をしている。
  - 海外と日本はものを作る順番が違った。
  - 一人で漫画映画が作れることを信じるかどうか。
  - 脚本家と企画とどちらを中心としているかの違い。
- 文中の「『建て増し』の発想」は、何を指すか。
  - 作り終わった部屋に新しい部屋を建て加えること

- B. 部屋の全体を作ったあと、装飾物を作り始めること
  - C. 一つの部屋を多くの部屋に改造すること
  - D. 全体のことを考えずに、ただ部屋を建て続けること
4. 文中に「昔の日本家屋は空から見るとデコボコなんです」とあるが、それはなぜか。
- A. 一つの部屋から考え始める床の間を最初に作るから
  - B. 部分的な装飾やデザインを作っている時に、全体のことを考えないから
  - C. 部屋を作るのは別々で、一つが完成してから、その横の部屋を考えるから
  - D. 設計図がなくて、どんな部屋を作っても「尺」に頼るだけだから
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
- A. 日本では、漫画映画の場合、テーマを決めることを重視していない。
  - B. 日本人は部屋を作る時、全体の設計を考えながら、部分を作っていく。
  - C. 海外には「尺」という測り方がないから、設計図が必要となる。
  - D. 日本人は計画を立てることより、実践の方が大事だと思う。

## 第 25 篇

「AI が発展すると人間は必要なくなる」AI が人間の代わりに仕事をする時代が来る」など、人工知能に関する技術の発展とともに、仕事に関する影響への不安や心配をよく耳にするようになりました。現在、AI が社会に大きな影響をもたらすことで、これまでの仕事はなくなるのか、なくなるのかその議論は尽きることはありません。

実は、複合的な知性や複雑な判断が要求される仕事、あるいは型にとらわれないような仕事は AI に代替されにくいと考えられます。芸術、考古学、哲学のような抽象的な概念の理解が求められる仕事が含まれるのは、AI が概念を理解することが非常に困難という予測が関係しているのでしょう。専門的なコミュニケーションや交渉が求められる場合も同じです。( ア )、AI が人間の感情や発言の深い意味まで想定することができないから、そのような仕事をする可能性は低いだろうと推測できます。

一方、A の発展によって、新しく生まれる仕事も少なくない。例えば、散歩や会話の相手をする仕事も新たな仕事として生まれてきます。それは高齢化と A の普及によって生じたのです。今後 AI が医学分野に活かされるようになると、バイオテクノロジーの進歩はより一層加速します。そうなったときに、人間はかつてないほどに長生きすることができるようになり、高齢者が増えます。増えた高齢者に対して、一緒に歩いたり、話し相手になる人が必要になるのです。また、AI が普及することによって人と人とが触れ合う機会自体が減る可能性があり、高齢者以外であってもコミュニケーションを必要とする人が出てくるかもしれません。

AI に代替される可能性の高い仕事をしている人たちは、改めて今後のキャリアを考えたほうがいいです。新しいことにチャレンジして、自分なりの道を開いてみましょう。

1. 文中に「型にとらわれないような仕事」とあるが、どのような仕事を指すか。

- A. 工場で不良品をチェックする仕事
- B. 人の相手をして悩みの相談に関する仕事
- C. 指定された簡単な図を描く仕事
- D. 汚いところを自動的に掃除する仕事

2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

- A. つまり
- B. ところが
- C. その上
- D. 確かに

3. 文中の「それ」は、何を指すか。

- A. AI の発展によって多くの新しい仕事が生まれてきた。
- B. AI の発展によってコミュニケーションはより一層必要になる。

- C. 高齢化や AI の普及によって、散歩や会話の相手をする仕事も生まれてくる。
- D. 高齢化や AI の普及によって、バイオテクノロジーの進歩はより一層加速する。
4. 文中に「AI が普及することによって人と人との触れ合う機会自体が減る可能性がある」とあるが、それはなぜか。
- A. AI は人間の代わりに仕事をして、多くの人は失業で家に引きこもるから
- B. AI は人間の代わりに多くの仕事をして、人はいろんな場所で機械としか向き合わないから
- C. AI によって高齢者が増える一方で、みんなは行動不便であまり外出しないから
- D. AI の発展によって、人はネットで交流するだけで、会う機会がなくなるから
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
- A. AI に代替されないように、今は AI に関する知識を学ばなければならない。
- B. AI は急速に発展しているが、出来ない仕事はないわけではない。
- C. AI と人間は対立関係で、複雑な仕事は人間がやって、簡単な仕事は AI に任せる。
- D. AI に負けないように、自分しかできない仕事を見つけなければならない。



煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 26 篇

「勤勉こそ美德である」という言葉は、21 世紀には死語(不用的语言)にしたい。「心豊か生きることこそ美德である」という言葉をそれに代えたい。

これまで日本人はよく働く国民であると世界的に評価されてきた。ところが、最近は事情がだいぶ変わってきた。働くことだけに一生を費やしてしまう日本人は「働きばち」と喻えられ、非難の対象にさえなっている。もちろん、「働きばち」にも言いわけがないわけではない。狭い国土、高い人口密度、乏しい地下資源。日本という国が生き延びていくには、とにかく働くしかなかったのである。これを支えてきたのは勤勉以外の何ものでもない。

( ア )、そうは言っても、世の中というのは常に動いている。20 世紀の日本と 21 世紀の日本が同じはずはない。勤勉さのおかげで物質的に恵まれた日本は、そのことを土台にして新しい方向へと進んでいかなければならない。働きさえすれば後はどうでもいいという思想も改めなければならぬ。たとえば、過労死の問題。人間は生きるために働くべきなのに、働いたために死んでしまう人がいる。何かを変えなければならぬ時に来ているのである。そこで考えられるものの一つがコンピューターである。コンピューターという言葉を知っただけで何か難しい、面倒くさいというイメージを持つ人がいるが、そういう人に会って話を聞いてみると、たいていこれまでの考え方を変えずにコンピューターを頭から嫌っている。

これまでの考え方というのは、もちろん「勤勉こそ美德である」という考え方である。なぜコンピューターを使うのか、その最も大事なところがきちんと理解されていない場合が多い。つまり、仕事をこれまでよりもたくさんするためにコンピューターを使うのだと考えている。しかし、これは大きな間違いである。間違いと言って悪ければ、改めるべき習性と言ってもいいかもしれない。

私は長年、コンピューターの開発に努めてきたが、使う人の仕事量を増やすために開発を急いできたのではない。まったくその逆である。少しでも皆の仕事量を減らそうと思って努力してきたのである。コンピューターの最大の利点は仕事にかかる時間を短縮するということである。たとえば、これまで二日かかった仕事が、コンピューターのおかげで 2 時間ですんでしまう。利用者はこの点をもっとよく考えてほしい。あとの時間はすべて遊べとは言わないが、少なくとも何時間かは仕事以外のことに使えるはずである。その何時間かをいかに豊かに使うかに、これからの日本がかかっていると言っても過言ではないのである。

1. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

- A. まして      B. そこで      C. すると      D. しかし

2. 文中の「新しい方向」とは、どういう意味か。

- A. 日本という国が生き延びるように一生懸命働くこと  
B. 日本人の美德としての勤勉さを大事にすること

- C. 仕事以外のことを考えないという思想を改めること
- D. 「働きばち」のように仕事に一生を費やし身を捧げること
3. 文中の「改めるべき習性」とは、どういう意味か。
- A. コンピューターの便利さがまだ理解されていないこと
- B. 大事な仕事をコンピューターに任せること
- C. 仕事にコンピューターを使わないこと
- D. コンピューターを使って仕事量が逆に増えること
4. 文中の「この点」は、何を指すか。
- A. 仕事以外の時間は遊ばなければならないこと
- B. コンピューターのおかげで仕事にかかる時間が減ること
- C. コンピューターのせいで仕事量を増やさなければならないこと
- D. 仕事量を減らすためにコンピューターを開発すること
5. 筆者がもっとも言いたいことは何か。
- A. 今までの日本人のように一生懸命仕事をすればいい。
- B. 仕事にもっとコンピューターを使わなければならない。
- C. 「勤勉こそ美德である」という言葉はもう時代遅れで、死語にすべきである。
- D. 仕事以外の時間をもっと豊かに使うために、いろいろ考える必要がある。

## 第 27 篇

いかに読書すべきか。まず大切なことは読書の習慣を作ることである。他の場合と同じように、ここでも習慣が必要である。人は、単に義務からのみ、あるいは単に興味からのみ、読書し得るものではない、習慣が実に多くのことをなすのである。そして他のことについてと同じように、読書の習慣も早くから養わなければならない。学生の時代に読書の習慣を作らなかった者は恐らく生涯読書の面白さを理解しないで終わるであろう。

読書の習慣を養うには閑暇を見出すことに努めなければならない。そして人生において閑暇は見出そうとさえすればどこにでもあるものだ。朝出掛ける前の半時間、夜眠る前の一時間、読書のための時間を作ろうと思えばいつでもできる。現代の生活はたしかに忙しくなっている。終日妨げられないで読書することのできた昔の人は羨望に値するであろう。(ア)いかに忙しい人も自分の好きなことのためには閑暇を作ることを知っている。読書の時間がないというのは読書しないための口実に過ぎない。まして学生は世の中へ出た者に比してはるかに多くの閑暇をもっているはずだ。そのうえ読書は他の娯楽のように相手を要しないのである。人は一人で読書の楽しみを味わうことができる。いな、東西古今のあらゆるすぐれた人に接することができるというのは読書における大きな喜びでなければならない。読書の時間を作るために、無駄に忙しくなっている生活を整理することができたならば、人生はそれだけ豊富になるであろう。読書は心に落ち着きを与える。そのことだけから考えても、落ち着きを失っている現代の生活にとって読書の有する意義は大きいであろう。

読書を欲する者は閑暇を見出すことに賢明でなければならないとともに、規則的に読書するというのを忘れてはならない。毎日、例外なしに、一定の時間に、たとえ三十分にしても、読書する習慣を養うことが大切である。このようにして二十年間も継続することかできれば、そのうちに人は立派な学者になっているであろう。読書の習慣は読書のための閑暇を作り出す。読書の時間がないという者は読書の習慣を有しないことを示している。読書の習慣を得た者は読書のうちに全く特別の楽しみを見出すであろうし、その楽しみが彼を読書から離さないであろう。

他の場合においてと同様、読書にも勇気が必要である。人はまず始めなければならない。我々はつねに読書に好都合な状態にあるのではない。読書に好都合な状態ができてから読書しようとするならば、ついに読書しないで終わるであろう。ひとたび読書し始めるならば、落ち着かない心も落ち着き、憂いも忘れられ、不運も心にかかることなく、すべて読書に好都合な状態が生ずるであろう。いやいやながら始めて、やがて面白くなってやめられなくなる場合が多い。まず読書することから読書に適した気分が出てくる。ひとたび読書の習慣を得れば、習慣があらゆる情念を鎮めてくれる。落ち着いた大学生といわれる者はたいてい読書の習慣を有するものである。

1. 文中の(ア)に入れるものはどれか。



- A. まして      B. しかし      C. すると      D. そこで

2. 文中に「読書は……相手を要しないのである」とあるが、それはなぜか。

- A. 読書する相手となかなか時間を合わせないから。
- B. 読書するとき相手に邪魔されるから。
- C. 読書は一人で楽しみを味わうことができるから。
- D. 相手は読書する習慣を有していないから。

3. 文中の「そのこと」とは何を指すか。

- A. 読書は心に落ち着きを与えること
- B. 読書のために時間を作ること
- C. 読書する習慣を養うこと
- D. 読書する相手を探すこと

4. 文中の「好都合な状態」とはどういう意味か。

- A. 読書する相手と時間を合わせる状態
- B. 読書する閑暇を見出すことができる状態
- C. 読書する習慣を作ることができる状態
- D. 心が落ち着き読書に適した気分が出てくる状態

5. 筆者がこの文章でもっとも言いたいことは何か。

- A. 友達と読書することがもっと楽しみを味わうことができる。
- B. 読書するとき、好都合な状態でいなければならない。
- C. 読書するには、まず読書する習慣を作ることが大事である。
- D. 読書するとき、心が落ち着かなければならない。



## 第 28 篇

冬の間に鍋を食べた方も多いのではないのでしょうか。鍋料理は肉や魚、野菜、キノコなど、体が温まるだけではなく、寒さに耐えるための栄養も取れるバランス食でもあります。

ちなみに鍋に入れる肉は何ですか?牛肉、豚肉、鶏肉でしょうか。それとも、牡丹、紅葉、桜、はたまた月夜。こう言われて分かる方はなかなかの食通かもしれません。昨今注目されているビーガンメニューではありません。

牡丹はイノシシ肉、紅葉はシカ肉、桜は馬肉、月夜はウサギ肉を表す言葉として昔から使われてきたものです。なにか風流な感じもしますが、それだけではありません。日本における食文化史の実態が表れている表現です。

よく日本食は魚介類と野菜を主体にした料理なのでヘルシーだなどと言われますが、もともと縄文から弥生時代は狩猟採集が食を支えていました。それはまさしくジビエ料理の世界です。シカ、イノシシ、キジ、カモ、ウサギなどなど多様な獲物が食されていたのです。

その後仏教の伝来とともに肉食の禁忌が広がりますが、「延喜式」という平安中期の法令集に書かれた正式な食事の中には、まだシカやイノシシの加工品が登場しているのです。その後、殺生禁断令などもあり肉食禁忌が厳格化してゆきます。

(ア)、それから文明開化まで約1千年もの間、日本から肉食の習慣は消えなかった。公家や貴族は仏教思想を重んじて肉食を控えたのかもしれませんが。

一方、自給自足をするような庶民の食生活はほとんど変わらなかったのではないのでしょうか。鎌倉・室町時代の遺構からも依然としてシカやイノシシの骨は出土しますし、江戸時代の料理書「料理物語」の中にも鳥獣料理が出てきます。

仏教の教えがあるので正々堂々とは食べられないというところから、イノシシ肉を牡丹とか山鯨、シカ肉を紅葉と呼ぶ慣習が形成されたのです。

つまり、日本でも魚や野菜だけではなく、肉も普通に食べ続けられてきたのです。それでは日本食のヘルシーなイメージを損なうじゃないか、などとお叱りを受けそうですが、ポイントはバランスです。

カロリーの観点からみると、移動の手段は徒歩、日々の糧を得る手段が農耕などの労働であり、漁でも狩猟でも自ら山野を駆ける暮らしは、さぞかし消費カロリーも高かったことでしょう。野菜主体ではとても生きてゆけないはずで、魚が取れない日もあったでしょうし、シカを捕まえ損ねる日もあったでしょう。総じてカロリーオーバーになることはなかったのでしょう。

確かに日本は海洋国なので他の国から見ると魚をたくさん食べているように見えたのかもしれませんが、バランスよく食べる食文化だったというのが本当のところなのだと思います。

あれを食べるとおいしい、これを食べるとヘルシーという単品思考ではなく、バランスよく食べるということを日本食から発信してゆきたいものです。

1. 文中に「牡丹はイノシシ肉……月夜はウサギ肉を表す」とあるが、それはなぜか。
  - A. 本名よりもつと雅やかになるから
  - B. 昔からあだなをつける慣習があるから
  - C. 日本の食文化史の実態につながるから
  - D. 両方が似ているところがあるから
2. 文中の「それ」は何を指すか。
  - A. 日本の飲食はヘルシーであること
  - B. 日本料理は魚や野菜を利用すること
  - C. 縄文から弥生時代の時期であること
  - D. 山野の鳥獣を狩って食事すること
3. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
  - A. しかし
  - B. しかも
  - C. そして
  - D. そこで
4. 文中に「肉食の習慣は消えなかった」とあるが、それはなぜか。
  - A. 公家や貴族は肉食禁忌を厳格に遵守するとは限らないから
  - B. 庶民の自給自足する食生活は肉食禁忌の束縛を受けないから
  - C. 魚が取れない日があるので狩猟で獲たものを食べるしかないから
  - D. 江戸時代の料理書には鳥獣料理の作り方を民衆に教えるから
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
  - A. 仏教の教えがあるとしても、庶民が正々堂々と肉食を食べることができる。
  - B. 日常生活においておいしいものやヘルシーなものを食べたほうがいい。
  - C. ヘルシーな生活を過ごすには、魚介類や野菜だけを食べたほうがいい。
  - D. ある単品だけを考えるではなく、バランスよく食べることを重視すべきだ。

## 第 29 篇

私たちの時間の感覚は、人によって、また立場によってもかなり違います。電話でよく「少々お待ちください」と言って待たされます。3 分待たされたとしますと、待った人の感覚ではその 3 倍、9 分ぐらい待たされた気がします。この時、待たせた方は実際に 3 分でも、その 3 分の 1 の 1 分ぐらいにしか感じないのです。つまり待たせた人と待たされた人の時間感覚の差は 9 倍にもなるのです。そのことをよく承知したうえで「お待たせいたしました」を言わないと、お客さまを不快にさせることになります。

本来、時間に対する日本人の感覚は、きわめて神経質だと言われます。交通機関のダイヤの正確さなどにもそれがよく表れています。

ところが、その反面、日本語の中にはきわめて曖昧に時間を伝えることが数多くあります。「しばらくお待ちください」「のちほどお電話さしあげます」「まもなく着くと思います。」「少々時間をください」などの言いかたは日常的によく使われています。

応対の中で「のちほどこちらからお電話さしあげます」と言った数人の人に『のちほど』というのは何分ぐらいの時に使いますか」と訊ねたことがあります。驚いたことに答えは千差万別です。二三分、10 分か 15 分、30 分ぐらい、1 時間、二三時間、その日のうち、最大 1 週間以内と答えた人もいます。(ア)、「のちほど」と言われた相手の客も「のちほどって何分後ですか」と聞き返す人は皆無に近いのです。「ではよろしくお願いします」で終わってしまいます。(中略)

「のちほど電話すると言ったから、出かけないで待ってるのにかかってこないじゃないか」と苦情になったこともあります。

きちんと時間のメドを言う人も、もちろんいます。時間のメドが立たない時に、「のちほど」というあいまいで便利なことばを使うのでしょうか。しかし、メドが立たない場合でも、「担当がただ今席を外しておりますので、何分後というはっきりしたお約束が出来かねます。申し訳ございません」と、はっきり言えない理由をことばで伝えてください。

また、メドが立つ場合でも、10 分後と思ったら「20 分後ぐらいまでにはお返事出来ると思います」。30 分後と思ったら、「1 時間以内には……」というように、多め多めの時間を伝えてください。人間の心理として、「30 分後」と言われても 20 分後ぐらいから待ち始めます。25 分も経つとイライラが始まります。30 分後に正確に返事が出来たとしても、あまり満足感はないのです。それが「1 時間以内には」と伝えておけば、30 分後に返事がくれば「早く調べてくれたな」と思って満足してくれるものです。

1. 文中の「そのこと」とは、何を指すか。

- A. 人間の感覚において時間の流れが現実よりもっと速いこと
- B. 待たせる時間と待たされる時間が 9 倍の差があること
- C. 待たせる方と待たされる方にとって時間の感覚がかなり違うこと

- D. 人々は「少々お待ちください」についての理解が違うこと
2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- A. そして      B. だから      C. そのほか      D. ついでに
3. 文中の「便利な言葉」とは、どういう言葉か。
- A. 具体的に時間を表す言葉  
B. はっきり理由を伝える言葉  
C. 相手が理解しやすい言葉  
D. 曖昧に時間を伝える言葉
4. 文中に「多め多めの時間を伝えてください」とあるが、それはなぜか。
- A. 返事ができる前に十分な準備時間が必要するから  
B. 約束時間の前に返事すれば相手は満足感があるから  
C. 仕事に没頭すれば返事を忘れる可能性があるから  
D. 短い時間で返事すれば相手がイライラするから
5. この文章の内容に合っているものはどれか。
- A. 時間のメドが立たない場合にあいまいな言葉で時間を伝えたほうがいい。  
B. 電話で便利な言葉を使って時間を伝えるという習慣を変えるべきだ。  
C. 人々は時間に対する感覚が違うので時間の正しさを確認しなければならない。  
D. 待たせる人は待たされる人の立場に立って自分の応対を決めるべきだ。

## 第 30 篇

旅に出て、見知らぬ土地で、必要に迫られて食事をとる。そういう時、ゲツと叫んで吐き出しそうになるほどまずいものに遭遇したという体験が、誰にでも一度や二度はあるのではないだろうか。

そのように、旅先でめっちゃくちゃまずいものに会おうというのが、旅の楽しみのひとつである。

うまいものの間違いじゃないのか、という人は旅と、食べることの初心者である。うまいものなんぞ、旅に出なくたって、名の通った店でいくらでも食べられるではないか。近頃、平均的日本人は少いうまいものを食べすぎているくらいのものである。グルメだとか食通だとか称して、三度三度うまいものを食べなきゃ損だと考えるようなひどい人間まで出てきている。雑誌はあくことなくうまい店の紹介をし、みんな並んでその店で食べる。そういう時代だから子供までもが、やっぱり牛肉は和牛でなきゃ、なんてことを口走るのである。

つまらないことである。うまいものなんて、ごくたまに食べればよいのだ。それだからこそうまいのである。

旅の食事の楽しみは、断然、まずいものを食べることである。一口食べてほおがゆがみ、二口で涙が出てきて、三口で逃げ出したくなるような、そういうまずいものと思いがけず会おうことの豊かさを味わわなければならない。旅をしたからこそ、その味に出会えたのである。それがなければ、あーあ日本のどこかに、それほどまずいものがあるとは永久に知らないままだったのだ。

なぜ、この店はこんな味つけをするのだろう。

どうしてこの味で商売がやっていけるのだろう。

ひょっとして、この味がこの地方ではうまい味で、みんな大好きなのだろうか。ま、まさか。

そういう考えがわきおこり、文化と風土と地域性についての、深ーい理解が得られたりするるのである。

もうわかってもらえたと思う。旅先でまずいものに会おうのはこの上ない楽しみなのだ。全国のまずいものを集めたこのマップで、大いに研究をしていただきたい。

(清水義範『私は作中の人物である』)

1. 文中の「そういう時」とはどんな時か。

- [A] 旅先でめっちゃくちゃまずいものに会おう時
- [B] まずいものに遭遇した時
- [C] 旅に出て、見知らぬ土地で、必要に迫られて食事をとる時
- [D] 叫んで吐き出しそうになる時

2. 文中の「あくことなく」の意味はどれか。

- [A] あかない
- [B] 止むことなく
- [C] だんだん
- [D] 山ほど多く

3. 文中には、「つまらないことである」とあるが、筆者がつまらないと思う理由は何か。

- [A] 名の通った店でいくらでも食べられるから

[B] 子供は牛肉は和牛でなきゃ、なんてことを口走るから

[C] うまいものなんて、ごくたまに食べればよいのだから

[D] 三度三度うまいものを食べなきゃ損だと考えるから

4. 文中には、「そういう考え」とあるが、その考えの内容に合わないものはどれか。

[A] なぜ、この店はこんな味つけをするのだろうという考え

[B] どうしてこの味で商売がやっていけるのだろうという考え

[C] ひょっとして、この味がこの地方ではうまい味で、みんな大好きなのだろうか、信じられないという考え

[D] 文化と風土と地域性について深く理解できるという考え

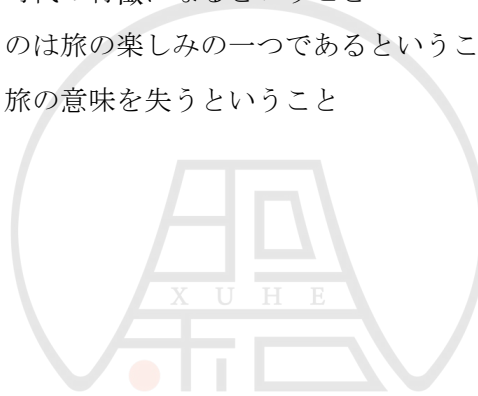
5. 筆者がこの文章でいちばん言いたいことは何か。

[A] まずいものに遭遇したという体験が、誰にでも一度や二度はあるということ

[B] うまい店で食べるのが今の時代の特徴になるということ

[C] 旅先でまずいものに会うのは旅の楽しみの一つであるということ

[D] まずいものを食べないと、旅の意味を失うということ



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 31 篇

ペスト(鼠疫、黒死病)が流行し、人々が飢えと死の恐怖におびえながら生活した第一小氷期の気候悪化期には、人類を救済する新たな精神世界の革命が引き起こされている。気候が悪化し、ペストが流行する中で、人間が自然の猛威に屈服させられたかに見えた時、自然の法則を探求し、自然を機械とみなし、自然を支配して(ア)人間の王国を作ろうという、近代文明の原理となった思想が人々の共感をよんだ。

フランシス・ベーコン(一五六一～一六二六年)は、知は力であり、自然の上に人間の王国を作することを提唱した。そしてルネ・デカルト(一五九六～一六五〇年)は、物質と精神の二元論に立脚し、機械論的自然観を展開した。自然を機械とみなし、人間の都合のよいように征服し利用していく。そして「我思う、故に我あり」の有名な言葉に示されるように、唯一絶対的な存在は人間の自我であるとした。それは、ペストが荒れ狂い、寒風が吹きすさぶ中で、薄暗い明かりのともる部屋の中で、追い詰められた人間が最後のよりどころとした言葉であったように私には思われる。だがこのデカルトの機械論的自然観と、ベーコンの自然支配の思想こそが、近代文明を発展させる原動力となったのである。それは、紀元前一〇〇〇年の気候変動を契機として引き起こされた一神教の誕生とともに、人類史上を席卷する重大な思想となった。

紀元前一〇〇〇年頃の気候悪化期に誕生した一神教と、それから二五〇〇年後の十七世紀の小氷期の気候悪化期に誕生したデカルトやベーコンの思想とが結託して、この地球上に自然を支配し人間のみの王国を作る世界観を急速に広めた。そしてこの二つの思想が、現代の地球環境問題を誘引する重要な牽引車でもあるのである。

二十一世紀、現代文明は自然と人間の共存という一点においてゆきづまった。その危機には、紀元前一〇〇〇年の気候寒冷期に誕生した一神教と、十七世紀の第一小氷期に誕生した機械論的自然観・人間中心主義が深い影を落としているのである。

(安田喜憲『気候変動の文明史』)

1. 文中の(ア)に入れるものはどれか。

[A]だから [B]その上に [C]しかし [D]むしろ

2. 文中の「我思う、故に我あり」はどの意味に当たるか。

[A]物質と精神の二元論として人間存在を考察しようとする事  
[B]機械論的自然観として人間存在を考察しようとする事  
[C]自然を機械とみなし、人間の都合のよいように征服し利用していくこと  
[D]唯一絶対的な存在は人間の自我であること

3. 文中の「それ」とは何を指すか。

[A]「我思う、故に我あり」という言葉



[B] 人間は絶対的な存在であるということ

[C] 人間は自然を支配するということ

[D] ペストが荒れ狂い、寒風が吹きすさぶということ

4. 文中の「近代文明を発展させる原動力となった」ものは何か。

[A] 紀元前一〇〇〇年の気候変動を契機として引き起こされた一神教の誕生

[B] 追い詰められた人間が最後のよりどころとした言葉

[C] デカルトの機械論的自然観とベーコンの自然支配の思想

[D] この地球上に自然を支配し人間のみの王国を作る世界観

5. この文章の内容に合うテーマはどれか。

[A] 我思う、故に我あり

[B] 新たな世界観の誕生

[C] 機械論的自然観

[D] 人間中心主義



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ



## 第 32 篇

今の学校では、教える側も教えられる側も、教育の目的が曖昧な漫然と時を過ごしています。各教科別の目的もなければ、そもそも何で学校で学ばなければならないのかという、根本的な目的すらも持っていない。学校で学ぶ明確な目的を教師と子供が共有しなければ、有意義な教育効果が生じるわけがありません。

簡単な言葉でいいのです。「君たちの幸せのために」でもいい。目的を明確にするだけで、学校はずいぶん変わるはず。そう、教育の目的を一つ簡単に言ってしまうと、まさに「子供たちが幸福になる能力を創ること」だと断言できます。

「受験勉強に明け暮れて、東大に入って、官僚になってもちっとも幸福じゃない」最近では、そんなセリフを大人も子供も口にします。もちろん幸福ではないでしょう。(ア)、幸福とは何なのかを知らないからです。幸福の定義をちゃんと考えたことがないからなのです。子供を幸福にしたければ親も教師も、まず幸福とは何かを理解して、どうすれば幸福になれるのかという道順を作ってやらなければなりません。これまでに解説した儒教の考え方と同様です。

では、幸福とはどのような状態をいうのでしょうか。これまでに述べてきたことを思い出してください。人間は自分の行動によってなにがしかの価値を獲得した時、感情に喜びが発生します。魚を釣った時、何かを作った時—つまりは進歩した時です。進歩とは価値が上がることです。それは価値の獲得という状態にほかなりません。価値を獲得した時に発生する喜びこそ“幸福”なのです。

第一章で生産意欲を失った子供たちが増えているという話をしましたが、これこそが幸福の定義がちっとも理解されていないことの証左です。このままでは、そのような子供が次々と社会へ送り出されるでしょう(既に相当数に上っていると思いますが)。そして今後、日本がどんな社会になるのか想像してみてください。経済だけでなく、学問においても文化においても、全く活力のない社会になることは間違いありません。

(戸塚宏『教育再生!』)

1. 筆者が考えている「教育の目的」とは何か。

- [A] 人間を幸福にすること
- [B] 子供たちが幸福になる能力を創ること
- [C] 受験勉強に明け暮れ、有名な大学に入ること
- [D] 生産意欲をちゃんと高めること

2. 文中の「そんなセリフ」とはどんなセリフか。

- [A] 「君たちの幸せのために」というセリフ
- [B] 「子供たちが幸福になる能力を創ること」というセリフ
- [C] 「受験勉強に明け暮れて、東大に入って、官僚になってもちっとも幸福じゃない」というセリフ
- [D] 「明確な教育目的がなければ、有意義な教育効果が生じない」というセリフ

3. 文中の( ア )に入れるものはどれか。
- [A] いわば      [B] なぜなら      [C] けれども      [D] 要するに
4. 文中の「幸福の状態」に合うものはどれか。
- [A] 学校の先生も学生も幸福の定義をちゃんと考えたことがない。
- [B] 幸福を創ることは儒教の考え方と同様なのだ。
- [C] 価値を獲得した時に発生する喜びこそ「幸福」なのだ。
- [D] 幸福の道順を創ってこそ、真の幸福を獲得するのだ。
5. 筆者がこの文章でいちばん言いたいことは何か。
- [A] 生産意欲を失った子供たちが増えていること
- [B] 子供たちが幸福の定義がちっとも理解していないこと
- [C] 日本社会は全く活力のない社会になること
- [D] 教育を通して、子供たちを幸福にする能力を育てるべきだということ



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 33 篇

今の日本のさまざまな面での混乱は、アメリカで起こっている混乱と同じことで、互いに自己を絶対化するということから生じている。

今日のアメリカの若者たちは、大変な勢いで麻薬とあやしげな新興宗教に走っている。日本は幸いにしてまだそれほどでもない。それだけ社会にやすらぎ(平穏安乐)が残っているせいであろう。大変な過密状態の日本は押し合いへし合いして、みんな貧乏でありながら、昔からやすらぎのある社会を保ちつつ生きてきた。そのやすらぎに触れたラフカディオ・ハーンとかモラエスとかピエール・ロティとか、そういう感覚の鋭い人は日本人から離れられなくなってしまうわけである。ヨーロッパやアメリカのような理詰めの世界、愛とか、理性とかきっちりした表向きだけの世界は、いわば剛構造であって、そこにはやすらぎがない。私は、人間がそういうやすらぎをとり戻すのがきわめて大事なことだと思う。それがなくなると、自分だけが正しい、世の中が間違っているとか、零細企業は常に正しくて大企業は常に悪いとか、殺される側が常に正しく、殺す側はどのような立場から見ても悪そのものだというような論理が横行することになる。だが日本人の人間観によれば、攻める方が正しければ守る方も正しいとなる。泥棒—この場合は弁解しようもない悪人ということだが—にも三分の理がある。まともな人間の方も、それが如何にまともであろうとも七分の理しかない。ふつうの場合は喧嘩両成敗、五分五分だという考え方だ。これは単なる妥協ということではなく、もっともっと深い根底において、人間とはお互い敵味方の殺し合いの世界でもどこかにつながっているものがあるということなのである。

(ア)、アメリカ流の、良く言えば理想、悪く言えばたて前という偽善の文化と、日本流の本音の文化の対立である。裁きの文化と甘えの文化の対立とも言えよう。この対立の中で、日本人は古来持っていた英知を喪失しようとしている。現在はこのことをお互いもっと真剣に考え直すべき時に来ているのではないだろうか。以下別に日本人にかぎらず人生の英知の結果ともいうべき諺や、人生の達人の残した片言隻句の中からそのことをいっている考えていきたいと思う。

(会田雄次『表の論理・裏の論理』)

1. 文中には、「日本は幸いにしてまだそれほどでもない」とあるが、それはなぜか。

- [A] 日本は自己を絶対化するから
- [B] 日本の若者たちは麻薬とあやしげな新興宗教に走っているから
- [C] 日本社会にやすらぎが残っているから
- [D] 日本は貧乏だから

2. 文中の「剛構造」はどういう意味か。

- [A] 外国人は日本人から離れられなくなってしまう社会構造
- [B] 理詰めの世界、愛とか、理性とかきっちりした表向きだけの社会構造
- [C] 自分だけが正しい、世の中が間違っている社会構造
- [D] やすらぎのある社会を保ちつつ生きてきた社会構造

3. 文中には、「人間がそういうやすらぎをとり戻すのがきわめて大事なことだ」とあるが、筆者がなぜそう思うのか、その考えに**合わない**ものはどれか。

[A]やすらぎがなくなると、自分だけが正しい、世の中が間違っているというような論理が横行することになる。

[B]やすらぎがなくなると、零細企業は常に正しくて大企業は常に悪いというような論理が横行することになる。

[C]やすらぎがなくなると、殺される側が常に正しく、殺す側は悪そのものだというような論理が横行することになる。

[D]やすらぎがなくなると、攻める方が正しければ守る方も正しいというような論理が横行することになる。

4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A]そこで [B]だが [C]つまり [D]あるいは

5. 筆者がこの文章でいちばん言いたいことは何か。

[A]アメリカ流の建前という偽善文化を批判すること

[B]日本流の本音の文化を提唱すること

[C]やすらぎを取り戻して、日本古来の持っている文化や英知を守るべきだということ

[D]裁きの文化と甘えの文化の対立を指摘すること

## 第 34 篇

「二十代の結婚生活を結ぶ絆は愛だが、三十代は努力であり、四十代は忍耐、五十代は諦め、六十代になって初めて感謝になる」

この言葉は私の先輩、坂田吉雄京大名誉教授の言われたものをちょっともじったものである。ここに言われるように、二十代は愛で、それはもの珍しさをともなうからだ。しかし三十代になると、お互いに新鮮感を失い、いやな側面もずいぶん思い知らされ合うことにもなっている。しかしこれはお互いさまということで何とか円満にやってゆこうと努力し合う。それによって夫婦仲は保たれる。

(ア) 四十代ともなると体力もなくなって、努力してはやってゆけない、そこではよりよい家庭を持とうとするような積極性は乏しくなり、お互いに忍耐するしかない。

次の五十代になるともう我慢さえもできるゆとりがなくなってきて、あとは諦める。人生のやり直しは利かない。しかも縁あってこうなったのだから、別れたところでまた来世二人は一緒にならねばならないのだからと諦める。そういう三十年の歳月を過ごして、夫婦は鍛錬されて六十になって感謝になるのである。その感謝とは、奥さんにとってみればよくぞまあ今日まで自分のような女と野越え、山越えともかく手をつなぎ合って連れてきてくれたと思うし、また夫の方でも、自分のような男をよくぞ見放さずについてきてくれたと感謝の念を持つようになる。

これは夫婦とは諦観を基盤とし、忍耐をその上におき、努力し合って、はじめて愛し合い、感謝の気持が持てるものだという教えでもある。この諦めとは、ヨーロッパ的な単なる運命愛でもない。もちろん最もいけない意味での努力の放棄でもない。生と死を通じ一切を支配している大きな力に素直になるという、日本では一番大切なことなのである。そこから始めて生きることへの感謝が生まれ、人間関係の絆が結ばれるのだ。

人間関係というのは、このようにプラス的側面でのみつながるのではなく、マイナスの面でもつながるという教えであり、日本人の人間観というものはこの点世界でも類のない深さを持つものだと思う。しかもそれは庶民、大衆の心なのだ。驚くべき民族の英知だといわねばならない。

日本人は心の底に許しを持つ。明治以来どうも日本の言葉には英語など欧米人の観念が入りまじって来て困るのだが、この許しとは、キリスト教のような、神が許すから人間が許さないわけにはいかないというようなものでなく、私は正しい、お前は不正、私は立派、お前は駄目、でも私はお前を許すというのではない。罪の意識から自分を否定し、その否定の心によって許すというのでもない。極めて自然な同類相憐むという形の許しである。お前もだらしがないが、俺も同じことだという通じ合いなのだ。

(会田雄次『表の論理・裏の論理』)

1. 文中には、「夫婦仲は保たれる」とあるが、夫婦仲を保つ方法は何か。

- [A] お互いに新鮮さを保つ方法
- [B] お互いにいやな側面を知らされない方法
- [C] 何とか円満にやってゆこうと努力し合う方法

[D] 愛情で結び合う方法

2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A] しかし [B] さらに [C] ところで [D] あるいは

3. 文中の「この諦め」の意味はどれか。

[A] 生と死を通じ一切を支配している大きな力に素直になるということ

[B] ヨーロッパ的な単なる運命愛を諦めるということ

[C] 何かのために努力する意欲を放棄すること

[D] 五十代になると、相手への愛情を執着しないということ

4. 文中の「日本人の人間観」に合わない言い方はどれか。

[A] 日本人の人間観というものは庶民、大衆の心なのだ。

[B] 日本人の人間観というものは民族の知恵なのだ。

[C] 日本人の人間観というものはプラスの面でもマイナスの面でもつながるのだ。

[D] 日本人の人間観というものは一番深さを持つものだ。

5. 文中の「許し」の本当の意味は何か。

[A] 正しい私は不正なお前を許すということ

[B] 自然な同類相憐むということ

[C] 神が許すから人間が許さないわけにはいかないということ

[D] 罪の意識から自分を否定し、その否定の心によって許すということ

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 35 篇

このような文化の発展から、私たちの生活の上に何が生まれてくるかと申しますと、広い自由と、高い秩序と、限りない生成発展とが生まれてくると思うのであります。いいかえますと、宇宙の法則が、私たちの生活の上に生きて働いてまいりますと、そこに広い自由と、高い秩序と、限りない生成発展とが生まれてくると思うのであります。そして、そこから繁栄、平和、幸福が生み出されてくると思うのであります。

したがってこの三つは、文化がどれほど進んでいるかを判定する大切な基準になると思うのであります。自由があるか、秩序があるか、生成発展があるか、この三つがなければ、それは文化生活とも文化国家ともいえないのであります。科学が進み、芸術が進み、宗教が進むといいましても、それがどの程度まで進めば文化国家といえるのかはちょっと判断がつかませんが、自由と秩序と生成発展との三つをもって判断すれば、だいたいにおいて文化の進展の度合いを知ることができると思います。

自由が広ければ広いほど文化が進み、秩序が高ければ高いほど文化生活が高いといえるのであります。そして、絶えず生成発展している姿が、文化国家であると思うのであります。単に自由と秩序があっただけで文化生活とはいえないのであります。その上に絶えざる生成発展がなければ、文化国家ではありません。また実際において、秩序や自由があれば必ず生成発展が生まれてくるものであります。もし生まれてこなければそれはほんとうの秩序、自由ではないと思うのであります。そして、この秩序と自由と生成発展との三つが併行して、少なくともきのうよりはきょう、きょうよりはあすへと進んでいかなければ、文化進行の過程にある国家であるとはいえないと思うのであります。

ところで、この観点から今日のわが国を眺めてみますと、はたしてどうでしょうか。秩序の程度も低く、また自由というものも非常に狭められております。

(ア) 法律にしても、あれをしてはいけない、これをしてはいけない、ということで、自由をしばりがちであります。すべてが窮屈な思いを与える法律ばかりで、そこには生成発展がないと思われるのであります。ほんとうをいいますと、むしろ、こうすればよい、ああすればよい、という法律もあってよいと思うのであります。たとえ、汽車が走り、自動車が走っていても、要するにお互いの生活から自由が奪われたら、これは文化とはいえないのであります。したがって、自由を奪う法律があったり、誤った政治があったり、また真理にはずれた宗教があったりして、社会が窮屈になるとすれば、それは文化を妨げていると思うのであります。

(松下幸之助「松下幸之助の哲学」)

1. 文中の「それ」は何を指すか。

- [A] 文化が進んでいる基準
- [B] 科学、芸術、宗教が進むこと
- [C] 文化国家と言える尺度
- [D] 自由と秩序と生成発展との三つの判断基準

2. 文中の「文化の進展の度合い」とあるが、その進展の程度にかかわらないものはどれか。  
[A] 科学      [B] 自由      [C] 生成発展      [D] 秩序
3. 自由、秩序、生成発展の三つと文化との相互関係について筆者の考えに合わないものはどれか。  
[A] 自由や秩序が進めば進むほど、生成発展が速いということだ。  
[B] 生成発展が生まれてくれば、必ず秩序や自由があるということだ。  
[C] 自由や秩序があれば必ず生成発展が生まれてくるということだ。  
[D] 生成発展が生まれてこなければ、ほんとうの自由、秩序が備えないということだ
4. 文中の（ ア ）に入れるものはどれか。  
[A] すなわち      [B] でも      [C] たとえば      [D] したがって
5. 本文の主題に合うものはどれか  
[A] 自由、秩序、生成発展の関係  
[B] 文化を測る三つの尺度  
[C] 文化発展の法則  
[D] 日本は文化国家である



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ



## 第 36 篇

私たちはまず社会に対し価値を高く見せようと努力をする。背のびをして見せるのは、人間だけではなく動物全てに通じる基本性格だ。それは言葉をかえて言えば、人間には本音と外面があり、外面は見事なように見せているが、それとは別に本音という哀しいものがある。この弱点や情けない側面もどこかで発動せずにはいられない動物が人間なのだ。甘えを受け入れてくれる、愚痴を聞いてくれる、不満を正当な要求と見てくれるだけでなく、そういう不平屋をも愛してくれる人がどこかにいないとどうにもならない。この悪い面を吐き出さず心の中にためてしまうと、ヒステリーになったり、犯罪をおかしたり、陰惨極まりない行動に出る。

日本人は劣等意識が強い国民だというのは周知の事実だが、その日本人におだやかな社会を営ませているのは、実は日本人の家庭であり、夫婦だと考えられる。

日本人は、夫婦は、愛し合うとか、信頼し合うとかいうプラス面でもつき合う上に、それだけでなく汚い側面でもつき合うべき存在であると考え。それが「縁」という考え方だ。“袖すり合うも他生の縁”である。前世の因縁である。いわんや夫婦になったのなら、これは単に一つ前の世ではなく、前世の前世のそのまた前世からの因果、つまり悪業の果ての宿縁であるから、よくよくの因縁と諦めてその生涯をつき合うということである。

日本の夫婦は、互いに信じ合い、理解し合い、協力し合っただけでなく、その側面を陽の当たる面としながら、時には女房の内心如夜叉の姿におののき、その浅はかさにがっかりもし、一方亭主の汚なさ、卑怯さという男の本質である情けない側面に触れて呆然としつつ、しかもお互いに我慢し諦め許し合うことによってもつながっている。それが夫婦というものだ。(ア)家庭は社会と違って安息の場所だというのである。そうでなく、アメリカ的に家庭というものが、互いに一生懸命たて前を見せ合うだけの場であれば、会社とか学校とか外面で暮らさねばならない世界と同じである。それでは夫の心にも妻の心にも毒ガスのようなものが互いにうっ積してどうにもなくなるだろう。

日本の家庭というのは、お互いの情けない本性をあらわしても共同生活していけるのである。あるアメリカ人は、そういう点で、日本の家庭はそれでこそ安らぎの場所だと言った。彼は、“我々の家庭はガラスでできている。石を投げることも、あばれることもできない。だが、日本人の家庭はゴムでできている。石を投げて、あばれても、裸になってもこわれぬ、それこそ夢の家庭ではないか”と言うのである。

こういう家庭、夫婦のあり方を次の言葉は比喻で端的に言っていると思う。

(会田雄次『表の論理・裏の論理』)

1. 文中には、「背のびをして見せる」とあるが、それはなぜか。

- [A] 人間には本音という哀しいものがあるから
- [B] 人間には弱点などどこかで発動せずにはいられないから
- [C] 人間には本音と外面があり、外面は見事なように見せているから

[D]自分を愛してくれる人はどこにもいないから

2. 文中の「それ」は何を指すか。

[A]夫婦は、愛し合うとか、信頼し合うということ

[B]夫婦は、汚い側面でもつき合うということ

[C]日本人は「袖すり合うも他生の縁」を信じること

[D]夫婦はプラス面でも汚い側面でもつき合うべき存在であると考えること

3. 文中の「袖すり合うも他生の縁」はどういう意味か。

[A]見知らぬ人と袖が触れ合う程度のことも前世からの因縁によるという意味

[B]袖が触れ合う程度のことで、夫婦になる可能性があるという意味

[C]袖が触れ合ってからこそ、他生の縁が生まれるという意味

[D]袖が触れ合うことも他生の縁になるという意味

4. 文中の（ ア ）に入れるものはどれか。

[A]それなのに [B]だからこそ [C]そういえば [D]要するに

5. 筆者は日本とアメリカとの家庭の**違い**はどこにあると思っているか。

[A]アメリカの理性的な家庭に対して、日本の家庭は感性的なのだ。

[B]アメリカの冷たい家庭に対して、日本の家庭は温かいなのだ。

[C]アメリカの現実的な家庭に対して、日本の家庭は夢のようなのだ。

[D]アメリカのガラス家庭に対して、日本の家庭はゴム家庭なのだ。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 37 篇

人間は、事故や病気で死なないかぎり、老化して死ぬ動物である。( ア )、すべての生物が老化して死ぬとはかぎらない。老化のまったく知られていない生物もある。

太平洋サケ族の魚は、川で生まれ、何年間も海洋を回遊して、ふたたび産卵のために生まれた川にもどってくる。川の水が盛りあがってみえるほど過密な状態で、川の上流めざしてサケは登っていく。川の流れを登りきったところで、雄は産卵の場所を探す。雌が卵を産むと、それに精子をかけて、雄も雌も死ぬ。

サケは、一時的に血液中の副腎皮質ホルモン(荷尔蒙)の濃度を高くすることによって、からだ中のすべてのエネルギーを生殖に向けて集中的に発揮し、それがすんだときには、からだはぼろぼろになって死んでしまう。

産卵期のサケは食べ物を食べないので、脂肪のたくわえは使いつくされる。産卵後のサケの死体を顕微鏡で調べてみると、いろいろな組織は壊れ、特に心臓は、ヒトの心臓冠動脈疾患の病理像とよく似ている。

副腎皮質ホルモンは、いろいろなストレスに対抗するために、からだの活力を一時的にあげる働きがある。しかし、それも度が過ぎると、組織の破壊をもたらし、個体の死につながる。サケでは、親の死と引き換えに産卵と受精をおこなって、種の存続をはかっているのである。

(中略)

動物の世界はこのように凄絶であるが、植物に目を転じると、おだやかに長生きをしているものがある。針葉樹には数千年の寿命をもつものがあり、なかでもメタセコイア(水杉)はよく知られている。

メタセコイアの樹齢と致死率を調べたところ、樹齢二〇〇年の木と一〇〇〇年の木の間に差のないことがわかった。このことからメタセコイアは老衰するということはないと考えられる。樹木の幹の分裂組織の成長部域は、数百年、数千年にわたって増殖することができ、その増殖能は無限である。

動物は一般にきまったかたちをもっていて、そのかたちのなかで細胞の数を維持している。ところが植物は木の中央に分裂組織があり、そこから外に向かつてのびていくかたちをとっている。このように、動物と植物では、からだのつくりが基本的にちがうので、それが個体の寿命とも関連しているのであろう。

(柳澤桂子『生命の奇跡』)

1. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A]だから [B]さらに [C]しかし [D]それとも

2. 文中の「からだはぼろぼろになって死んでしまう」とあるが、その原因に合わないものはどれか。

[A]食べ物を食べないから

[B]脂肪のたくわえは使いつくされるから

[C]心臓冠動脈疾患にかかるから

[D]からだ中のすべてのエネルギーを生殖に向けて集中的に発揮するから

3. 文中の「それ」は何を指すか。

[A] ホルモンを作りすぎること

[B] からだの活力を一時的にあげること

[C] ホルモンはストレスに対抗すること

[D] 組織の破壊をもたらしたこと

4. 文中には、「メタセコイアは老衰するということはない」とあるが、それはなぜか。

[A] 植物はおだやかに長生きをしているから

[B] 針葉樹には数千年の寿命をもつから

[C] メタセコイアの致死率が低いから

[D] メタセコイアの分裂組織の増殖能は無限であるから

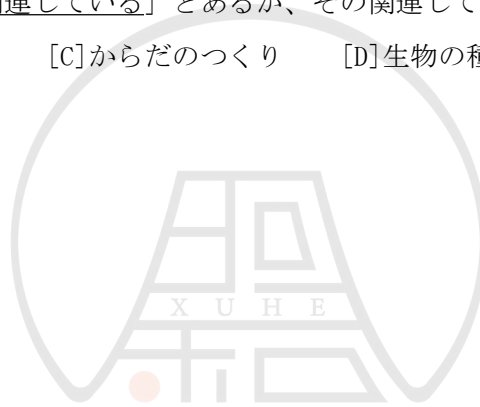
5. 文中には、「個体の寿命とも関連している」とあるが、その関連しているものは何か。

[A] 細胞の数

[B] 分裂組織

[C] からだのつくり

[D] 生物の種類



煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 38 篇

いい大人が、ちょっとしたことで、泣いたり、わめいたり、怒鳴ったり、落ち込んで黙り込んだりするの、あまりにもみっともない。

最近、上司にちょっと叱られただけで泣き出す OL もいれば、結婚式で泣き出す新郎もいるらしい。

ある人によれば、「あなたは、小学生かい?」といたいところらしいが、いちいち感情を表に出す人は、だんだん珍しい人ではなくなっているようだ。

感情を表に出すのではなく、ある程度は制御するのが大人であり、それが精神的成長を遂げた人間の証しである。

アメリカでは公式の場で涙を流す政治家は、「自己コントロールできない人」であり、選挙ではそれだけで落ちることもあるそうだ。

日本では、「泣き落とし」や「土下座」が選挙活動でも有効なようだが、選挙が終わり、冷静になると、「あんな田舎芝居にだまされるんじゃないかった」と思うことが多いのではないだろうか。

泣いたり、わめいたり、怒鳴ったり、落ち込んで黙り込んだり…そういう言動が激しく現われる人は、舞台上で演じる芝居と思い込めば、おもしろい。

(ア)、自分のそばでやられたら、うっとうしいし、見苦しい。何かあるたびに、いちいち大きく動揺されるのでは…はっきりいえば、迷惑なのである。

自分の感情が揺れそうなときは、私情を排除し、できるだけクールに状況を判断し、対応すること。深呼吸して、「自分」を取りもどすこと。

泣きわめくのではなく、本当は動揺していても、「私は、だいじょうぶよ」という姿でいる人に、人は応援したくなる。その健気さを静かに支えたいと思う。

感情を抑えた苦渋の表情ほど、人の同情を買うものはない。見苦しくない姿、美しい生き方については、人それぞれの感性に頼るところも大きい。あまりに泣いたり、わめいたり、怒鳴ったり、落ち込んだり…の激しい人というのは、その悲しみがどんなに深いものであろうと、周りの人は同情するより前に、シラケてしまうものだ。

ある人は、親の死よりも悲しいことがあるという。それは「わが子の死」だという。幸運にも、私にはその体験がないから、その悲しみを想像するしかない。

生まれた順番に死んでゆくのは当たり前のことであるから、「親の死」については、感情を制御する人のほうが見苦しくないように思う。感情を制御できずに泣いたりわめいたりするのは、この順番が狂ったときぐらいにしておいては、どうか。

(斎藤茂太「なぜか人に思われる人」の共通点)

1. 文中の「それ」は何を指すか。

[A]感情を表に出すこと

[B]感情をある程度制御すること

[C]感情を表に出す人は、珍しいこと

[D]感情を制御する人は大人であること

2. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A]つまり [B]だから [C]けれども [D]さて

3. 文中には、「自分の感情が揺れそうなとき」とあるが、そういう時の対応方法として、筆者の考えに合  
わないものはどれか。

[A]冷静に状況を判断して、対応すること

[B]個人的な感情を排除すること

[C]「だいじょうぶよ」とはっきりいうこと

[D]深呼吸して、「自分」を取りもどすこと

4. 文中の「シラケて」はどういう意味か。

[A]色があせて白っぽくなること

[B]興がさめて気まずい雰囲気になること

[C]具合が悪くなること

[D]明らかにすること

5. 筆者がこの文章でいちばん言いたいことは何か。

[A]泣いたり笑ったりは、見苦しい姿に映ること

[B]感情を抑えた苦渋の表情ほど、人の同情を買うものはないこと

[C]見苦しくない姿、美しい生き方については、人それぞれの感性に頼るところも大きいこと

[D]感情を制御できずに泣いたりわめいたりするのは、経験したことの順番が狂ったときぐらいにして  
おいたほうがいいこと

## 第 39 篇

汗と苦労を代償で大自然の懷に抱かれる登山には常に感動のドラマがあります。山登りの楽しみは、登っているその時の感動とともに、思い出を残すことにもあると思います。

人間とはおかしなもので、記憶は消えても、自分でやり抜いた体験だけは消えないものです。これこそ人生の手がかりであり、体験を通した思い出は、思わぬ人生の足がかりとなるかもしれません。

山行の記録には、場所や時間だけを書き留めるだけのものから、状況全般、自分の心の動きや感想などを細かに記すものまでいろいろです。

ポケットに入る小さなノートの携行をお薦めします。苦しい登りのあとの休憩で、その時の心境をありのままに綴ったり、花や景色をスケッチにするのもいいでしょう。仲間の一言が気に入ったときはすぐにメモしたり、下手な絵でも、揺れる心境も感動も…、何でもノートに記しましょう。他人に見せるものではありませんから、記述はリアルなほどいいのです。

大切なことはすぐに書き留めることです。時がたってから書いたものは装飾語が増えてしまう傾向があり、素直な感動からは離れたものになってしまうでしょう。

写真も有意義な記録の一つです。頂上の記念写真だけではなく、アプローチから頂上、( ア )下山までを枚数を絞って組み写真にするといいでしょう。仲間のユニークな姿や、自分が写ったものがあれば、より一層その山行の思い出が蘇ります。写真にちょっと一言、コメントを書き添えておくのも効果的です。

大きな山行ではそれだけで一冊のアルバムになりますが、小さな山行は家族のスナップ写真などもまじえて順を追って整理すれば、我が人生のストーリーにもなるでしょう。

(田村宣紀『春夏秋冬・山歩きの知恵』)

1. 文中には、「登山には常に感動のドラマ」とあるが、それはどういう意味か。

- [A] 登山には汗と苦労が常に伴っているという意味
- [B] 登山には大自然の懷に抱かれるという意味
- [C] 登山には登っているときの感動もあれば、思い出を残す感動もあるという意味
- [D] 山登りの楽しみはドラマみたいなものだという意味

2. 文中の「これ」とは何を指すか。

- [A] 記憶
- [B] 記録
- [C] 体験
- [D] 思い出

3. 文中の「山行の記録」に合わないものはどれか。

- [A] 時間、場所、人物、風景など記してもいい。
- [B] 自分の心の動きや感想などを記してもいい。
- [C] 仲間の言ったことを記してもいい。
- [D] 他人に見せてもいい。

4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A]そして [B]しかし [C]だから [D]ゆえに

5. この文章で筆者が一番言いたいことは何か。

[A]思い出をカタチに山行の経験や感動などを記録に残そう。

[B]山行を整理すれば、我が人生のストーリーにもなろう。

[C]大切なことなら、なんでも書きとめよう。

[D]山行の記述はリアルなほどいいのです。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ



## 第 40 篇

私は神経質というか、適応力が乏しいというか、どうしても、自分の生活が守られない「余所の場所」では落ち着いてものを考えられない。それほどまでに環境にこだわるのは悟りが開けてないからだ、と言う人もいるかもしれません。確かに、心頭滅却すれば火もまた涼し、という考え方もあります。(ア)、多くの人は、やはりそれぞれにとって心地よい環境でなければ、仕事や勉強をしにくいのではないのでしょうか。

ものを考えたり、何かをつくりだしたりという「人間の内なる働き」においては、本来、集中力を持続させることが難しい。せいぜい持続して一日のうちの五、六時間くらいでしょう。だから、いかに緊張した神経を和らげて、もう一回新しい創造に立ち向かわせるかということを考えなければいけない。アリストテレスやカント、西田幾多郎など、昔の文人や学者がよく散歩をしたのも、考える力を再生産するために必要だったからだと思います。

その意味で、知的創造は書斎の内側のみで生み出されるものではない。だからこそ、理想の書斎はその書斎から解放されたときの周囲の環境まで含んでいる必要があります。C・W・ニコルさんが黒姫山に住み、倉本聰さんが富良野に塾をつくり、また玉村豊男さんが信州で畑をつくっている。最近、知的生産にたずさわる人で、東京を離れる人たちが増えているのは、そういう理由によるものだと思います。

知的空間というものを考えるときに、私がどうしても「自然」ということに関心が向いてしまうのは、自分が東京生まれだからかもしれません。こういう殺風景なところに生まれ育つと、自然の中にあることでどれだけ心を癒されるかということを、豊かな自然の中で生まれ育った人たちよりも、かえって強く感じます。田舎から都会に出てきている人は、「定年になったら、郷里へ帰って、昔のじいさん、ばあさんの家で百姓でもするか」などと言います。私には、そういう意味での「帰るところ」がありません。ですから、別荘を持つことで、自分にとっての故郷、拠り所となるとところをつくる作業をしているのです。

(渡部昇一・林望『知的生活・楽しみのヒント』)

1. 文中には、「余所の場所」とあるが、それはどういう意味か。

- [A]理想の場所                      [B]自分の生活が守られない場所  
[C]気に入らない場所            [D]心地よい場所

2. 文中の(ア)に入れるものはどれか。

- [A]しかし      [B]すると      [C]そこで      [D]要するに

3. 文中には、「昔の文人や学者がよく散歩をした」とあるが、その目的に直接のかかわりがないものはどれか。

- [A]集中力を持続させるため  
[B]新しい創造に立ち向かわせるため  
[C]緊張した神経を和らげるため

[D] 考える力を再生産するため

4. 文中の「そういう理由」とはどんな理由か。

[A] 知的創造のために書斎の内側の環境を捨てることが必要なのだ。

[B] 知的創造のために東京のような大都市を離れることが必要なのだ。

[C] 知的生産のために書斎から解放された理想の外部の環境が必要なのだ。

[D] 知的生産のために山に住んだり、畑を作ったりすることが必要なのだ。

5. この文章の内容に**合わない**ものはどれか。

[A] 筆者は東京生まれで「自然」ということに関心が向いてしまうのだ。

[B] 筆者は自然の中にいることで心を癒されることを強く感じるのだ。

[C] 筆者は帰るところのない人間になってしまうのだ。

[D] 筆者は自分にとっての故郷をつくる作業をしているのだ。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 41 篇

社員教育をとおして感じることは、初めからダメな人間はいないということです。誰でも少なからず、入社した以上、この会社の一員となって自分は何をしたいのか、何ができるかと、夢を抱いていると思います。そして、その夢を実現させるには、それなりの受け皿が必要なわけです。

私が参加しました経済戦略会議の答申にもあるように、日本を「努力した者が報われる社会」にしたというビジョンを持っています。

今の日本が「努力した者が比較的報われない社会」だということは、本書の冒頭でも申し上げました。努力して大きく成長した人も、努力を怠って停滞している人も、結果的には同じような待遇が与えられているのではないのでしょうか。そういう理不尽なやり方が、これまでは「平等」「公平」といった美名の下に広く認められてきたのです。

前にもお話ししたとおり、これは「フェア」と「イコール」を混同した悪平等主義と言わざるを得ません。この悪平等主義ほど、人々に無力感を抱かせるものはないでしょう。

(ア) プロ野球でも、ふつうはチームが優勝すれば選手の年俸が上がります。だから選手は歯を食いしばって勝つために努力するのです。優勝しても、最下位のチームと同じ待遇しか与えられなかったら、誰が努力などするでしょうか。

この国が活力を失ってしまった背景には、この悪平等主義があったのだと私は思います。たとえば護送船団方式の金融行政などは、その象徴だと言えるでしょう。護送船団方式とは、つまり船足のいちばん遅い者を保護するために、それに合わせてみんな同じスピードで走らせるやり方のこと。ちょうど運動会で、手をつないで全員いっしょにゴールインさせるのと同じことです。

これが日本の金融機関から国際的な競争力を奪ったことは、今さら言うまでもありません。何も新しいことにチャレンジしなくても、十分な待遇を与えてもらえるのですから、実力が伸び悩むのも当たり前です。

前向きな姿勢で意欲的に働かなくても、そこそこの結果が手に入る。頑張ってもチャレンジしても、それに見合った果実が与えられない。そういう悪平等主義が社会全体を覆ってしまったことで、この国には深刻なモラルハザード(道德风险)が生まれました。

チャレンジ精神をなくした人間は、ひたすら前例を踏襲するだけの「事なかれ主義」に陥ります。バブル崩壊以降、九〇年代の日本では、民間企業から官庁まであらゆる組織で信じられないような不祥事が続きました。それをもたらしたのは、この「事なかれ主義」ではないかと思います。前例踏襲で、無気力にだらだらと仕事をした結果、職業上の使命感やモラルまで失ってしまったのです。

(樋口廣太郎『才能論』)

1. 文中には、「それなりの受け皿」とあるが、それはどういう意味か。

[A] ありのままの自分を受け取る組織、ポスト、場所など

[B] わがままの自分を受け入れる組織、ポスト、場所など

[C] 自分の夢を実現させる組織、ポスト、場所など

[D] 自分のすべてを受け入れる組織、ポスト、場所など

2. 文中の「そういう理不尽なやり方」とはどんなやり方か。

[A] 努力した者が報われるやり方

[B] 努力した者が比較的報われないやり方

[C] 努力した人も、努力を怠っている人も、同じような待遇を与えられているやり方

[D] 広く認められて「平等」「公平」といったようなやり方

3. 文中の「悪平等主義」に合わないものはどれか。

[A] 「フェア」と「イコール」を混同したこと

[B] 選手が優勝しても、最下位のチームと同じ待遇を与えられること

[C] 頑張ってチャレンジしても、それに見合った待遇を与えられないこと

[D] 新しいことにチャレンジして、十分な待遇を与えられること

4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A] けれども [B] たとえば [C] すなわち [D] それとも

5. この文章で筆者が一番言いたいことは何か。

[A] 社員教育をとおして感じることは、初めからダメな人間はいない。

[B] 悪平等主義ほど、人々に無力感を抱かせるものはない。

[C] 悪平等主義が社会全体を覆ってしまったことで、日本には深刻なモラルハザードが生まれた。

[D] 日本社会に活力を与えようとすれば、まず悪平等主義から決別しなければならない。

## 第 42 篇

動物や植物はおたがいに助け合いながら、また競い合いながら生きている。太陽の光で海の中にたくさん植物性プランクトン(浮游生物)が育成し、それを動物性プランクトンが食べる。動物性プランクトンをイワシが食べ、そのイワシを大きな魚が食べる…食物連鎖という生命活動もそうだ。

ライオンがアフリカのサバンナ(熱帯稀樹草原)でヌー(牛羚)を捕らえる。ライオンが食べた食べ残しをハイエナ(鬣狗)が食べ、そのまた残りをハゲワシ(秃鹫)がつつく。ハイエナの食べたあとはまだ肉がついているので、ハゲワシは鋭い爪できれいに肉をはがす。その後、さらに小さな昆虫も来る。最後の最後は微生物が分解する。すべて完了。

環境は「シェア(share)」と「ギブ・アンド・テイク(give and take)」だ。ともかく、まずはシェアする。一つのものを分け合うことだ。分け合うと損するような気がするが、損はしない。一〇のものを一〇人で分けても、一つのものを一人ずつ一〇人がとっても同じだ。でもシェアしたほうがみんなが楽しめる。(ア)生物はいつもシェアしている。

そしてギブ。「与える」という意味だ。そうすると今度は相手がギブしてくれる。ギブすると損するような気がするが、損はしない。一つのものを少しギブすると、向うが少しギブしてくれる。こちらとしては貰うことになるので「テイク」となる。向こうのギブを期待しないでも、かならず自然の摂理はそうになっている。

水力発電や風力発電は、自然のエネルギーを人間が借りるので、まずエネルギーをシェアすることが大切だ。水も風も発電所が独り占めしないで、下流の魚も楽しく生きていけるように考える。風力発電も、「このくらい電気がほしい」ということで計画するのではなく、「この風はこのように吹いているから、このくらいは使わせてもらう」という計画に変更する。計画の最初の考え方を変えていく。それとともに、人間の生活の方も見直して、クーラーのいらぬ街作りをして、水を失って困る魚と痛みを分け合う…それがシェアだ。

そして今度はギブ・アンド・テイク。発電所を作って電気をもらうのだから、魚や森にそれだけのギブをしなければならない。魚の禁漁期間を伸ばしたり、森の面積を増やす。このようなことは人間の損になるように思うが、そうではない。人間は自然の中に生きていて、自然が壊れれば人間も生きてはいけない。

人間同士も同じ。真夏のヒーターのようにいがみ合っている環境は悪くなるばかり。ここでも気候をシェアし、自分が涼んだらその分、相手の肩でも揉んであげよう。「自分のことで精一杯」というのもわかるが、「人のことで精一杯。自分のことなんかまわってられない」という生き方もある。ギブ・アンド・テイクが徹底すれば、この二つが同じだというのがわかるだろう。

(武田邦彦『二つの環境』)

1. 文中の「それ」とは何を指すか。

- [A] 植物性プランクトン      [B] 動物性プランクトン

[C]イワシ [D]大きな魚

2. 文中の「きれいに」はどういう意味か。

[A]清潔に [B]純潔に [C]美しく [D]残りなく

3. 文中には、「環境は『シェア(share)』と「ギブ・アンド・テイク(give and take)』だ」とあるが、それに**合わない**ものはどれか。

[A]分け合うことは損するように見えるが、実は損はしない。

[B]こちらがものをギブしないと、向こうもギブしてくれるはずがない。

[C]向こうのギブを望まないでもかならず自然の摂理はそうになっている。

[D]お互いにギブすることは、生物がお互いにシェアしているということだ。

4. 文中の( ア )に入れるものはどれか。

[A]しかし [B]言い換えれば [C]だから [D]すると

5. この文章の内容に**合わない**ものはどれか。

[A]動物や植物はお互いに助け合いながら、また競い合いながら生きている。

[B]環境には「与える」ことも「もらう」こともいずれも必要なのだ。

[C]「自分のことで精一杯」より、「人のことで精一杯」という生き方のほうが楽しめる。

[D]人間は自然のエネルギーを独り占めしないで、生物全体が楽しく生きていけるように考えるべきだ。

## 第 43 篇

以下は、絵本の選び方について述べた文章である。たいへん有効な一つの方法は、絵本を見るとき、子どもと同じやり方、つまり、字は読まず、絵だけで物語を追っていくというやり方で、絵本を見ていくことです。わたしも、新しい本を手にしたときは、かならずこのやり方で見ることにしていますが、そうすると、いろんなことが、とてもよくわかってきます。

字にたよらず絵だけ見ることは、わたしたちの心を、必然的に（注 1）、単純で具体的な考え方のレベルにとどめて（注 2）くれますし、当然のことながら、絵の中に意味をさぐろうとする心の働きを強めてくれます。そうして見ていくと、絵それ自体が何かを語りかけてくれる場合と、文を読んではなからでなければ何の意味ももたない。いわば装飾的な（注 3）働きしかしていない場合とが、実ははっきりしてきます。絵が何かを語りかけてくれないものは、ほんとうの意味では絵本とはいえないので、こうして見ていくと、体裁（注 4）は絵本でも、①絵本とは呼べないものが少なくないことがわかってきます。（中略）

また絵だけを丹念に（注 5）見ていくと、絵のもつ雰囲気も調子も、文と合わせ見るときより、よくわかる気がします。そして、それをつかんだあとで文を読むと、絵と文の関係がしっくりいっている（注 6）かどうか、はっきりわかります。登場人物の服装とか、背景（注 7）とかの具体的な事実が、文と絵で違っていることがいけないのはもちろんですが、絵全体の調子やムードが、物語のそれと合わないのは、絵本としては、②大きな欠点です。

（松岡享子・東京子ども図書館『えほんのせかい こどものせかい』による）

（注 1）必然的に：ここでは、必ず （注 2）～にとどめる：～のままにする

（注 3）装飾的な：飾りのような （注 4）体裁：形式

（注 5）丹念に：細かく注意しながら （注 6）しっくりいく：よく合う

（注 7）背景：ここでは、後ろの景色

60) 筆者によると、字を読まないで絵だけで絵本を見るとどうなるか。

- 1 字を読むより感動できる。
- 2 字を読むより物語がよくわかる。
- 3 絵を見て自由に物語を作ろうとする。
- 4 絵の中から意味を見つけようとする。

61) ①絵本とは呼べないものとはどのようなものか。

- 1 絵だけでは何も伝わってこないもの
- 2 絵がないと、文の意味がわからないもの



- 3 絵と文の意味が合っていないもの
- 4 絵と文を一緒に見ても、面白くないもの

62) ②大きな欠点とは何か。

- 1 絵の雰囲気や調子がつかみにくいこと
- 2 絵の具体的な部分が、絵全体と合っていないこと
- 3 絵と物語の、雰囲気や調子が異なること
- 4 物語としてあまり感動を与えられないこと

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、たいへん有効な一つの方法は、絵本を見るとき、子どもと同じやり方、つまり、字は読まず、絵だけで物語を追っていくというやり方で、絵本を見ていくことです。

2、字によらず絵だけ見ることは、わたしたちの心を、必然的に、単純で具体的な考え方のレベルにとどめてくれますし、当然のことながら、絵の中に意味をさぐろうとする心の働きを強めてくれます。

煦和日语  
クワニホンゴ

3、登場人物の服装とか、背景とかの具体的な事実が、文と絵で違っていることがいけないのはもちろんですが、絵全体の調子やムードが、物語のそれと合わないのは、絵本としては、大きな欠点です。



## 第 44 篇

長い間水の中にいると手足の指にたくさん「しわ」ができる。このしわを見たことがない人はいないだろう。私はこれまで、このしわは単に皮膚が水分を吸収し膨らんでできたもので、何の役割もないと思っていた。ところが、①そうではないという記事を読んだ。滑り止めの役割を果たしているというのだ。

この記事は、ある論文の実験結果をもとに書かれていた。②実験は次のように行われた。ひとつの容器に小さなガラス玉を入れ、それを指でつかんで別の容器に移し替えるのにかかる時間を計る。ガラス玉が入っている容器には、水入りのものと水なしのものが準備された。また、手はしわがある状態とならない状態で、それぞれのかかる時間が計測された。しわは、ぬるま湯に手を浸すことで発生させた。結果は次のようなものである。

まず水の有無について見てみると、水入りの容器から移し替えるより、水なしの容器から移し替えるほうが速い。次に水入り、水なしの各条件において、しわの有無の違いによる結果を見てみると、水なしの場合、しわがあってもなくても大した差はない。しかし、水入りの場合、しわがあるほうが速い。以上の結果から、実験者は、しわは水中などぬれた環境で物をつかみやすくするためにできるようになった可能性があるとして述べているようだ。

しかし、どうなのだろうか。滑り止めのためであれば、水に入れたらすぐにしわができないとおかしいのではないだろうか。しわの役割を知るためには、新たな実験を待たなければならない。

63) ①そうではないとあるが、どういうことか。

- 1 「しわ」は長い間水の中にいるとできるわけではない。
- 2 「しわ」はすべての人にできるというわけではない。
- 3 「しわ」には滑り止めの役割があるわけではない。
- 4 「しわ」に役割がないわけではない。

64) ②実験で最も時間がかかったのはどの場合か。

- 1 容器に水があり、「しわ」がある場合
- 2 容器に水があり、「しわ」がない場合
- 3 容器に水がなく、「しわ」がある場合
- 4 容器に水がなく、「しわ」がない場合

65) 筆者は記事を読んでどのように考えているか。

- 1 「しわ」ができるまでに時間がかかるので、滑り止めだと決めるにはまだ早い。
- 2 「しわ」ができるまでに時間がかかるが、滑り止めである可能性が高いだろう。
- 3 「しわ」があっても滑るので、滑り止めだと決めるにはまだ早い。

4 「しわ」があると滑りにくいので、滑り止めである可能性が高いだろう。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、この記事は、ある論文の実験結果をもとに書かれていた。実験は次のように行われた。ひとつの容器に小さなガラス玉を入れ、それを指でつかんで別の容器に移し替えるのにかかる時間を計る。

2、以上の結果から、実験者は、しわは水中などぬれた環境で物をつかみやすくするためにできるようになった可能性があると言っているそうだ。



## 第 45 篇

以下は、企業の経営について書かれた文章である。

いろんな規則や罰則（注 1）を作って、社員をがんじがらめに（注 2）ひたすら働かせるというタイプの経営者も、まあ今時は少ないとは思いますが、まだいることはいる。①そういうやり方が間違っていると思うのは、たとえそれで社員の労働力を物理的に 100 パーセント引き出すことができたとしても、そのかわり精神面での労働力を捨てることになるからだ。

精神面での労働力というのは、たとえば創意工夫する（注 3）能力だ。強制的に（注 4）仕事をさせるやり方では、人の創意工夫の能力を引き出すことはできないのだ。人間の心は、自由なときにその本来の能力を発揮する。楽しんで、興味を持って何かをしているとき、人はいろんなアイデアを思いつく。（中略）

そして、どんな仕事であろうとも、人間のする仕事には、この創意工夫の才能が重要な役割を果たす。一日中、ひたすらネジを締める仕事であっても、だ。どうすれば不良品を減らせるか、どうすれば作業効率（注 5）を上げられるか。たとえば QC 活動（QualityControl：品質管理のこと）を通して、作業する人が自分たちで②そういうことを積極的に考えるようになるシステムを創り上げたからこそ、日本の製造業は世界一になれたのだ。

そしてそういう能力を引き出すためには、従業員にとって、そこで働くことが本当の意味で自分のためになるという環境を作ることが欠かせない。

本人の幸せと会社の業績（注 6）が一致すれば、愛社精神なんてものは自然に育つ。強制なんかしなくても、従業員はプライドを持って心から会社のために働こうと思う。

（高田神助『ご飯を大盛りにするオバチャンの店は必ず繁盛する一絶対に失敗しないビジネス経営哲学』による）

（注 1）罰則：違反したときに従わなければならない規則

（注 2）がんじがらめにする：ここでは、縛る

（注 3）創意工夫する：新しいアイデアを考え出す

（注 4）強制的に：無理やり

（注 5）作業効率：ここでは、作業を進める速度

（注 6）業績：仕事の成果

66) ①そういうやり方が間違っていると思うのはなぜか。

- 1 社員からアイデアが生まれなくなるから
- 2 社員のアイデアが採用されなくなるから
- 3 社員の物理的な労働力が無駄になるから
- 4 社員が会社を辞めたいと思うようになるから

67) ②そういうこととは何か。

- 1 仕事の楽しみ方
- 2 よりよい仕事の仕方
- 3 単純な作業を減らす方法
- 4 世界一の会社になる方法

68) 筆者によると、経営者が社員の能力を引き出すために必要なことは何か。

- 1 社員に自分の能力を高める方法を教えること。
- 2 社員に仕事に対してプライドを持つ大切さを教えること
- 3 社員が集中して仕事に取り組める環境を作ること
- 4 社員自身が働きたいと思える環境にすること

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、そして、どんな仕事であろうとも、人間のする仕事には、この創意工夫の才能が重要な役割を果たす。

2、そしてそういう能力を引き出すためには、従業員にとって、そこで働くことが本当の意味で自分のためになるという環境を作ることが欠かせない。

## 第 46 篇

幸福は人生の目標である。それだけに一体どういうものが「幸福」なのか知るのは、それを追求する前提として深刻な課題であると思う。あるとき、若い人が、私に向かって「幸福というのはあるのか」と深刻そうな顔をして聞いたことがある。

彼は人間の欲望（注 1）というのは無限に続くものであるから、幸福感まではなかなか到達しないのではないかというのだ。なるほどそういえるかもしれない。人間が進歩する動物であるならばなおさらのことだ（注 2）。

でも、私は幸福は存在すると思っている。趣味に例をとっても、ある人は野球することをあげ、他の人は読書や映画、音楽とそれぞれに主張する。登山や魚釣りという人もいるだろう。このように趣味は人によってさまざまだが、同様に幸福についても人によっては考え方がまちまちだ（注 3）と思う。

「幸福とはどのようなもの？」と聞かれたら「裕福（注 4）になること」と答える人もいるのだろう。また、「社会的な地位に到達する」のを幸福だと考えているかもしれない。逆にそのような裕福とか社会的地位を否定して、「心の豊かな人」になることが幸福だと思っている人もいると思う。思考や感情、さらには生活様式さえ異なる人間のことで。幸福についての考え方に、差があってもいいのではないか。ただ同じく裕福を主張しても、多くの人の幸福を願って慈善事業に協力する人もいれば、一方には「がめつい奴」（注 5）の看板を背負って生きてるような人もいる。他人に何といわれようと、その人はそれで結構幸福なのだ。

人間は自分のために生きるのだから、他人に迷惑さえかけなければこれでもいいのである。しかし、私はスタートの段階ではそれでもいいが、いつまでもそのままの考えから進歩しないのでは困ると思う。私自身としては、別な生き方をする。

幸福というものについて、これだといいきれる考えはまだ私も持っていないが、私は「会社での仕事も楽しく、家庭での生活も楽しい、つまり一日二十四時間を楽しく過ごすこと」が幸福だと思っている。言葉はすこぶる（注 6）平凡だが、この内容は非凡だと自負している（注 7）。それと、自分の幸福な状態が「他人の目にも楽しく、心も楽しませる」ものでありたいとも私は思う。

（本田宗一郎『得手に帆あげて』による）

（注 1）欲望：欲しいと強く望む気持ち

（注 2）なおさらのことだ：ここでは、ますますそうだとはいえる

（注 3）まちまちだ：それぞれ違っている

（注 4）裕福：金持ち

（注 5）「がめつい奴」の看板を背負って生きてるような人：けちで欲張りな人

（注 6）すこぶる：非常に

（注 7）自負する：自分自身に自信や誇りを持つ

71) 若い人が「幸福というのはあるのか」と聞いたのはなぜか。

- 1 今まで何をしても幸福感に到達することができなかったから
- 2 幸福についての考えにはいろいろあり、何が幸福かわからなくなったから
- 3 人間の欲はなくなるので、いつまでも幸福感が得られないと考えたから
- 4 人間の欲はそれぞれ異なるので、幸福についての考え方も異なると考えたから

72) 筆者はスタートの段階ではどうすればいいと述べているか。

- 1 自分が幸福だと思えることをすればいい。
- 2 他人と同じ程度の幸福を目指せばいい。
- 3 社会的に評価されることをすればいい。
- 4 心の豊かな人」になることを目指せばいい。

73) 筆者の目指している幸福とはどのようなものか。

- 1 会社や家庭よりも、社会全体を優先する。
- 2 一日二十四時間を、自分や家族のために大切に使う。
- 3 常に楽しい生活を送り、その生き方を周りの人に認めてもらう。
- 4 会社でも家庭でも楽しく過ごし、その姿が周りの人も楽しませる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、人間が進歩する動物であるならばなおさらのことだ。

2、趣味に例をとっても、ある人は野球することをあげ、他の人達は読書や映画、音楽とそれぞれに主張する。登山や魚釣りという人もいるだろう。

3、ただ同じく裕福を主張しても、多くの人の幸福を願って慈善事業に協力する人もいれば、一方には「がめつい奴」(注5)の看板を背負って生きてるような人もいる。

## 第 47 篇

日本ではよく、「若者はもっと個性を発揮すべきだ」とか、「個性を磨くべきだ」などと言われます。けれど私は、そういう言葉にはあまり意味がないと思っています。また、日本では「個性」という言葉が主に人の外観に関して使われることにも、私は違和感（注 1）を持っています。たとえば、「個性的なファッション、個性的なヘアスタイル」は、「人がアッと驚くような奇抜（注 2）なスタイル」であることが多いでしょう。（中略）

このように考えると、「個性＝人より目立つこと」と、多くの人が錯覚（注 3）しているのではないかと思います。でも、根本的なことを言ってしまうと、この世に生まれた人間は一人残らず全員、それぞれの個性を持っています。だから、誰かに「磨きなさい」と命令されて、義務のように磨く必要などないのです。あなたが生まれ持った個性は、明らかにあなただけのものです。世界中に、あなたと同じ個性を持つ人など誰一人としていないのですから、「他の人はどうかな？」とキョロキョロすることは不必要だし、他人の真似をする必要もありません。真似しようとしても真似できないのが、個性というものなのです。

あなた自身が「楽しい、面白い、不思議だ、ワクワクする、ドキドキする」と感じ、心から求めているものを優先すれば、それでいいのです。「磨く」とか「発揮する」などと意識しなくても、自分が本当に好きなもの、興味があることに気持ちが向かっていけば、自分の世界がどんどん広がっていく。それが本当の意味で「個性を磨く」ということです。

（今北純一『自分力を高める』による）

（注 1）違和感：ここでは、なにか違うという感じ （注 2）奇抜な珍しくて目立っている

（注 3）錯覚する：勘違いする

60 日本人が使う「個性」という言葉について、筆者はどのように述べているか。

1. 本来の意味とは違う使い方がされている。
2. 意味がないと思っている人が多い。
3. 主に若者に対して使われている。
4. 人によって使い方がさまざま。

61 個性について、筆者の考えに合うものはどれか。

1. 他人には理解できないものである。
2. 人より目立つことで発揮できるものである。
3. 人間なら誰でも持っているものである。
4. ファッションを通して主張できるものである。

62 筆者によると、本当の意味で「個性を磨く」とはどのようなことか。

1. 自分の心に従って、関心があることを追い求めること
2. 自分が好きかどうかより、個性的に見られるかどうかを優先すること
3. 周囲の意見を参考に、無理なく自分の世界を広げること
4. どんな物事にも、楽しさや面白さを見つける努力をすること

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、世界中に、あなたと同じ個性を持つ人など誰一人としていないのですから、「他の人はどうかな？」とキョロキョロすることは不必要だし、他人の真似をする必要もありません。

2、「磨く」とか「発揮する」などと意識しなくても、自分が本当に好きなもの、興味があることに気持ちが向かっていけば、自分の世界がどんどん広がっていく。

煦和日语  
クワニホンゴ



## 第 48 篇

「話し言葉」の最も重要な特徴は、声を使うところにあるのではなく、聞き手が目の前にいるというところにあります。話し手と聞き手は、親しい関係の場合もあれば、初対面の人、行きずり（注 1）の人の場合もありますが、少なくとも両者は、そこがどんな場所で、どんな状況であるかについて、一定の共通認識（注 2）を持っています。同時に、相手がどういう人であるかについても、ある程度はわかります。

（中略）

ところが「書き言葉」になると、たとえ親しい相手への手紙でも、あちこちで説明が必要になります。自分しか読まないはずの覚え書きでも、時間がたつと書かれた状況がわからなくなりますから、「あとで読み返すかもしれない自分」への最低限の配慮（注 3）はしておかなくてはなりません。説明するというのは、「自分には言葉にしなくてもわかっていること」を、わざわざ言葉にする作業ですから、とてもやっかいです。でも、そこがきちんとできていないと、誤解が生じて取り返しのつかない（注 4）結果になることもありえます。

面とむかって（注 5）の話なら、相手が気を思くすれば急いで謝ることもできますが、手紙だと、怒らせたことに気づかないまま関係が切れる恐れすらあるのです。ですから、「書き言葉」においては、文字の読み書きという知識に加えて、自分が書いたものを読む相手がどんな情報を必要としているかを推測する（注 6）力、そして、その情報を、どんな言い方、どんな順序で提供すれば、わかってもらいやすく、誤解が生じにくいかを考える力が、いかに（注 7）大きな意味を持つかが分かっているだけでいいと思います。

（協明子『読む力が未来をひらく一小学生への読書支援』による）

（注 1）行きずりの人：たまたま出会った人 （注 2）認識：理解

（注 3）配慮：気配り （注 4）取り返しのつかない：もとに戻せば大変な

（注 5）面とむかって：対面して （注 6）推測する：ここでは、想像する

（注 7）いかに：どんなに

63 筆者によると、「話し言葉」の重要な特徴とは何か。

1. 話し手と聞き手が声を使って情報を共有するところ
2. 話し手と聞き手の関係が多様であるところ
3. 話し手が聞き手との親しさによって表現を使い分けるところ
4. 話し手が聞き手と場面を共有するところ

64 誤解が生じてとあるが、どのような時に誤解が生じるのか。

1. 読み手に必要な情報を十分に説明していない時
2. 読み手が理解していることを再び説明してしまった時
3. 自分のために書いたものを相手に送ってしまった時

4. 気を悪くした相手にきちんと謝らなかった時

65「書き言葉」について、筆者の考えに合うのはどれか。

1. 相手がどのような情報を必要としているのかを調べることが大切だ。
2. 何をどのように書けば相手が理解できるかを考えることが大切だ。
3. 言い方や順序よりも文字と言葉の正確さを優先させたほうがいい。
4. 読み書きの知識よりも書く内容を重視したほうがいい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、話し手と聞き手は、親しい関係の場合もあれば、初対面の人、行きずり（注1）の人の場合もありますが、少なくとも両者は、そこがどんな場所で、どんな状況であるかについて、一定の共通認識（注2）を持っています。

2、「書き言葉」においては、文字の読み書きという知識に加えて、自分が書いたものを読む相手がどんな情報を必要としているかを推測する（注6）力、そして、その情報を、どんな言い方、どんな順序で提供すれば、わかってもらいやすく、誤解が生じにくいかを考える力が、いかに（注7）大きな意味を持つかが分かっているだけだと思います。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 49 篇

従来（注 1）、旅行業にとって顧客（注 2）を喜ばせることは難しくなかった。自分の行ったことがないところに行きたい、見たことがないものを見たい、食べたことのないものを食べたいというのが主なニーズであったし、長い休みの存在自体が旅行の動機になり得たからだ。だから参加者の多くは、そこに行って、そこそこ（注 3）の観光ができれば、十分に満足した。

旅行会社は、価格を抑えるために人々を大量に効率良く（注 4）送客すればよかった。北海道や沖縄、グアムやハワイ、アジアのリゾート地... 場所の魅力を繰り返し伝えて刺激し続ければそれでよかった。しかし、そうして多くの人がさまざまな場所に出掛けるようになると、今度はただ行くだけでは満足しなくなる。目的が必要になる。行ってどうするのか、何ができるのかという目的が重要になる。（中略）

この流れは現在も続いており、旅の動機づけとしては重要な視点となっている。ただ、残念ながらそういうことをマス（注 5）としてとらえることが、価値観の多様化のなかで難しくなっている。個々の目的を一つに束ねてマスの企画にすることが難しいのだ。ブームが発生しづらくなっている状況と原因は同じであろう。（近藤康生『なぜ、人は旅に出るのか』による）

（注 1）従来：これまで （注 2）顧客：客 （注 3）そこそこの：まあまあの

（注 4）効率良く：ここでは、経費や時間をかけずに （注 5）マス：集団

66 筆者によると、これまでの旅はどのようなものだったか。

1. 高くても遠い場所でのんびり過ごせればよかった。
2. 経験したことのないことができればよかった。
3. 気に入った場所に繰り返し行ければよかった。
4. 近くて安い場所に短期間に行ければよかった。

67 筆者によると、客は旅で何を重視するようになってきたか。

1. 一回の旅行でさまざまな場所へ行けるかどうか
2. 観光するだけで満足できるかどうか
3. 行ってしたいことができるかどうか
4. 新しい場所へ行けるかどうか

68 筆者によると、旅行会社が難しいと感じている点は何か。

1. 個々のニーズに合った団体旅行を考え出すこと
2. 魅力を感じてもらえる場所を探し続けること
3. 旅行に行こうという気持ちにさせること
4. 価格を抑えた団体旅行を企画すること

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、自分の行ったことがないところに行きたい、見たことがないものを見たい、食べたことのないものを食べたいというのが主なニーズであったし、長い休みの存在自体が旅行の動機になり得たからだ。

2、ただ、残念ながらそういうことをマス（注 5）としてとらえることが、価値観の多様化のなかで難しくなっている。



## 第 50 篇

以下は、あるデザイナーの書いた文章である。

私のアイディアのもと、自分の生きてきた道の中にすべて詰まっているのだ、というふうに思っています。いままで生きてきた中で、感動したことを現代に持ち帰ってくる。過去の中で感動したことをコピーして、それをデザインしているのです。アイディアはいつも人から、時代からもらう。自分で考え出すことは少ないのです。

私は、感動したときのシーンはよく覚えています。色も匂いも形も光も季節も、そのときの景色も、そのときその場に誰がいたかも、何を食べたかも、思い出の中に鮮明に刻み込まれています。感動すると、それくらい記憶装置が自動的に働いて、すべてを映し込んでいるのです。

(中略)

中学の頃のこと、高校のあのとき、社会人になったときのこと、妻と旅をしたときの情景などいろいろなシーンが思い出されて、それを遡って切り取りにいくわけです。けれどもそれが、もや一とした（注1）ものだと切り取れない。なぜ、もや一とするかと言えば、心の底から感動していないからです。しっかり感動していないと、持ち帰れないのです。

感動は、自分の力だけでなく、親の力だったり、友だちの力だったり、ほかの人の力によってもつくられています。子どものときから大事に育てられたとか、自分を包んでくれる街がきちっと大人たちによって美しく保たれていたとか、そういう周囲の力で作られている場合もあるわけです。そうした感動の思い出を大切に持ち帰ってきて、いまあるものとコラボレーションする（注2）と、新商品が生まれます。そういう意味では、まるっきりの（注3）新商品なんてあり得ません。アイディアはいつも、そんな過去の「感動の森」の中から探し出してくるものなのです。

いい思い出がたくさんあるかどうか、いい人に会ったかどうか、美味しいものを食べたかどうか。そういうヒト・コト・モノとのよき思い出の引き出しをどれだけ持っているかによって、アイディアの湧き出る（注4）量は変わります。

（水戸岡鋭治『あと1%だけ、やってみよう一私の仕事哲学』による）

（注1）もや一とした：はっきりしない

（注2）コラボレーションする：ここでは、組み合わせる

（注3）まるっきりの：全くの

（注4）湧き出る：ここでは、生まれてくる

71 感動したことを現代に持ち帰ってくるとは、どのようなことか。

1. 感動したシーンを人に語る。
2. 感動した記憶をデザインに生かす。
3. 過去に流行したデザインをコピーする。
4. 人が感動したことからデザインのヒントをもらう。

72 感動について、筆者の考えに合うのはどれか。

1. 感動は周囲の力でしかつukられない。
2. 感動したことは年を取るにつれて思い出せなくなる。
3. 周囲の力でつukられた感動は記憶に残りやすい。
4. 心の底から感動したことは鮮明な思い出となる。

73 アイディアについて、筆者はどのように考えているか。

1. 記憶が強いほど、アイデアが生まれやすくなる。
2. 他人の力を上手に利用することで、アイデアが商品につながる。
3. 感動した思い出が豊富であるほど、多くのアイデアが生まれる。
4. 感動をヒト・コト・モノに分けて考えると、いいアイデアが生まれる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、私のアイデアのものは、自分の生きてきた道の中にすべて詰まっているのだ、というふうに思っています。いままで生きてきた中で、感動したことを現代に持ち帰ってくる。

2、子どものときから大事に育てられたとか、自分を包んでくれる街がきちっと大人たちによって美しく保たれていたとか、そういう周囲の力でつukられている場合もあるわけです

## 第 51 篇

話す場合には、たいがい（注 1）、聞き手がすぐ近くにいて、そのとき、その場で自分の考えに表現を与えながら、さらなる考えを進めていく。（中略）

それに対して、①書くという表現の場合には、たいていはひとりで、じっくり時間をかけて、ノートやパソコンなどを使って、考えたことを文字にしていったり、あるいは考えながら文字にしていけることが多いはず。考えたことが消えずに文字として残ることも、話す場合とは大きく違う点です。ちょうど本という活字メディア（注 2）が、読者にとって自分のペースで考えながら読んでいくことができるのと同じように、書くという行為は、話すのと違って自分ペースで、行きつもどりつ（i3）しながら、考えを進めていくことができる表現方法なのです。

しかも、考えたことを文字にしていける場合、いい加減であいまいなままの考えでは、なかなか文章になりません。何となくわかっていることでも、話し言葉でなら、「何となく」のニュアンス（注 4）を残したまま相手に伝えることも不可能ではありません。それに対して、書き言葉の場合には、その②「何となく」はまったく伝わらない場合が多いのです。身振りも手振りも使えません。顔の表情だって、読み手には伝わりません。それだけ、あいまいではなく、はっきりと考えを定着させることが求められるのです。そのような意味で、書くという行為は、もやもやした（注 5）アイデアに明確なことばを与えていくことであり、だからこそ、書くことで考える力もついていくのです。

（荻谷剛彦『知的複眼思考法一誰でも持っている創造力のスイッチ』による）

（注 1）たいがい：たいてい

（注 2）活字メディア：ここでは、活字で書かれたもの

（注 3）行きつもどりつ：行ったりきたり

（注 4）ニュアンス：ここでは、微（び）妙（みょう）な感じ

（注 5）もやもやした：ぼんやりした

（60）①書くという表現をする場合の特徴として、筆者が述べているのはどれか。

- 1 時間をかけるほどうまく書くことができる。
- 2 読み手の反応を想像しながら書くことができる
- 3 道具を利用するので考えを早くまとめることができる
- 4 何度やり直しをしながら考えを進めることができる

（61）②「何となく」はまったく伝わらない場合が多いとあるが、なぜか。

- 1 読み手とのやり取りがないから
- 2 読み手によって受け取り方が変わるから
- 3 微妙な感覚を表現する言葉が少ないから

4 文字以外に表現手段がないから

(62) この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 話すより書くほうが、自分の考えを人に伝えられる。
- 2 自分の考えを書いて表現すること、思考力が向上する。
- 3 時間をかけて何度も書き直せば、わかりやすい文章が書ける。
- 4 思考力をつけるためには、あいまいな考えは書かないほうがいい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、話す場合には、たいがい、聞き手がすぐ近くにいて、そのとき、その場で自分の考えに表現を与えながら、さらなる考えを進めていく。

2、そのような意味で、書くという行為は、もやもやしたアイデアに明確なことばを与えていくことであり、だからこそ、書くことで考える力もついていくのです。



## 第 52 篇

飲み物を買いに飲料売り場に行くと、商品が多様になっていることに気づく。これらの中から消費者に自社の製品を選択してもらうため、メーカーは味はもちろん、ボトルにもこだわっている。あるメーカーが、仕事中に飲んでもらうことをねらって緑茶の新製品を開発した。仕事中よく飲まれているコーヒーの代わりになるように、味は通常より濃くした。また、ボトルはペットボトルではなく、コーヒーに多く使われる金属製のものとし、香りが楽しめるように飲み口を広くした。ボトルの色使いは濃い緑や黒や金などにして、味の濃さや高級感を表現した。これらの努力が実り、①ねらいどおりに好調な売れ行きを見せているという。

この例のようにメーカーがボトルにもこだわるのは、消費者にボトルの材質や形の好き嫌いがあるという事実があるからだ。緑茶のボトルに関する②ある消費者調査の結果を見ると、金属製ボトルに対して、60 歳未満の人は高級感を感じ好印象を持っているが、60 歳以上の人抵抗を感じ、ペットボトルのほうを好むことがわかった。しかし、ペットボトルを好むといっても、その形や色については意見が分かれた。60 歳以上の男性は見慣れた形や色のペットボトルの評価が高いが、同年代の女性は目新しい形や色のペットボトルに好感を持っていた。

年代や性別によってこのように好みが分かれる以上、店に多様な商品が並ぶことになるのはもっともなことだろう。

(63) ①ねらいどおりに好調な売れ行きを見せているとあるが、どのような人たちによく売れているのか。

- 1 仕事中にコーヒーを飲んでいた人たち
- 2 高級なコーヒーをよく飲んでいた人たち
- 3 他とは違う緑茶製品を求めていた人たち
- 4 緑茶の香りを楽しみたいと思っていた人たち

(64) ②ある消費者調査の結果について、この文章で述べられているのはどれか。

- 1 金属製ボトルに対する抵抗感には男女差がある。
- 2 金属製ボトルに対しては、60 歳を境に好みが分かれる。
- 3 目新しい形や色のペットボトルは、性別を問わず好まれる。
- 4 60 歳以上の人は、男女ともに見慣れた形や色のペットボトルを好む。

(65) メーカーの取り組みについて、この文章からわかることは何か。

- 1 味だけでなく容器にも消費者の好みを反映させている。
- 2 味より見た目を重視するようになってきている。
- 3 メーカーに対する消費者の印象を良くしようとしている。

4 年代や性別の違いを超えて売れる商品を開発している。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、これらの中から消費者に自社の製品を選択してもらうため、メーカーは味はもちろん、ボトルにもこだわっている。

2、年代や性別によってこのように好みが分かれる以上、店に多様な商品が並ぶことになるのはもっともなことだろう。



## 第 53 篇

大人になってからの勉強で、なかなか理解が進まないことの大きな原因の一つが、実は、復習をちゃんとしないことにある。学生時代の勉強は、いやでも復習がカリキュラムの中に織り込まれている（主 1）ので、知識が定着しやすくなっている。これに対して、大人になって自分で勉強するときには、意識して復習の機会をつくらないと、一回本を読んだだけで「もうわかった。大丈夫」と思い込んでしまいがちになるのだ。

脳の特性（注 2）として、目や耳から入った情報をいったん溜めておいて、その中から必要のないと思われる情報を自動的に脳の奥底にしまい込んでしまう。では、どこで、「必要な情報」と「無用な情報」をよりわけている（3）のかというと、同じ情報が繰り返し入ってくるかどうかということである。この間隔は一カ月と言われており、すなわち、一カ月の間で最低二回繰り返し頭に入れることで、「必要な情報」だと脳が認識し（注 4）、知識が定着していくのである。逆に言えば、一度頭に入れて覚えたつもりでも、一カ月の間に繰り返し情報が入ってこなければ、いずれは「無用な情報」として脳がどこかに片付けてしまうのだ。

この結果、いったん覚えたはずの知識は、しばらくすると記憶の中から掻き消えて（注 5）しまったようになり、実際に試験をしてみるとまったく思い出せないということが起こる。そこで、「年をとって記憶力が弱くなった」とか、「できていたはずなのに」と落ち込んでしまうけれど、実際には老化のせいでも何でもなく、単に復習をしていないだけだということが多いのだ。

（和田秀樹『40 代からの勉強法一やる気・集中力をどう高めるか』による）

（注 1）織り込まれる：ここでは、入っている （注 2）特性：ここでは、特徴的な働き

（注 3）より分ける：ここでは、分類する （注 4）認識する：ここここでは、判断する

（注 5）掻き消える：なくなる

（66）筆者によると、学生時代のほうが知識が定着しやすいのはなぜか。

- 1 大人より記憶力が優れているから
- 2 大人と比べて「わかった」という思い込みしないから
- 3 学校では一度学んだことを繰り返し勉強するから
- 4 学校では覚えたほうが良い知識だけが教えられているから

（67）筆者によると、一カ月以内にどうすれば知識が定着していくか。

- 1 得た情報をすでに持っている情報と関連づける
- 2 得た情報をもう一度思い出して整理する。
- 3 得た情報と関係のある情報を繰り返し頭に入れる。

#### 4 得た情報と同じ情報をもう一度頭に入れる

(68) 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 大人が勉強する場合には、意識して復習を取り入れることが大切だ。
- 2 大人が知識を習得するには、学生時代より多く復習しなければならない。
- 3 復習を習慣にすれば、老化による記憶力の衰（おとろ）えを防ぐことができる。
- 4 一度忘れてしまった知識でも、復習すれば思い出すことができる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、逆に言えば、一度頭に入れて覚えたつもりでも、一カ月の間に繰り返し情報が入ってこなければ、いずれは「無用な情報」として脳がどこかに片付けてしまうのだ。

2、そこで、「年をとって記憶力が弱くなった」とか、「できていたはずなのに」と落ち込んでしまうけれど、実際には老

## 第 54 篇

以下は、自分の仕事として、さまざまな地域の課題に住民とともに取り組んでいる人が書いた文章である。

よく考えてみれば、幼稚園のころから僕はずっとヨソモノ（生り）だったような気がする。親が転勤族だったため、おおむね 4 年に一度は転校生になる。クラスに馴染んできた（注 2）なあ、と思ったところに引越しすることになる。幼稚園も小学校も中学校もふたつずつ通った。そのたびに転校生としてクラスをヨソモノの視点から観察する。誰（だれ）がクラスのボス（\*3）なのか。誰と仲良くなると仲間に入れてもらいやすいのか。誰と誰は仲が良くて、誰とは仲が悪いのか。そういうことばかり読み取ろうとしていた。自分でも嫌な小学生だと思っていたが、そうやって自分の立ち位置を見つけなければクラスの中に入るのが難しかった。

しかも①同じことをしているような気がする。集落（4）へ行っては、誰が権力者（±5）なのか、誰が正しいことをしているのか、誰の意見が重視されているのか。誰と誰は仲がいいのか。そんなことを読み取ろうとしている。そして、4 年くらい経ってらその集落からいなくなる。いまでも転校生のような生活である。

そんな少年時代だったから、「出身地はどこですか？」と聞かれるのがつらい。どこも 4 年間しか住んでいないので、出身地は適当に決めるしかない。出生地（注 6）は明確だが、僕（ぼく）の場合は生後 2 年間しかその場所に住んでいない。もちろん当時の記憶はない。

だから「ふるさと」を持つ人に対する憧れがある。「いつかは地元に戻って働きたいと思っているんだ」「出身地を元気にしたいと思っています」という言葉を聞くたびに②羨ましくなる。逆に、ふるさとを悪くいう言葉を聞くのはつらい。「田舎だから」何もないから」「足を引っ張り合う（注 7）」「新しいことができない」。せっかくふるさとを持っているのに、それを悪くいうのはもったいない。ふるさとはいい場所であってほしい。だから、その手伝いがしたいと思う。どこまで行ってもヨソモノだが、その立場から少しでもふるさがいい状態になるように努力したい。どの場所も、たくさんの人にとってのふるさとであり続けるのだから。（山崎亮「コミュニティデザインの時代」による）

（注 1）ヨソモノ：よそから来た人 （注 2）馴染む：慣れて親しくなる

（注 3）ボス：ここでは、力を持った人 （注 4）集落：ここでは、村のようなところ

（注 5）権力者：ここでは、力を持った人 （注 6）出生地：生まれた場所

（注 7）足を引っ張り合う：成功するのをじゃまし合う

（71）①同じこととあるが、集団の中でどのようなことをしているのか。

- 1 仲間になれるように努力すること
- 2 仲間に入らないようにすること
- 3 自分と合う人を見つけ出すこと

## 4 人間関係を観察すること

(72) ②羨ましくなるとあるが、なぜか。

- 1 自分のふるさとの記憶はあいまいだから
- 2 自分のふるさとには嫌な思い出しかないから
- 3 自分にふるさとと呼べる場所がないから
- 4 自分にはふるさとの良さがわからないから

(73) 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 誰にとってふるさとだと思えるような理想の場所をつくりたい
- 2 みんなが自分自身のふるさとをいい場所だと思えるようにしたい
- 3 ヨソモノであっても、受け入れてくれるようなふるさとをつくりたい
- 4 ふるさとのない人にも、ふるさとというものの良さを伝えられるようにしたい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、自分でも嫌な小学生だと思っていたが、そうやって自分の立ち位置を見つけなければクラスの中に入るのが難しかった。

2、「いつかは地元に戻って働きたいと思っているんだ」「出身地を元気にしたいと思っています」という言葉を聞くたびに羨ましくなる。

## 第 55 篇

人間というのは、自分でわかっていることに関しては手早くポイントだけを取り出して相手に教えて、たくさんの説明をつい省略してしまいがちだ。そのせいで、教わる側が理解しにくくなってしまうこともある。人に教える時には、自分が理解した時点まで戻って丁寧に相手に伝えないと、うまく理解してもらえないのではないかな。

また、そのプロセスの中で、教わる側が積極的に質問することがとても重要だと思う。質問をすれば、何を理解していないのか、何を誤解しているのかが、教える側にとってもよくわかるからだ。それに、同じことでも繰り返し説明されることによって、理解が深まるケース（注 1）も多い。

個人的には、一回だけの説明で理解してもらえるケースというのは、実はとても少ないのではないかなと思っている。

また、すべてを教えるのではなく大部分を伝え、最後の部分は自分で考えて理解させるようにするのが、理想的な教え方ではないかと考えている。

一方的に入ってきた知識は、一方的に出て行きやすい。しかし、自分で体得（注 2）したものは出て行きにくい。

小学生に大学の講義を聞かせてもチンプンカンプンな（注 3）ように、相手のレベルに合わせて、相手が必要としていることを教えなければ意味はない。それは、非常に微妙な調整を必要とする、ある種の職人技だ。そんなところが、教える側の大きなやり甲斐ではないかと考えている。（羽生善治「大局観—自分と闘って負けない心」による）

（注 1） ケース：場合

（注 2） 体得する：身につける

（注 3） チンプンカンプンな：全てわからない

**（60）教える側がよくしてしまうことは何か。**

1. 自分がわかっていることは相手にすべて教える
2. 自分がわかっていることは簡単な説明で済ませる
3. 自分がよく理解していないことは説明を省略する
4. 自分が理解したのと同じやり方で相手に理解させる

**（61）理想的な教え方とはどのようにすることか。**

1. 教わる側に質問をして、理解できたかを確認すること
2. 教わる側と一緒に考えながら、理解させるようにすること
3. 最後にそれまでの内容をまとめて説明し、理解を深めさせること
4. 最後の部分は、教わる側に自分で考えて理解させるようにすること

(62) ある種の職人技とあるが、どのようなことか。

1. 相手が覚えるまで繰り返し教えられること
2. 相手のレベルを超えた内容も教えられること
3. 内容や教え方を相手に応じて変えられること
4. 誰でも理解できるような知識だけを選ぶこと

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、人間というのは、自分でわかっていることに関しては手早くポイントだけを取り出して相手に教えて、たくさんの説明をつい省略してしまいがちだ。

2、また、すべてを教えるのではなく大部分を伝え、最後の部分は自分で考えて理解させるようにするのが、理想的な教え方ではないかと考えている。



## 第 56 篇

近年、おもちゃメーカーが大人に向けおもちゃに力を入れ、売り上げを伸ばしている。少子化に伴い、マーケットを大人にまで広げる必要性が出てきたという事情もあるが、この売り上げの伸び方はそれだけでは説明できない。その裏には、大人に「おもちゃを買いたい」と思わせたおもちゃメーカーの戦略がある。

子供のときに欲しいおもちゃをすべて買ってもらえたという人はいないだろう。買ってもらいたかったのにといい思いを忘れられず、今でもおもちゃに思いを寄せる大人は意外と多い。おもちゃメーカーはそこに注目した。しかし、大人が子供向けのおもちゃを買うことには抵抗感があると同時に、物足りなさを感じる。大人向けのおもちゃには、大人が買いたくなる工夫が必要だ。例えば、鉄道模型には特殊な素材を使用し、完成後にインテリアとして飾ることができる。組み立て式のミニギターは組み立て後に本格的な演奏も楽しめるし、色使いが落ち着いたカードのゲームは気持ちをリックスさせる。このように、大人向けのおもちゃには単におもちゃとして遊ぶだけではない他の魅力がある。

また、大人向けのおもちゃは高いものが多い。高くしたほうが価値があると考えられて人気が出ることもさえる。一般的におもちゃメーカーは商品価格をあまり高く設定できないものだが、大人向けのおもちゃならできる。おもちゃメーカーにとっては魅力的なマーケットである。

(63) そこに注目したとあるが、何に注目したのか。

1. 子供の時にあまりおもちゃで遊ばなかった大人が多くいること
2. 子供の時に遊んでいたおもちゃを大人が欲しがっていること
3. おもちゃへの思いを持ち続けている大人が多くいること
4. おもちゃの中には大人でも楽しめるものがあること

(64) 大人向けのおもちゃには、どのような工夫があるか。

1. 遊ぶ目的以外の違ったよさを感じられるようにしてある
2. 大人にあわせた高度な遊びができるようにしてある
3. 2つ以上の遊び方ができるようにしてある
4. 何度でも飽きずに遊べるようにしてある

(65) メーカーにとって大人向けのおもちゃマーケットの何が魅力的なのか。

1. 子供向けのおもちゃと同様に多く売れる点
2. 昔と同じおもちゃを作れば売れる点
3. 工夫が多ければ多いほど売れる点
4. 価格を高くしても売れる点

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、近年、おもちゃメーカーが大人に向けおもちゃに力を入れ、売り上げを伸ばしている。少子化に伴い、マーケットを大人にまで広げる必要性が出てきたという事情もあるが、この売り上げの伸び方はそれだけでは説明できない。

2、一般的におもちゃメーカーは商品価格をあまり高く設定できないものだが、大人向けのおもちゃなら  
できる。



## 第 57 篇

今の若い人は、ある程度完備した科学社会に生まれている。携帯電話もカーナビ（注 1）も当たり前になった社会である。発展の過程を見ていない彼らは、こういった原理でそれらが機能しているのかわからない。知らなくても、その恩恵を受けることができる。充電さえしていれば、誰とともいっても連絡がつくと信じている。電波がどんなもので、どのような設備によって成り立っているのかわからない人が多い。十数メートルしか離れていない場所なのに、携帯電話が通じなくなることがあるなんて、考えてもいないだろう。

こういった「科学離れ」については、昔から問題意識があった。だから、子供たち向けに科学を教育するシステムをいろいろな形で模索（注 2）してきた。けれども、僕が感じるものが一つある。そういう教育をしているのは、科学が好きな人たちだ。だから、口を揃えてこう言う、「科学の楽しさを子供たちに知ってもらいたい」と。この言葉を聞くたびに、「楽しさ」を押し付けている姿勢を感じずにはいられない。

読書の楽しみを知ってもらいたい。スポーツの楽しさを感じてもらいたい。他の分野でも、こういった姿勢は根強い。しかし、科学の場合は、そんな悠長な（注 3）問題ではない、と思うのだ。読書やスポーツが嫌いな人は、それをしなくても良いだろう。楽しみは、ほかにいくらでもある。しかし、科学を避けることは、この現代に生きていくうえではほとんど無理なのである。（中略）もはや（注 4）、好きとか嫌いで片付け（注 5）られるものではない、ということだ。

（森博嗣「科学的とはどういう意味か」による）

（注 1）カーナビ：自分の車の位置を知らせながら道案内する装置

（注 2）模索する：探し求める

（注 3）悠長な：のんびりした

（注 4）もはや：今ではもう

（注 5）片付ける：済ます

（66）筆者は、今の若者をどのように見ているか。

1. 科学が発展した社会に生まれたので、携帯電話などの機器のない不便さを知らない。
2. 科学社会で育っていても、携帯電話などの機器の原理を知らないで使っている。
3. 科学の発展過程を知らないため、携帯電話などの機器の進歩が実感できない。
4. 科学に関心がないので、携帯電話などの機器を十分に活用していない。

（67）僕が感じるものが一つあるとあるが、何を感じているか。

1. 科学が好きな人たちだけが、科学の楽しさを教えられるわけではない。

2. 「科学離れ」を防ぐには、科学の楽しさを教えることが大切だ。
3. 科学の楽しさは、子供が簡単に理解できるものではない。
4. 科学教育は、科学の楽しさばかりを強調している。

(68) 筆者の考えに合っているのはどれか。

1. 現代は科学とかかわらずに生きていくことはできない。
2. 現代科学を無理に好きになる必要はない。
3. 科学が読書やスポーツより楽しくないのは当然だ。
4. これからは科学嫌いをなくさなければならない。

■ 次の文を中国語で訳してください。

- 1、電波がどんなもので、どのような設備によって成り立っているのかを知らない人が多い。
- 2、この言葉を聞くたびに、「楽しさ」を押し付けている姿勢を感じずにはいられない。
- 3、しかし、科学を避けることは、この現代に生きていくうえではほとんど無理なのである。

## 第 58 篇

小説家になりたい人には「好きな作家のものを全部読む」という読書法をすすめる。好きな、というのは、自分に合っている気がして読みやすく、しかも楽しいというものだ。

いろんな作家をちょっとずつ読む、というのでは、あまり身につくものがない。ベストセラーになっている話題作をせっせと追いかける、というのは①もっとよくない。(注 1)

ベストセラーになる小説は、とりあえず何かいいところがあって売れているのだから、読めば参考になるのではないかと言うかもしれないが、それを読んで参考にしている人がたくさんいる、ということなのだ。みんなが狙っている方向で、自分もやってみるというのでは、目立つこともないわけである。(中略)

ひとりの作家（あなたにとって、不思議に肌合い（注 2）がよくて楽しめる小説を書く人）の全小説を読んでみるのは、知らず知らずのうちに、その作家の「小説作法」を感じ取ることである。この人は小説を、このように構成するのだ、そこが心地（注 3）いいのだ、とわかることである。この人は人間心理を、このように描写する（注 4）、この人の社会観はこうである、なんてこともわかる。

②それがわかれば、似たようなものを書くところまであと一歩、なのである。特別にマネして書こうと思っていなかったとしても、書くものは自然と、その作家の作風（注 5）と似たものになり、初心者が書いたにしては完成度が高いものになるだろう。

こう反論する人がいるかもしれない。小説を書いて世に発表したいという願望は、自分というものを世間に知らしめたい（注 6）ということであって、つまり自己表現欲から出てくるものだ。それなのに、他人の作品をマネているのでは、自分の表現にはならないのではないか。

自己表現欲ことは、確かにその通りである。しかし、慌てないで順に段取りを踏んでいこうではないか。いきなり自分らしさを出したいと考えるのではなく、まずは世間が振り向いてくれるレベルのものが書けるよう、上達する必要があるのだ。

私の書くものには価値があるのだから、世間が注目しなければならない、と思い込んでしまう人が案外いるのだが、それではなかなか読んでもらえない。

だから、まずはうまく書けるようにならなければいけない。

そのための訓練として、ある作家を熟読（注 7）しているというのは、大変に有効なのである。

（清水義範「小説家になる方法」による）

（注 1）ベストセラー：ここでは、最も売れている本

（注 2）肌合いがよい：ここでは、自分の感覚に合う

（注 3）心地よい：快い

（注 4）描写する：表現する

（注 5）作風：作品に表れた特徴

（注 6）知らしめたい：知らせたい

(注7) 熟読する：意味を考えて、よく読む

(71) ①もっとよくないとあるが、なぜか。

1. 話題作は次々と変わるので、共通の特徴がつかめないから
2. 話題作となる理由はさまざまなので、参考にならないから
3. 話題作を参考にしても、他者と似た作品にしかないから
4. 話題作ばかり読んでも、作品の本当のよさがわからないから

(72) ②それとは何か。

1. 自分の好きな多くの作家の小説作法
2. 自分の好きなひとりの作家の小説作法
3. 話題作を書いたいろいろな作家の小説作法
4. 話題作をたくさん書いたひとりの作家の小説作法

(73) 筆者によると、小説家になりたい人がまず目指すべきことは何か。

1. 自己表現欲に従って、完成度の高いものを書くこと
2. 自分が書いた作品に自信を持って、世に発表すること
3. 自分らしさが伝えられるようにうまく書くこと
4. 世の中の人に読んでもらえる段階まで上達すること

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、ベストセラーになる小説は、とりあえず何かいいところがあって売れているのだから、読めば参考になるのではないかと言うかもしれないが、それを読んで参考にしている人がたくさんいる、ということなのだ。

2、いきなり自分らしさを出したいと考えるのではなく、まずは世間が振り向いてくれるレベルのものが書けるよう、上達する必要があるのだ

## 第 59 篇

以前、高校の教え子たちと話していて①ふと気づいたことがある。疑問に感じることの幅の広さ、疑問の大きさの違いだ。「どうして?」「なぜ?」という問いは、人間にとって、だれもが持ち合わせるごく当たり前の心のはたらきだと思っていた。しかし実際には、その広がり、対象範囲が人によってまったく異なるのだ。(中略)

疑問とは、「興味の現れ」にほかならない(注1)。なにごとにも無関心な生徒は、会話もじつに淡泊(注2)である。他者とのコミュニケーションにも興味が無い。興味が無いから、疑問も起きてこない。私はというと、物心ついたとき(注3)から好奇心旺盛な(注4)子どもであった。「このおもちゃの内部はどうなっているんだろう?」そう思えばらばらに分解しては、元に戻せなくて泣いていたものである。

自分を取り巻く(注5)社会で起きるあらゆること、たとえば学校の授業で先生が教えたり、指導する内容にだって「なんで?」と思っていいのだ。会社の上司の指示にも「なんで?」と思っていい。親の躾にも「なんで?」と思っていい。

問題は、「なんで?」だけで思考が終わってしまうことだ。②それではダメだ。というのは、「なんで?」だけで終わってしまうと、その後に「反抗」「反感」の感情が心に渦巻いて(注6)しまうだけだからである。「なんで?」に始まり、そこから「どうしてそうなるの?」「本当にそうなの?」と、自分なりに考えを極めて(注7)いく作業が大切であり、そこに成長の鍵がある。

(山本博『持続力』による)

(注1) ~にほかならない：ここでは、~と同じだ

(注2) 淡泊：「淡泊」とも書く

(注3) 物心ついたとき：世の中のことが何となく分かってきたとき

(注4) 好奇心旺盛な：いろいろなことに興味を持つ

(注5) 自分を取り巻く：自分の周りの

(注6) 感情が心に渦巻く：ここでは、感情で心が乱れる

(注7) 考えを極める：ここでは、徹底的に考える

60 ふと気づいたこととは、どんなことか。

- 1 どんなことにも疑問を持たない高校生が増えている
- 2 高校生の疑問の範囲が狭くなっている。
- 3 疑問の対象は世代によって異なる
- 4 疑問の範囲は人によって異なる

61 それではダメだとあるが、なぜか。

- 1 反発する気持ちを表現しなくなるから
- 2 反発する気持ちが生まれるだけだから
- 3 疑問が大きくなってしまっただけだから
- 4 疑問を持たなくなってしまうから

62 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 疑問に感じたことを深く考えることが成長につながる
- 2 あらゆることに疑問を持つことが考えを広げる
- 3 疑問を探し続けることが成長の鍵である
- 4 疑問を持つことは「興味の現れ」である。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、「どうして?」「なぜ?」という問いは、人間にとって、だれもが持ち合わせごく当たり前の心のはたらきだと思っていた。

2、私はというと、物心ついたとき（注3）から好奇心旺盛な（注4）子どもであった。

3、「このおもちゃの内部はどうなっているんだろう?」そう思えばらばらに分解しては、元に戻せなくて泣いていたものである。



## 第 60 篇

私たちはなぜ観光をしたくなるのでしょうか。細かい条件にこだわらないで大胆に（注 1）述べるならば、それは「変化」を求めるということです。私たちの感覚は同じ刺激を受け続けていると、その強さ、性質、明瞭性などはしだいに弱まります。著しい場合には刺激の感覚が消失することもあり、こうしたことを感覚の順応といいます。風呂の湯の熱い温度や腕時計を付けたときの違和感（注 2）など、初めは鮮明な感覚であっても数分もしないうちに減衰（注 3）してしまいます。同様のことが日々の体験についていえるでしょう。（中略）

よく言えば慣れてくる、悪く言えば飽きてくるのです。そこで人は新たな刺激、つまり日常に存在しない感覚や感動を求めるのです。そのために新しい刺激をもたらす（注 4）ための「変化」が必要になります。変わった珍しいコトやモノを手に入れても、日常生活がベース（注 5）になっていたのでは「変化」は日常の一部分にしかありません。より劇的な「変化」を求めるには自らが「変化」の中へ入る、すなわち日常と離れた場所へ移動することでそれは達成されます。自分の家の近所へ移動した程度ではそれほどの変化は得られません。遠くへ離れれば離れるほど、見知らぬ（注 6）町並みや自然の風景、聞き慣れない言葉や音楽、初めての味や香りなどが立ち表れてくるのです。外国で異文化に接するとき、この「変化」は最大になり、自分自身を除く周囲のすべてが「変化」した状態となるのです。

（堀川紀年・石川雄二・前田弘編『国際観光学を学ぶ人のために』による）

（注 1）大胆に：思い切って

（注 2）違和感：いつもと違う感じ

（注 3）減衰する：ここでは、少しずつ弱くなっていく

（注 4）もたらす：ここでは、生み出す

（注 5）ベース：土台

（注 6）見知らぬ：見たことがない

63 こうしたこととは、どのようなことか。

- 1 与えられる刺激が弱まると、その感じ方も弱まること
- 2 刺激を受ける回数が減ると、その刺激に反応しなくなること
- 3 同一の刺激を受けていると、その刺激を感じにくくなること
- 4 強弱の違う刺激を受けていると、その違いを感じなくなること

64 筆者によると、なぜ人々は観光したいと思うのか。

- 1 日常生活の中に「変化」を取り入れたいから
- 2 日常生活では感じられない「変化」を求めるから
- 3 新しい自分に生まれ変わるために「変化」が必要だから

4 日常生活の良さを再確認するために「変化」が欲しいから

65 以下の例のうち、旅行者にとって「変化」が最大になるのはどれか。

- | 文化の異なる国へ、知人と旅行したとき
- 2 文化の異なる国へ、一人で初めて旅行したとき
- 3 文化の異なる国へ旅行してから、日常へ戻ってきたとき
- 4 文化の異なる国へ旅行することが、自身の日常になったとき

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、著しい場合には刺激の感覚が消失することもあり、こうしたことを感覚の順応といいます。

2、遠くへ離れれば離れるほど、見知らぬ（注6）町並みや自然の風景、聞き慣れない言葉や音楽、初めての味や香りなどが立ち表れてくるのです。

## 第 61 篇

「自分を出せない」と言う人が多い。本当はこんなことを思っているのに、それを口に出せない、表現できないのが不満なのである。

①こういう人が強く惹かれるのが、「ありのままの自分」という言葉である。心のことや人間関係に関する本などを読んでみても、「ありのまま」てふるまう（注1）こと、生きることがどれほど素晴らしいかと書かれているので、ますますそれに憧れてしまうようである。

けれども、人は、他の人との関係を生きる限り（注2）、つまりこの社会の中で生きる限り、「ありのままの自分」ていることを制限されるのはやむを得ないことなのである。（中略）

好むと好まざるにかかわらず（注3）、社会を維持するために秩序（注4）が必要であり、その結果、そこに生きる個々人がさまざまに制約（注5）を受けるのは当たり前のことと考えなければならない。

私たちは小さい頃から②「社会的な自己」というものを形成していく。こういう場面ではこのようにふるまわなければならない、といったことを学習させられる。校長先生の前ではこのようにしていなさい、初対面の人の前ではこのようにふるまいなさい、と。このようなことを学習していないと、つまり「ありのまま」ていると、社会に適応（注6）できない仕組みになっているのだ。

しかし、その社会的な自己、さまざまな場面でいろいろな自分を出すことが、何か嘘の自分であるかのように思ってしまう人もいるわけだ。そこには何かしら勘違いがある。人と人との関係には必ず役割というものがある、その役割を学び、生きることこそが必要不可欠なのである。

（すがのたいぞう『こころがホッと考える』による）

（注1）ふるまう：行動する。（注2）生きる限り：生きている間は

（注3）好むと好まざるにかかわらず：好むか好まないかに関係なく

（注4）秩序：決まり（注5）制約を受ける：制限される（注6）適応する：合う

66①こういう人とはどのような人か。

- 1 個性的な表現ができないことが不満な人
- 2 言いたいことを伝えられないことが不満な人
- 3 言いたいことを理解してもらえないことが不満な人
- 4 思いを表現しなければならないことが不満な人

67②「社会的な自己」とはどういうものか。

- 1 自分より他人の人の思いを尊重する自分
- 2 社会のために役立つことができる自分
- 3 どんな場面でも自分らしさを出せる自分
- 4 場面に応じて適切な態度をとれる自分

68「ありのままの自分」について、筆者はどのように考えているか。

- 1 嘘の自分を演じるよりは「ありのままの自分」でいたほうがいい。
- 2 人との関係を保てるなら、「ありのままの自分」でいることが許される。
- 3 「ありのままの自分」でいては、社会の中で役割を果たすことができない。
- 4 「ありのままの自分」を知らなければ、社会の中での自分の役割も分からない。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、心のことや人間関係に関する本などを読んでみても、「ありのまま」でふるまう（注1）こと、生きることがどれほどすばらしいかと書かれているので、ますますそれに憧れてしまうようである。

2、好むと好まざるにかかわらず（注3）、社会を維持するために秩序（注4）が必要であり、その結果、そこに生きる個々人がさまざまに制約（注5）を受けるのは当たり前のことと考えなければならない。

## 第 62 篇

以下は、目標に向かう姿勢について、ある将棋のプロが書いた文章である。

勝った将棋と負けた将棋。どちらかがより忘れられないかと問われれば― どちらもあまり覚えていない。勝った喜び、負けた悔しさともに体内に残らない。必要でないと感じられることはどんどん忘れていってしまう性質なのだ。

もちろん、何年の誰との将棋について語らなければならないということがあれば、記憶の糸口（注 1）さえ見つければ、いつか対戦したそのとき手順（注 2）をスラスラと思い出すことができる。

しかし、通常はそんなことはしない。それを思い返したところで、先へとつながるものだとは思えないからだ。

必要なのは、前に進んでいくこと、そのための歩み（注 3）を刻んでいくことだ。

これからの道のりも長い。それを進んでいくために必要とされるのは、マラソン選手のような意識とでもいうのだろうか。一気にダッシュするのではなく、瞬間的に最高スピードを出そうとするのでもなく、正確にラップを刻んでいくことだ。| キロを 4 分で走るとしたら、次の | キロも、そのまた次の 1 キロも…… と、同じようにラップ（注 4）を刻むこと。それを意識的に続けていくことだ。

それには、「長い距離をずっと走り続けねばならない」と考えるのではなく、すぐその、あの角までを目標に、そこまではとりあえず走ってみようといった小さな目標を定めながら走るのがいいと思う。

ゴールまであと 200 キロあると言われたら、たいていの人はいやになる。走るのをやめてしまうだろう。しかし、あと 1 キロだけ、あと | キロ走れば……と思えば続けられる。この | キロ、今度の 1 キロ……と繰り返すうちに気がついたら 200 キロになっていることもあるだろう。そうなっていることを目指したい。

歩けない距離は走れない、という話を聞いたこともある。なるほど、たしかにそうだと思う。歩けるかどうかは、スピードとか記録とかの前にベース（注 5）となる最低限の保証だ。まずはその距離を歩いてみる。そこで無理だと思うなら、走るなど到底できないことだ。他の誰かが隣を駆け抜けていったとしても、自分には無理なことなのだ。だから、まずは歩いてみる。そして、歩けそうならば走ってみる。急ぐ必要はない。同じベースでラップを刻みながら行けばいい。それは、無理をしないことだ。自然にできることを続けていくという健全さ（注 6）なのだ。

（羽生善治『直感力』による）

（注 1）糸口：きっかけ

（注 2）手順：ここでは、試合の進み方

（注 3）歩みを刻む：ここでは、一步を確実に進める

（注 4）ラップを刻む：ここでは、一定の距離を同じスピードで走る

（注 5）ベース：土台

（注 6）健全さ：ここでは、当たり前で、いいこと

71 過去の対戦に対して、筆者はどのような態度をとっているか。

- 1 思い返して次につなげる。
- 2 負けた対戦は思い返さない。
- 3 役に立つ対戦だけを思い返す。
- 4 必要がなければ思い返さない。

72 「長い距離をずっと走り続けねばならない」と考えるのではなくとあるが、その理由は何か。

- 1 走ることが楽しく感じられるから
- 2 ゴールまで走り続けやすくなるから
- 3 走っているときの不安がなくなるから
- 4 同じペースで走り続けることができるから

73 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 できる範囲のことを続け、前に進んでいくことが大切だ。
- 2 できないことでも、必死に頑張ればいつか達成できる。
- 3 目標は小さくても、それを見つけることで前進できる。
- 4 目標を立てる前に、自身の能力を知ることが重要だ。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、もちろん、何年の誰との将棋について語らなければならないということがあれば、記憶の糸口（注1）さえ見つければ、いつか対戦したそのとき手順（注2）をスラスラと思い出すことができる。

2、それには、「長い距離をずっと走り続けねばならない」と考えるのではなく、すぐその、あの角までを目標に、そこまではとりあえず走ってみようといった小さな目標を定めながら走るのがいいと思う。

3、そこで無理だと思うなら、走るなど到底できないことだ。他の誰かが隣を駆け抜けていったとしても、自分には無理なことなのだ。だから、まずは歩いてみる。

## 第 63 篇

以下は、これから就職する人に対して書かれた文章である。

好きなことをしてもお金にはならない、というのがふつうの考え方です。一日中ただ好きなゲームをしていてよい、などという職業はありません。でもじつは自分の「好き」をきわめる(注1)とかならずそこにだれかほかの人のニーズがあって、仕事があるということを覚えておいてください。(中略)

いまは人びとの「好き」が多様化しつつある時代です。食べ物の好みや服の好みだけではありません。細かいライフスタイルのちがいに人びとが価値を見いだす(注2)ような時代です。カタログにないもっとちがう商品はないだろうか？これとあれの中間のサービスはないだろうか？といったぐあいです。

これまで大きな企業が機械的にマーケティング(注3)をして提供してきたような「売れる商品」「売れるサービス」では対応しきれないようなモノ、サービス。これを「ニッチ(すき間)」とよぶことがあります。いまはまさに(注4)このニッチが広がりつつある時代です。

こうしたニッチに気づくことができるのは、何かが「好き」な人です。自分の好みを突き進めていくと、そこに何かの不足を感じる。その不足がじつはほかの人も欲しがっていた何かかもしれない、というわけです。

何かを好きな人ほど、何かに不足を感じている人ほど、それを仕事に変えていくことのできる可能性があります。

(梅澤正・脇坂敦史『「働く」を考える』による)

(注1) きわめる：ここでは、徹底的に追い求める (注2) 見いだす：ここでは、認める

(注3) マーケティング：市場調査 (注4) まさに：ちょうど

60) 筆者によると、いまはどのような時代か。

1. 人びとがこれまで好きではなかったものにも価値を感じるようになっている。
2. 人びとが自身の価値観に合ったものを探し求めるようになっている。
3. 人びとのライフスタイルのちがいがわかりやすくなっている。
4. 人びとがお金で買えないものを欲しがるようになっている。

61) 好みを突き進めた人がニッチに気づくことができるのはなぜか。

1. ほかに人より先に時代の変化を感じ取れる可能性があるから。
2. ほかに人から自身が知らないことを教えてもらえる可能性があるから。
3. 自身の持つ情報が、ほかに人に不足している情報かもしれないから。
4. 自身の感じる不足が、ほかに人が感じる不足であるかもしれないから。

62) この文章で筆者が言いたいことは何か。

1. 好みが多様化しているのでいろいろな仕事ができる。
2. ほかに人が思いつかない仕事を探すほうがいい。
3. 好きではない仕事でもいつか好きになる。
4. 好きなことでも仕事に結びつく。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、こうしたニッチに気づくことができるのは、何かが「好き」な人です。自分の好みを突き進めていくと、そこに何かの不足を感じる。

2、何かを好きな人ほど、何かに不足を感じている人ほど、それを仕事に変えていくことのできる可能性があります。



## 第 64 篇

「きみに 10 億円やるから、好きなように使ってみなさい」

そう言われたら、実は困ってしまらん人がけっこう多いんじゃないだろうか。

家を買って、車を買って、海外旅行して…。そんなみみっちい（注 1）ことを考えていたら、10 億円は使い切れない。個人が 10 億円使うというのは、実は大変なことである。

「10 億円あったら…」といつも考えながら、夢を描いてみたらどうだろう。

といっても、10 億円を手にする（注 2）など想像したこともないから、最初はリアリティーを感じない（注 3）だろう。しかし、じっと考えていると、心の奥底にしまっていた「①本当にやりたいこと」が見えてくるはずだ。それがあなたの夢である。

「いくら夢を描いたところで、実際には 10 億円も稼げないんだから仕方ない」

あなたは、そう考えるだろうか。それは違う。たしかに 10 億円稼ぐのは不可能かもしれない。しかし、②10 億円の夢を描けば、10 億円を手にすることは可能なのだ。

それは、あなたの夢に賛同する（注 4）人があらわれるからだ。夢に向かっていくあなたの真摯な（注 5）姿勢に賛同して「お金を出そう」と言い出す人もいるかもしれない。「一緒にやろう」と協力を申し出る人もいるかもしれない。夢とは、そのぐらい価値があり、人を動かすことができるものなのだ。

大切なのは、10 億円を稼ぐ人間になることではなく、10 億円分の夢を描くこと。そしてその大きい夢に見合う（注 6）だけの大きい人間になっておくことである。

（山本寛斎『熱き心一寛斎の熱血語 10 カ条』による）

（注 1）みみっちい：ここでは、小さい （注 2）手にする：ここでは、自分のものにする

（注 3）リアリティーを感じない：現実感がない（注 4）～に賛同する：ここでは、～を理解して賛成する

（注 5）真摯な：まじめで一生懸命な （注 6）見合う：釣り合う

63) ①「本当にやりたいこと」が見えてくるはずだとあるが、どらすれば見えてくるか。

1. 10 億円よりも想像しやすい金額から夢を考え始める。
2. 10 億円を使い切るには、どうすればいいかを考える。
3. 10 億円あれば実現できる二つを常に考える。
4. 10 億円を稼いだ自分の姿を想像し続ける。

64) ②10 億円の夢を描けば、10 億円を手にするのは可能なのだとあるが、なぜか。

1. 10 億円の稼ぎ方を教えてくれる人があらわれるかもしれないから。
2. 10 億円を稼ぐための具体的な行動を起こせるかもしれないから。
3. 夢を実現するうえで、誰が必要かわかるようになるかもしれないから。
4. 夢の実現を助けてくれる人があらわれるかもしれないから。

65) この文章で筆者が言いたいことは何か。

1. 大きい夢を描いて、その夢にふさわしい人間になることが大切だ。
2. 大きい夢を描いて、努力によってその夢を実現することが大切だ。
3. 大きい人間になることで、大きい夢を描くことができるようになる。
4. 大きい人間になれるかどうかは、大きい夢が描けるかどうかで決まる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

夢に向かっていくあなたの真摯な（注 5）姿勢に賛同して「お金を出そう」と言い出す人もいるかもしれない。「一緒にやろう」と協力を申し出る人もいるかもしれない。夢とは、そのぐらい価値があり、人を動かすことができるものなのだ。

## 第 65 篇

いい文章はそれを読む者に充実した時間をつくり出す。知識が人を喜ばせる必要はない。技巧（注 1）が人を楽しませる必要はない。人を利口にし、快く酔わせるよりも、それを読んで本当によかったと思わせる文章を書こう。

文章にとって何よりも大事なものは、すぐれた内容としてそのまま相手に伝わることである。したがって、いい文章には「いい内容」と「いい表現」という二つの側面がある。

どれほど凝った多彩な表現が繰り広げられ（注 2）ても、その奥にある内容がつまらなければ、文章全体として価値が低い。それでは、いい内容はどのようにして生まれるのだろうか。すぐれた内容を生み出す特定の手段のようなものは考えられない。小手先（注 3）の技術といったものは役に立たない。自己を取り巻いて（注 4）果てしなく広がる（注 5）世界のどこをどう切り取るか、それをどこまでよく見、よく考え、よく味わうか、そういうほとんどその人間の生き方とも言えるものがそこにかかわっているからである。豊かな内容は深く生きることをとおして自然に湧き出る（注 6）のだろう。

一方、どれほどすぐれた思考内容が頭のなかにあったとしても、それが直接人の心を打つことはできない。というよりも、言語の形をとることによって、それがすぐれた思考であることがはじめて確認できるのである。その意味で、文章表現は半ば発見であり、半ば創造である。いい内容がよい表現の形で実現し、いい文章になる。逆に言えば、すぐれたことばの姿をとおしてしか、すぐれた内容というものの存在を知ることはできないのである。

（中村明『日本語の美—書くヒント』による）

（注 1）技巧：すぐれた表現技術

（注 2）繰り広げる：ここでは、次々に使う

（注 3）小手先の：ここでは、その時だけのちょっとした

（注 4）自分を取り巻く：ここでは、自分の周りにある

（注 5）果てしなく広がる：ここでは、どこまでも広がる

（注 6）湧き出る：生まれ出る

66) 筆者は、読者のためにどのような文章を書けばよいと考えているか。

1. 読んだ後に満足感が得られるもの
2. 読んだ後に利口になった気分になるもの
3. 時間をつくってでも読みたくなるもの
4. 表現が凝っていて読みごたえがあるもの

67) 筆者によると、いい内容はどうすることで生まれるか。

1. さまざまな人間の生き方を知ること
2. 世界中のことを広く知ること
3. 人生を深く生きること
4. 深い知識を得ること

68) 内容と表現の関係について、筆者はどのように述べているか。

1. いい表現であれば、どのような内容でも人の心を打つ。
2. いい表現の形をとることで、いい内容が人に伝わる。
3. いい表現を創造することで、さらにいい内容になる。
4. いい表現は、すぐれた内容であれば自然に生まれる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

自己を取り巻いて果てしなく広がる世界のどこをどう切り取るか、それをどこまでよく見、よく考え、よく味わうか、そういうほとんどその人間の生き方とも言えるものがそこにかかわっているからである。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 66 篇

以下は、ある農作物の販売者が書いた文章である。

自分の手で作物を育ててみると、それが食べられるようになるまでどれだけ手間がかかるのかがわかる。また天候不順などに見舞われ（注 1）たら作物ができないこともある。米や野菜は、工場で生産される製品のように、自動的・安定的に生産できるものではなく、自然の恵みの中で、人の手がかけられて自分たちの手元にまで届いているのだと実感する。

そうすると、たとえばお店で売られている野菜の値段を見ても、これまでとは違った見方になってくる。ただ単に安ければいいというものではないと思えてくる。

価格というのは、現代社会では物に対する一つの評価基準である。安いということは、それを価値の低いものとみなしているといえる。一生懸命作ったものに安価な値段がつけられてしまうと、作り手としては非常にながかりしてしまうことは想像に難くない。

食料という、われわれが生きていくうえで欠かせないものまでも、ほかの品物と同じように商業主義の中に組み込み、商品の一つとして同じ土俵の上で（注 2）競わせることが、はたしてほんとうにいいのだろうか。われわれの命をつなぎ、命を守るものを、安値競争に巻き込んでしまっていていいものだろうか。

食べ物の作り手が、いいものを作りたいというモチベーション（注 3）を失ってしまったら、最終的に困るのはわれわれ消費者なのだ。生きるための対価（注 4）を支払っていると思えば、とにかく安ければいいという安易な選択はできないはずだ。

だから、僕がやっている「青空市場 808」では、他店と安値競争をするつもりはまったくない。もちろん、相場（注 5）というものがあるので、それを参考にしているが、基本的には生産者に価格を決めてもらい、そのうえで販売価格を決める。

一方、お客さんに対しては、なぜそのような価格になるのか、説明できなければならない。

どのようにしてこの作物は作られているのか。味にはどんな特徴があるのか。農薬は使っているのかどうか。

（中略）今、小売り（注 6）が果たすべき役割は大きいと思う。小売りは生産者との信頼関係を築き、その信頼を消費者に伝えていく。一方で、安全や安心を求める消費者の声や、商品の評価を生産者に伝えていく。こうすることで、消費者の農薬への理解が深まり、ひいては（注 7）消費者の健康な暮らしと命が守られていくのである。

（永島敏行『青空市場で会いましょうー日本の農と食はすばらしい』による）

（注 1）天候不順に見舞われる：ここでは、悪い天気が続く

（注 2）同じ土俵の上で：ここでは、同じ条件で

（注 3）モチベーション：意欲

（注 4）～ための対価：ここでは、～ために必要なお金

(注 5)相場：一般的に適当だとされる値段

(注 6)小売り：ここでは、農作物を生産者から買って、消費者に販売する職業

(注 7)ひいては：その結果

**68) 作物を育てると、これまでとは違った見方になってくるとあるが、なぜか。**

1. 生産者の農作物に対する愛情がわかるから
2. 自然の影響の大きさや手間がかかることがわかるから
3. 農作物を作るには費用も時間もかかることがわかるから
4. 工場で作られる製品と同様に手間の多いことがわかるから

**69) 農作物の値段をつけるときに、筆者が最も重視しているのはどのようなことか。**

1. 他店の価格と比較せずにつけること
2. 作り手の希望どおりに高くつけること
3. 作り手の希望を尊重してつけること
4. 農作物自体の品質に基づいてつけること

**70) 小売りが果たすべき役割として、筆者が重要だと考えていることは何か。**

1. 生産者と協力して、消費者に農業の大変さを伝えること
2. 生産者が作った農作物を、適切な価格で消費者に届けること
3. 生産者と消費者の対話の機会を作り、信頼関係を築くこと
4. 生産者と消費者の声をそれぞれに伝え、相互理解を深めること

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、米や野菜は、工場で生産される製品のように、自動的・安定的に生産できるものではなく、自然の恵みの中で、人の手がかけられて自分たちの手元にまで届いているのだと実感する。

2、食料という、われわれが生きていくうえで欠かせないものまでも、ほかの品物と同じように商業主義の中に組み込み、商品の一つとして同じ土俵の上で（注 2）競わせることが、はたしてほんとうにいいのだろうか。

## 第 67 篇

日本の大学生はコピーをとる機会が多い。コピー代は大抵 1 枚 10 円で、決して高くはない。けれども、枚数が多いため、大学生にとってはそれなりの負担になる。コピー代が安くすめば、もう少し余裕のある学生生活が送れるかもしれない。

このような事情を実感していた①大学生たちが 5 人集まって、無料でコピーがとれるコピー機を大学に設置する会社を始め、好評を得ている。

では、彼らはどうやってコピー代を無料にしたのか。それは、企業からの広告料を利用しようというアイデアから始まった。

仕組みはこうだ。まず、この会社は広告を出してくれる企業を募集し、広告料をもらう。そして、その企業の広告をコピー用紙の裏面に印刷し、大学に設置した無料コピー機にセットする。学生がこのコピー機を使うと、コピー用紙の表には学生のとったコピーが、裏には企業の広告が載る。つまり、コピー用紙が企業の広告にもなるというわけだ。この会社は、このようにして得た広告掲載料を、無料コピー機の経費にあてているのだ。

この仕組みは、広告を掲載する企業にとっても②利点がある。学生向けの広告を、学生に対してのみ効果的に出せるのだ。ちらしと違って読まずに捨てられることのないコピー用紙なら、学生が広告を見る可能性が高い。実際に若者向けの商品を主力とする多くの企業が広告を載せているという。

学生のアイデアを生かしたこのような会社は、今後も増えていくだろう。

60 ①大学生たちは何を目的として会社を作ったか。

- 1 大学生向けの情報をコピーを使って提供すること
- 2 大学生にコピー代の節約を意識してもらうこと
- 3 大学生が多くのコピーをとれるようにすること
- 4 大学生のコピー代の負担を少なくすること

61 この会社では、どうしてコピー代を無料にできるのか。

- 1 学生が払うべきコピー代を、広告費として後から企業に請求できるから
- 2 広告が掲載されたコピー用紙を、企業から提供してもらえるから
- 3 企業から受け取る広告掲載料を、コピー機の経費として使えるから
- 4 企業の広告が描かれたコピー機を、企業から借りられるから

62 ②利点とあるが、この文章からわかる企業にとっての利点は何か。

- 1 大学生を通して、他の人にも広告商品を宣伝できる。
- 2 対象を大学生に絞り込めるので、効果的に広告を出せる。
- 3 広告に対する学生の反応を、今後の商品開発に生かせる。



4 ちらしより捨てられにくいので、広告を出す回数が減らせる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、このような事情を実感していた①大学生たちが5人集まって、無料でコピーがとれるコピー機を大学に設置する会社を始め、好評を得ている。

2、この仕組みは、広告を掲載する企業にとっても②利点がある。学生向けの広告を、学生に対してのみ効果的に出せるのだ。ちらしと違って読まずに捨てられることのないコピー用紙なら、学生が広告を見る可能性が高い

## 第 68 篇

心理学者で立正大学特任講師の内藤誼人さんも、就寝（注 1）直前の勉強を勧める一人。では、日中の勉強は無駄が多いただけかというと、「そんなことはありません」と内藤さん。眠る前以外にも、記憶をするのに効率的（注 2）な時間帯があることが分かっているそうです。

以前、アメリカの教育心理学者が、小学 5、6 年生を対象に、記憶力や理解力が時間帯によってどう変わるかを調べる実験を行ったことがあります。その結果、計算や暗記などの作業効率は、午前 10 時と午後 3 時くらいがピークでした。午前 8 時の成績を 100 とすると、同 10 時に 160 まで上昇。その後、午後 1 時に 98 まで下がり、同 3 時には 103 に上がるという曲線を描いたそうです。

「午前と午後に一度ずつ効率の上がる時間帯に、最も集中して勉強すれば効果的。もちろん個人差はあるので、自分のリズムをきちんと把握（注 3）し、ノッている（注 4）時間帯を見つけることが大切です」

1 日に 5 時間勉強し、1 時間に 50 個ずつ覚える。そんなやり方は、非効率極まりない（注 5）。絶好調（注 6）の時間帯に 2 倍のノルマ（注 7）を課し、それ以外は軽く流す。タイミングをとらえた勉強法が、記憶力を高めるのです。

「能率の波は、自分で意識的にコントロールすることもできる。自分が勉強する時間帯に、最も頭の働きが良くなるよう習慣づけられればベスト」と内藤さん。タイミングを待っただけではなく、自分から作り出す“攻めの姿勢”が求められるのです。

（読売新聞 2011 年 11 月 18 日付朝刊による）

（注 1）就寝：寝ること （注 2）効率的な：ここでは、効果が上がりやすい

（注 3）把握する：ここでは、つかむ

（注 4）ノッている：ここでは、調子が良い

（注 5）～極まりない：非常に～だ



(注 6) 絶好調の：非常に調子が良い

(注 7) ノルマ：ここでは、しなければならない勉強の量

63 アメリカの教育心理学者の実験結果について合っているのはどれか。

- 1 午後 1 時ごろの方が午前 10 時ごろより成績が良い。
- 2 時間帯が遅ければ遅いほど成績が上がる。
- 3 午後 3 時ごろの方が午前 10 時ごろより成績が良い。
- 4 午前 10 時ごろの方が午後 3 時ごろより成績が良い。

64 この文章によると、効果的な勉強法とはどのようなものか。

- 1 毎日勉強することを習慣づける。
- 2 勉強の量と時間を毎日一定にする。
- 3 調子の良い日に集中して勉強する。
- 4 頭の働きが良くなる時間に勉強する。

65 「攻めの姿勢」とは何か。

- 1 能率のピークをできるだけ長く保てるようにする。
- 2 能率のピークに活動できるように生活の時間を調節する。
- 3 能率を上げたい時間帯に能率のピークが来るようにする。
- 4 日中に能率のピークが来るように自分の生活を変える。

■ 次の文を中国語で訳してください。

午前と午後に一度ずつ効率の上がる時間帯に、最も集中して勉強すれば効果的。もちろん個人差はあ  
るので、自分のリズムをきちんと把握（注 3）し、ノツている（注 4）時間帯を見つけることが大切です。

## 第 69 篇

個性の重視ということが注目されるようになって以来、「子どもの興味を尊重し、一人ひとりの子どもが興味を持つこと、『やってみよう』と言うことを好きにやらせることが、個性の重視である」という解釈が広がりました。しかしその結果、社会生活上のしきたり（注 1）や習慣を教える機会を失ったと悩む教師と、好きなことしかやりたがらない子どもをつくってしまったということはないでしょうか。個性の重視とは、「二人と同じ人間はいない、つまり人は一人ひとり異なる存在である。だから、一人ひとりが異なった興味や価値観を持つのは当然である」という考え方を肯定する人間観を意味しているのです。

（中略）

子どもの興味や関心は日々変化する可能性があります。しかし、なんらか（注 2）の形でその対象を知る機会がなかったなら、興味を持つこともないのです。小学生はまだまだ経験の幅が狭いものです。ですから、おのずと（注 3）興味や関心を持つ対象も、非常に限られた範囲のものになります。さまざまなものに興味を持つのを待つばかりでなく、興味を持てるように、さまざまな体験ができるようにすることが大切です。

（渡辺三枝子『キャリア教育——自立していく子どもたち』による）

（注 1）しきたり：昔からの決まり（注 2）なんらかの：何かの（注 3）おのずと：自然と

66 好きなことしかやりたがらない子どもをつくってしまったとあるが、筆者はどこにその原因があると考えているか。

- 1 個性の重視ということが間違っって解釈されている点
- 2 個性の重視ということが注目されている点
- 3 個性の意味についての解釈が定まっていない点
- 4 教師が社会生活上のルールを教えていない点

67 筆者は、子どもの個性を重視するとはどのようなことだと言っているか。

- 1 それぞれの望むことを自由にさせる。
- 2 それぞれの興味や価値観を尊重する。
- 3 他人より優れた点を高く評価する。
- 4 他人との違いが大きいほうがよいとする。

68 子どもの教育について、筆者が言いたいことは何か。

- 1 子どもの興味や関心は変わりやすいので、注意深く観察することが必要だ。
- 2 子どもの興味や関心が広がるように、多様な体験の機会を与えることが重要だ。
- 3 子どもの自主性を尊重し、自身で新しい興味や関心を見つけ出すのを待つべきだ。
- 4 子ども自身が見つけた興味や関心に注目し、それを集中して経験させたほうがよい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、しかしその結果、社会生活上のしきたり（注1）や習慣を教える機会を失ったと悩む教師と、好きなことしかやりたがらない子どもをつくってしまったということはないでしょうか。

2、さまざまなものに興味を持つのを待つばかりでなく、興味を持てるように、さまざまな体験ができるようにすることが大切です。

## 第70篇

この数十年の変化の中で、もっとも大きく変わったものは何かと問われると、私は人生の選択肢が飛躍的（注1）に増え、さらにその選択をする自由度が高まったことではないかと答えます。（中略）

親が決めたルールや、こうあるべきだという社会通念（注2）は、極端に少なくなり、どんな生き方も肯定される、そんな時代になったと思います。各人が自分の責任において、自分の生き方を選ぶことができるようになったのです。

ところが、①この状況が人を幸せにしているとは必ずしも言えないというのが現状です。選択肢の数の増加と同じだけ、「これでいいのだろうか……」という迷いも増えました。迷って選択ができない、あるいは選択したけれど間違ったと思う……。そんな人たちが増えてしまったのです。

何かを得ようとして選択したことで、何かを失ってしまったかもしれない。本当は別の幸せがあったのかもしれないのに、自分はそのチャンスを逃してしまったのかもしれない。本当の自分は、こんな自分じゃなかったのではないだろうか。

他の人とくらべて、自分の人生が劣っているのではないかと、失敗だったのではないかと考えてしまう。こうやって自分を追い込み、自分の人生に自信がもてなくなる。そんな人をたくさん生んでしまったのではないのでしょうか。

②生き方なんてこれしかないと言われたほうが、実はラクなのかもしれません。その中で、精一杯生きれば良いからです。でも、生き方はいくらでもあると言われたら、迷うのは当然のことだと思います。

でも大事なことはやはり、何をするかではなく、どう生きるかなのではないのでしょうか。どんな選択をしようと、これが正解だなんてものは誰にも決められません。決められるとしたら、それは本人がそう思い込めるかだけです。

だとすると、本人が自分の選択が良かったと素直に思える、あるいはその選択がどうであれ、自分は良く頑張った、精一杯やったと心から思えることが大切なのではないのでしょうか。

人生の選択肢の多さに感わされなくて（注3）ください。いま自分が何をしているかで、自分の人生を

判断しないでください。大切なのは、何をしているのかではなく、どう生きているかなのですから。どう生きるかは、いまからでもすぐに変えられるのですから。

(高橋克徳『漬れない生き方』による)

(注1) 飛躍的に：大幅に (注2) 社会通念：広く社会に受け入れられている常識

(注3) 感わされないで：ここでは、迷わされないで

71 ①この状況とはどんな状況か。

- 1 自分の生き方を自分で決められる。
- 2 自分らしい生き方が高く評価される。
- 3 親に決められた生き方を信じられる。
- 4 限られた選択肢の中で生き方を選べる。

72 ②生き方なんてこれしかないと言われたほうが、実はラクなのかもしれませんとあるが、なぜか。

自分の生き方で迷わなくて済むから

- 2 自分の生き方が正しいと常に関じられるから
- 3 人生の意味について考えなくて済むから
- 4 人生に失敗してもあきらめがつくから

73 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 人生において、社会に通用する生き方を探ることが大切だ。
- 2 他の人とくらべずに、自分らしい人生を選んだほうがいい。
- 3 どんな人生を選ぶかより、選んだ人生をどう生きるかが大切だ。
- 4 人生の選択を間違えたと思ったら、柔軟に生き方を変えたほうがいい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、この数十年の変化の中で、もっとも大きく変わったものは何かと問われると、私は人生の選択肢が飛躍的に増え、さらにその選択をする自由度が高まったことではないかと答えます。

2、だとすると、本人が自分の選択が良かったと素直に思える、あるいはその選択がどうであれ、自分は良く頑張った、精一杯やったと心から思えることが大切なのではないのでしょうか。

## 第 71 篇

①面接の準備をする作業は自分自身を見つめ直すいいきっかけになると私は思います。自分って要するになんなんだろう？何が人と違って、どこが優れているんだろう？普段は自分自身のことをそこまで考えないでしょうが、面接に臨む（注 1）ためには、自分で自分を的確に語れるようになっていなくてはダメです。それも短い的確な言葉に絞り込まなければなりません。

新聞記事をよく見てください。太い大見出しというのは 10 文字以下です。あれがニュースです。世界中に起きていること、国会で起きていること、大きな事件、それらをたった 10 文字以下で表現しているのです。

一日の国会でどれだけたくさんの論戦が戦わされていることでしょう。その事実だけを列挙（注 2）しても新聞にはなりません。すべてを書かれても、読み手はそのすべてを受け取ることもできません。そこで記者が膨大な事実の中からニュースと判断されるものを探し出し、たった一言でまとめてしまう、それがニュースであり、大見出しなのです。（中略）

面接で自分を語るということは②自分自身を見出しにすることです。自分の人生という長く膨大な時の流れと経験の数々、その都度（注 3）、心に去来した（注 4）ありとあらゆる（注 5）思い、それをたったヒトコト（注 6）で表現するのです。ヒトコトなんかじゃ語れないことは分かっています。でも、ヒトコトで語らなければならないのです。

（黒石祐治「メッセージを高める黒石の法則」による）

（注 1）面接に臨む：面接を受ける （注 2）列挙する：並べる

（注 3）その都度：そのたびに （注 4）心に去来する：ここでは、心に浮かぶ

（注 5）ありとあらゆる：すべての

（注 6）ヒトコト：普通「一言」と書く

60 ①面接の準備をする作業について、筆者はどのように考えているか。

- 1 人とは違う優れた能力を発見することにつながる。
- 2 自分の本当にしたいことが見えてくるようになる。
- 3 自分のことをありのままに語れるようになる。
- 4 自分のことをよりよく知ることにつながる。

61 面接と新聞の共通点は何か。

- 1 できるだけ多くのことを正確に伝えなければならない。
- 2 相手が何を知りたいかを考えて伝えなければならない。
- 3 伝えたいことを選んで簡潔に伝えなければならない。
- 4 実際にあったことだけを伝えなければならない。

62 ②自分自身を見出しにするとあるが、どういうことか。

- 1 これまで生きてきた自分について短く的確に語る。
- 2 これまでの人生で感動したことを印象的に伝える。
- 3 自身にとっての大きな出来事をまとめて説明する。
- 4 自身の経験を時の流れに沿って分かりやすく説明する。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、普段は自分自身のことをそこまで考えないでしょうが、面接に臨むためには、自分で自分を的確に語れるようになっていなくてはダメです。

2、自分の人生という長く膨大な時の流れと経験の数々、その都度、心に去来した（注4）ありとあらゆる思い、それをたったヒトコトで表現するのです。

## 第 72 篇

以下は、ある漫画家が書いた文章である。

僕は今まで数多くの漫画やアニメで未来をイメージしてきた。未来を「想像」し、そこから作品を「創造」してきた。僕にとって想像と創造はごく近い、混じり合ったものだと言っていいだろう。

では、イメージすること、想像することについて考えてみよう。僕は想像には二種類あると考えている。可能性が希薄（注 1）でも許される「空想」と、確度の高い（注 2）データに基づいた「予測」だ。

空想は幻想的（注 3）な意味での夢見る世界。予測はやがてこうなるだろうという現実の延長線上に浮かぶものだ。このふたつが自分の頭の中で組み合わせられ、出来上がっていくものがぼくにとっての「想像」だ。

「空想」の中には途方もない（注 4）こともある。子どもの時に考えていたこととなんら変わらない、突拍子もない（注 5）ものも含んでいる。「夢」と言い換えてもいいだろう。しかし、夢や空想だけではどこかものたりない。そこで、現実の延長線上にある未来についての予測が必要になってくる。しかし、空想が現実からかけ離れるばかりかといえそうではないし、予測が必ず現実を言い当てるというものでもない。どちらも、未来をイメージする＝想像することのうちにあるのだ。（中略）

僕は空想も予測も好きな少年だった。子どもの頃から「想像」することが大好きだった。しかし、ぼくが「想像」をただの想像に終わらせず、作品を作るという「創造」へと結びつけてきたのはなぜだろう。僕自身はあまり意識してこなかったことだが、こうして考えてみると、やはり何のためにえがくのか」という言葉が浮かび上がってくる。

「想像」するだけなら一人でしていけばいい。あるいは、友人たちとのおしゃべりで十分だろう。しかし、「創造」するためには、そこに「何のために」という強い動機が必要なのだ。

僕が「想像」したことをもとに作品を「創造」することで、もしかしたら、その作品をきっかけに何かが変わるかもしれない。僕も人類の一人として、この地球がよりよい方向に進み、幸福な未来へとつながって行ってほしい。

大げさなことはあまり言いたくないが、大きな目的で、「地球の未来のために」僕は作品をえがいているのかもしれない。

（松本零土「未来創造一夢の発想法」による）

（注 1）希薄でも：ここては、低くても

（注 2）確度の高い：ここでは、確かな

（注 3）幻想的：現実から離れている

（注 4）途方もない：とんでもない

（注 5）突拍子もない：常識から外れた

71 空想と予測について、筆者はどのように述べているか。

- 1 いずれも現実の延長線上にあるものである。
- 2 いずれも可能性の低い夢のようなものである。
- 3 いずれも未来のイメージを構成するものである。
- 4 いずれも未来のイメージを現実化させるものである。

72 筆者にとって、「創造」とはどういうことか。

- 1 「想像」もしていなかったような作品を作ること
- 2 夢のような世界を「想像」しながら作品を作ること
- 3 「想像」したことをもとに、描く目的を持って作品を作ること
- 4 何のために描くのかを意識して、未来を「想像」できる作品を作ること

73 筆者の考えに合うものはどれか。

- 1 子供たちの夢が、幸せな未来につながってほしい。
- 2 自分の作品が、人類の幸福につながるきっかけになってほしい。
- 3 地球の未来のためには、自分が漫画やアニメを描き続けることが必要だ。
- 4 地球がより良い方向に進むには、子ども時代に想像力を育てることが必要だ。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、しかし、空想が現実からかけ離れるばかりかといえそうではないし、予測が必ず現実を言い当てるというものでもない。

2、大げさなことはあまり言いたくないが、大きな目的で、「地球の未来のために」僕は作品をえがいているのかもしれない。



## 第 73 篇

よく知っている人を相手に自己を語るのは簡単だが、お互いによく知らない相手に自己を語るというのは非常に難しい。

よく知っている相手との間に共通の文脈ができあがっているのです、その文脈にふさわしい自分を提示していけばよいから、ほぼ自動化した形で自己を語る事ができる。たとえば、相手がこちらのことを勇ましい豪傑（注1）とみなしているなら、自分の中の武勇伝（注2）的なエピソードを中心に語ることになるだろうし、相手がこちらのことを温厚な紳士とみなしているなら、自分の中のおだやかな部分を中心に語ることになるだろう。相手との文脈によって語り分けるからといって、けっしてだましているわけではない。どちらも嘘ではないのだ。

困るのは、よく知らない人が相手である場合だ。共通の文脈ができあがっていないため、どのような自分を語り出していけばよいのかわからない。逆に言えば、共通の文脈による制約がないぶん、どんな自分でも自由に演出し、語り出していくことができる。だからこそ、迷い、悩んでしまうのだ。

こうした事情からわかるのは、僕たちは自分のことをいろんなふうに語ることができるということだ。

（中略）

自分の姿がおぼろげ（注3）にしか見えないうちから、まずは語ることを始めなければならない。語ることによって、自分の姿が語りの方向につくられていく。

（榎木博明『（ほんとうの自分）のつくり方——自己物語の心理学』による）

（注1）豪傑：勇気のある、強い人

（注2）武勇伝的な：ここでは、勇ましい

（注3）おぼろげに：ぼんやりと

50) 嘘ではないとあるが、何が嘘ではないのか。

- 1 自分が語る自分と相手が語る自分
- 2 異なる相手によって語られた自分
- 3 相手に合わせて語り分けた自分
- 4 相手にとって良い自分と悪い自分

51) よく知らない相手に自分を語るのは、なぜ難しいのか。

- 1 自分のどの側面を語ればよいか決められないから

- 2 自分のすべての側面を語らなければならないから
- 3 自分のイメージが相手によってつくられることになるから
- 4 自分が演出したとおりに相手に思ってもらえないから

52) 筆者の考えを最もよく表しているものはどれか。

- 1 よく知らない相手には、本当の自分を語ることが必要だ。
- 2 相手より先に、自分から語り始めることが重要だ。
- 3 相手とよく語り合うことによって、自分の形がつくられていく。
- 4 相手に自分を語ることによって、自分の形ができあがっていく。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、たとえば、相手がこちらのことを勇ましい豪傑（注1）とみなしているなら、自分の中の武勇伝（注2）的なエピソードを中心に語ることになるだろうし、相手がこちらのことを温厚な紳士とみなしているなら、自分の中のおだやかな部分を中心に語ることになるだろう。

2、逆に言えば、共通の文脈による制約がないぶん、どんな自分でも自由に演出し、語り出していくことができる。

3、自分の姿がおぼろげ（注3）にしか見えないうちから、まずは語りを始めなければならない。語ることによって、自分の姿が語りの方向につくられていく。

## 第 74 篇

ウェブ時代に突入して、私たちの生活には、世界中のありとあらゆる情報が溢れかえることとなった。その量は膨大で、しかも、時間とともに流れ去ることもなく、データとして刻々と蓄えられ続けている。一方で、私たちの毎日はといえば、相も変わらず 24 時間しかなく、寿命は 80 年程度だ。どうやったって、そのすべてを網羅することなどできない。

私たちは、仕方なく、どんな情報とも、どんな言葉とも、忙しく（注 1）、広く浅いつきあいをするようになって、ふと我に返ると、自分は果たして、本当に、以前よりも、世間や人間に対する理解が深くなっているのだろうか、不安を感じるようになっている。

そういう時代に、小説は、まさしく「小さく説く」のである。

この広大無辺（注 2）で、複雑極まりない世の中を、そして、そこに生きる人間の心の奥底を、誰の手のひらにでも収まるほどのコンパクトなサイズに圧縮して、濃密な時間とともに体験させてくれる。それが、小説だ。

確かに小説は、絵や彫刻のように、一目で見ることのできる物体ではない。ある一定量の記号の連なりである以上、時間をかけて、前から順番に最後まで辿っていかなければならない。しかし、その間、小説は絶えず、読者に語りかけ、読者に耳を貸し、読者の手を引き、読者と一緒に感じ、一緒に考える。それは、途方（注 3）に暮れるような情報の海を泳ぎ回るのは、まったく別の興奮を与えてくれるはずだ。

（平野啓一郎『小説の読み方-感想が語れる着眼点』による）

（注 1）忙しく：ここでは、時間に追い立てられるように

（注 2）広大無辺で：限りなく広くて

（注 3）途方に暮れる：どうしたらよいかわからなくなる

53) 筆者によると、ウェブ時代に生きる人々が感じている不安とはどのようなものか。

- 1 膨大な情報を理解する時間が足りないのではないか。
- 2 人や世間に対する認識が深まっていないのではないか。
- 3 蓄積され続ける情報の中から必要な情報が探せないのではないか。
- 4 人の心までが時間や情報に流されそうになっているのではないか。

54) 小説は「小さく説く」とあるが、どういう意味か。

- 1 人間の複雑な心理を簡潔に示す。
- 2 広く複雑な人間社会を少しだけ見せる。

3 人の心や複雑な世の中を凝縮して示す。

4 広い世の中の重要なところを圧縮して見せる。

55) ウェブ時代に小説を読むことについて、筆者はどのように考えているか。

1 小説には膨大な情報が詰め込まれているので、濃密な時間を体験することができる。

2 小説は複雑な世の中を説明しているので、情報が溢（あふ）れる世界を深く理解できるようになる。

3 小説が読者に寄り添ってくれることで、現代の情報とのかかわり方とは異なる刺激が得られる。

4 小説が読者の手を引いてくれることで、情報社会で不安を感じず生きていけるようになる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、私たちは、仕方なく、どんな情報とも、どんな言葉とも、忙しなく（注1）、広く浅いつきあいを  
するようになって、ふと我に返ると、自分は果たして、本当に、以前よりも、世間や人間に対する  
理解が深くなっているのだろうか、と、不安を感じるようになっている。

2、この広大無辺（注2）で、複雑極まりない世の中を、そして、そこに生きる人間の心の奥底を、  
誰の手のひらにでも収まるほどのコンパクトなサイズに圧縮して、濃密な時間とともに体験させて  
くれる。

3、それは、途方（注3）に暮れるような情報の海を泳ぎ回るのとは、まったく別の興奮を与えてく  
れるはずだ。

## 第 75 篇

一日に八時間眠るのが人間社会の決まりごとであるかのように言う人がいる。それには何か特別な根拠があるのか。

もともと睡眠は、適応のための技術である。さまざまな身体内部および外部の環境条件に合わせて、脳をうまく休息させ、よりよく活動させるための柔軟な生存戦略である。多少の無理や融通が利かないはずはない。

しかも、眠ることは筋肉を緩ませる、意識レベルを下げる、栄養補給を断つなどの危険を伴う「命懸け」の行為だ。それだけに、睡眠中の安全が確保できる条件を整えてからでないと、眠るわけにいかないというのが生き物の鉄則だ。また、優先してなすべきことがほかにあるから、睡眠は、すなおに順位をそちらに譲るのが通例だ。

そうすると、安心して睡眠に割り当てられる時間は、かなりかぎられたものになってしまう。一日のうちのかぎられた条件と時間のもとでうまく眠り、うまく目覚めるために、高等動物は進化の過程でさまざまな方式を開発してきた。だから、睡眠は本来多様性に富むものだ。

人間の睡眠も、生物学的にはまったく同様の適応力を備えている。しかし、人間は文明の発達とともに、睡眠を人為的な規則で拘束した。社会活動や季節変化などをもとにして、睡眠の持つ多様性を一定の枠の中に押し込めてしまったのだ。

こうして、世の中では、大人は一日に八時間まとめて寝るのが基準であるかのように考える傾向が定着した。ここから、睡眠時間の負債を気にするという不幸が発生したのだ。一日に八時間くらい寢床の中で過ごす人が大半を占めるにせよ、この数値に生物学的な根拠はない。

(井上昌次郎『睡眠の技術——今日からぐっすり眠れる本』による)

56) 生き物にとっての睡眠について、筆者はどのように述べているか。

- 1 生き抜くために、さまざまな条件に合わせて調整できるものである。
- 2 脳を休息させるために、一定の時間確保されるべきものである。
- 3 自身の生命を脅かすもので、できるだけ避けるべきものである。
- 4 環境に適応するために、他の活動より優先されるものである。

57) 睡眠を人為的な規則で拘束したとあるが、どういうことか。

- 1 日々の睡眠時間をできるだけ短くすることにした。
- 2 一日のうちの、一定の時間を睡眠に充てることにした。
- 3 活動時間に合わせて、睡眠時間を減らすことにした。
- 4 各自の条件に合わせて、睡眠時間を決めることにした。

58) この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 人間の睡眠時間は一様に決めるようなものではない。
- 2 人間の睡眠の方式は他の生き物と比べられるものではない。
- 3 人間も他の生き物と同様に、睡眠をとることが生存戦略となっている。
- 4 人間は社会活動をする上で、他の生き物と異なる睡眠時間が必要になった。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、さまざまな身体内部および外部の環境条件に合わせて、脳をうまく休息させ、よりよく活動させるための柔軟な生存戦略である。多少の無理や融通が利かないはずはない。

2、それだけに、睡眠中の安全が確保できる条件を整えてからでないと、眠るわけにいかないというのが生き物の鉄則だ。

3、こうして、世の中では、大人は一日に八時間まとめて寝るのが基準であるかのように考える傾向が定着した。

## 第 76 篇

最寄り駅へと向かう途中、骨董屋さんの前を通る。

その店が越して来たのは十年ほど前だろうか。はっきりした記憶はないのだが、夫のひとことで興味を持った。「毎日どんどん売れる商売じゃないだろうけど、それにしても客が入っているのを見たことないよね」という。確かにいつもひっそりと、主とおぼしき人は店の奥にじっと座っているばかり。宅配便の梱包された包みがたくさん置かれていることから、ネット販売専門の店なのだろうか。夫はその後も①不思議がっていた。

それから一年ほどして、ふいに謎が解けた。

面識はないが、時おり読んでいた同世代の女性のブログ（注 1）にこの店を訪ねた話が載っていた。壊れてしまった陶器の修理を頼みに行ったというのである。漆（注 2）を使った金継ぎ、銀継ぎと呼ばれる手法で損なわれた部分を修復するのだが、その仕上がりは疵痕ではなく、景色に見立てることができるよう美しい。

思いがけない近所にそんな専門の工房（注 3）があったとは。新鮮な驚きとともに、②ひと筋の光が射し込んで来る思いがした。我が家にも欠けたからといって捨てられず、破片をそっと薄紙に包んだままにしているものがある。祖母が求め、そして壊してしまった十客揃いの小鉢（注 4）のひとつ。義父が好んで使っていたという杯。これらをもとの形にもどすことができれば、どんなに心和むことだろう。

さっそく店を訪ねてみると、「やあ、いらっしやい」と主はまるでなじみの客のように迎えてくれた。作業の合間に手をゆめて（注 5）いることがあって、店の前の人の行き来を眺めている。「だから近所に住んでいる人のことはなんとなくわかるんです。」見ているのはこちらばかりと思ったら大間違いだ。

③すっかり気が楽になって、こちらの事情を打ち明けた。

（中略）

買替えた方が安あがりとわかっているものでも、使いつづけた愛着があって手放せないという人が増えている。一方で、高価な器を使うお料理屋さんが、段ボールいっぱい送りつけてくることもある。「前に修理したものがまた新たに壊れてもどってきたり。時々、どういう扱いをしてるのかなと思うことがありますよ。」

形あるものはいずれは壊れる。この道理があるから、歳月を経て伝えられたものに感謝の念も湧くし、儚さと美しさは同義でもある。うっかり手を滑らせる（注 6）瞬間は誰にもあり、取り返しのつかない（注 7）事実と直面すると、ため息が出るほど心に重い。

金継ぎはそんな心の痛手までやさしくいたわってくれる伝統の技術だ。もしもの時に助けてくれる人がいると思うと心底有り難い。けれど、だからこそ指先には神経を使ってぞんざいな扱いはす



まいと、見事に修復された器を手にもっている。

(青木奈緒『暮しの手帖』2014年10-11月号による)

(注1) ブログ：日記形式のウェブサイト

(注2) 漆を使った金継ぎ、銀継ぎと呼ばれる手法：陶器の修理方法の名称

(注3) 工房：ここでは、仕事場

(注4) 十客揃いの小鉢：十個揃った小さな器

59) ①不思議がっていたとあるが、何を不思議がっていたか。

1 宅配便の荷物が梱包されたまま置かれていること

2 十年経っても店の様子が何も変わらないこと

3 店なのに客がいるのを見たことがないこと

4 店主を一度も見ることがないこと

60) ②ひと筋の光が射し込んで来る思いがしたとあるが、なぜか。

1 同世代の女性が自分と同じ思いを抱いていることがわかったから

2 割れてしまった思い出深い陶器を直せそうだとわかったから

3 不思議に思っていた店がどのような店かわかったから

4 専門的な技術を近所で見られることがわかったから

61) ③すっかり気が楽になってとあるが、なぜか。

1 店主も自分のことを知っていて、親しく接してくれたから

2 店主は話しづらい人だと思ったが、そうではなかったから

3 店主が仕事の手を休めて話しかけてくれたから

4 店主が以前と同じように接してくれたから

62) この文章で述べられている経験を通して、筆者が強く思ったのはどのようなことか。

1 形あるものは壊れるからこそ、愛情を持って使いたい。

2 壊れるものには美しさがあり、作り手への感謝の念を忘れてはならない。

3 壊れたものは修復できても、壊れたときの心の痛みはなくなる。

4 壊れたものを直す技術があることに感謝しながら、大事に使いたい。



■ 次の文を中国語で訳してください。

1、形あるものはいずれは壊れる。この道理があるから、歳月を経て伝えられたものに感謝の念も湧くし、儚さと美しさは同義でもある。

2、金継ぎはそんな心の痛手までやさしくいたわってくれる伝統の技術だ。もしもの時に助けてくれる人がいると思うと心底有り難い。けれど、だからこそ指先には神経を使ってぞんざいな扱いはすまいと、見事に修復された器を手に思っている。



## 第 77 篇

日本には昔から「物見遊山」（注 1）という言葉がありますが。非日常への憧れは観光の一つの本質です。

しかしその一方で、物見遊山だけに頼った観光地はいずれ必ず飽きられてしまうというのも事実です。例えば富士山を見た外国人が、もう一度富士山だけを見るために訪日してくれるのでしょうか？よほど個人的な思いは入れでもない限り、そういうケースは稀でしょう。海外からわざわざやって来た旅行者に日本という場所へのリピーター（注 2）となってもらうためには、彼らがまた戻って来なくなる別の工夫が必要です。

どのようなビジネスであったとしても、顧客（＝ファン）の存在は決定的な意味を持ちます。そのブランドの価値を認めて、長期にわたって買い支えてくれる人の存在無しには安定的な収益は望めません。このことは観光地においても事情は同じです。

ここで再び、本質的な問いかけが浮かんできます。顧客とりピーター生みだし、観光・リゾート地として何度も選ばれ続けるためには、一体何が必要なのでしょう？

本当の意味で旅行者を惹きつけ、その土地のファンとなるのは、名所旧跡のような観光資源だけではありません。重要なのは自分たちとは異なる豊かな「日常性（ライフスタイル）」です。その土地の人たちが生き生きと暮らしていれば、訪れた人はきっとその理由を見つけたくなる。風土に根差した生活様式、独自の食文化、季節ごとの行事、その地の環境が育んだ産業…二回、三回と足運べば、その度にまた違った表情が見えてくる。その深さを知れば、決して飽きることはありません。

（注 1）物見遊山：見物して遊びまわること

（注 2）リピーター：繰り返し訪ねる人

50) 富士山の例を挙げて、筆者が述べようとしていることは何か？

1. 旅行者の観光の目的が変化してきた。
2. 旅行者が個人的な思い入れのある観光地にしか行かなくなった。
3. ただ見物するだけの観光地は飽きられやすい
4. 観光地は非日常への憧れを満たす場ではなくなった。

51) このことは観光地においても事情は同じとあるが、どういうことか。

1. 繰り返し訪れる旅行者の存在が観光地の経営を支える。
2. 観光地の価値を認めて広めてくれる人が必要だ。
3. 観光地が新しい旅行者を獲得し続けなければならない。

4. 安定的な収益を得て観光地の価値を高めることが必要だ。

52) 観光地として何度も足を運んでもらうには、何が重要だ。

1. 次々と新しい観光資源を生み出し続けること
2. 観光資源としての名所旧跡を大切に保存すること。
3. 風土特有の文化や産業の中で人々が暮らしていること
4. その土地の人たちが生き生きと暮らせる理由を説明すること。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、そのブランドの価値を認めて、長期にわたって買い支えてくれる人の存在無しには安定的な収益は望めません。



2、二回、三回と足運べば、その度にまた違った表情が見えてくる。その深さを知れば、決して飽きることはありません。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 78 篇

芸術作品が私たちにもたらすものは、感動ばかりではない、驚きとか困惑、ときに不快感やイライラ感だったりする。それまで誰も思いつかなかったような形状や色彩や音は、私たちをさまざまに揺さぶる。私たちは慣れ親しんだ世界に浸っているとき心地よさに包まれているが、そこからあたらしいものは生まれない。そういう意味で穏やかで心地よい文化は、保守的で現状肯定的であり、創造性やエネルギーにとぼしい。だからこそ、あえて不安とか狂気、驚きといった刺激をもたらしてくれる①天邪鬼としての芸術が社会には必要なのである。

そういう意味で芸術は安定した穏やかなものを否定するところで生まれる。そうした芸術が誕生すると、社会は大きな包摂性をもっているから、トゲトゲしたものもくるんで呑み込んでしまう。すると、まだ異質な刺激因子としての芸術が必要になってくる。②その繰り返しによって、社会と文化のエネルギーが維持されるのではないか。

(中略)

そうした芸術の天邪鬼性は、活力よりも穏やかさが優勢になりがちな成熟社会においてはより重要である。しかも、今は昔とちがって世の中の変化のサイクルがどんどん短くなっており、これは芸術を生み出す側に大きな変化が求められていることを意味している。なぜなら時代の変化に合わそうとすると、必然的に次々と作品を世に出さなければならず、個々の作品の質を高めることがむずかしくなる。質を高めて完成域に近づいたときには、もう時代のサイクルに入っていて、次の作品に取りかからなくてはならない。

(注 1) 天邪鬼：ここでは、逆らったり否定したりするようなもの

(注 2) 包摂性：中に包み込む性質

53) 筆者によると、①天邪鬼としての芸術が社会に必要なのはなぜか。

1. 社会が不安や刺激を当然のものとして受け入れられるようになるから。
2. 社会にこれまでにないような創造性エネルギーをもたらすから。
3. 社会の穏やかさや心地よさを人々に再認識させるから。
4. 社会の不安や狂気や驚きから人々を解放するから。

54) ②その繰り返しとあるが、何を繰り返すのか？

1. ある芸術が社会に取り込まれ、また異質性を持った別の芸術が求められること
2. ひとつの芸術が社会に完全に排除されると、次の新たな芸術が誕生すること
3. 新しい芸術が、社会に刺激を与えたり与えなかったりすること

4. 芸術に、同質性が求められたり異質性が求められたりすること

55) 筆者によると、今の芸術家はどのような状況に置かれているか。

1. 時代の変化を感じさせる作品を世に出さなければならない。
2. 穏やかさをもたらす作品を世に出さなければならない。
3. 常に作品の質を追求していかななければならない。
4. 作品を世に出し続けていかななければならない。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、そうした芸術が誕生すると、社会は大きな包摂性をもっているから、トゲトゲしたものもくるんで呑み込んでしまう。すると、まだ異質な刺激因子としての芸術が必要になってくる

2、そうした芸術の天邪鬼性は、活力よりも穏やかさが優勢になりがちな成熟社会においてはより重要である。

3、質を高めて完成域に近づいたときには、もう時代のサイクルに入っていて、次の作品に取りかからなくてはならない。

## 第 79 篇

いま私たちの多くは、社会など動かしようがないと考えているのではないのでしょうか。そして、それを所与の条件として、どのように行動すればいいかの判断基準を決めているのです。言え換えれば私たちは、「この社会は動かしようがないのだから、それを現実として受け入れるしかない」と思い込み、その範囲内で実行可能な行為しか考慮しなくなってしまうのです。ここに①大きな誤りがあります。

たしかにこの社会は動かし難い。それは事実です。しかし、そのことと、この社会がいかにあるべきかは、まったく別のことです。にもかかわらず、目の前の現実<sup>3</sup>に依拠して、私たちの行為の正しさやよさが決められてしまう。これでは、現実<sup>2</sup>に不正義が行われていても、それを問うことはできません、なぜなら、そのような現実を前提にして、正しい行為とは何かのルール設定がなされているからです。目の前の現実が正義にかなっていない場合、そこでの行為の正しさやよさを問うことはできないと私は考えていますが、ともすると私たちは、②その現実の範囲内での「適切な」行為を「正しい」行為であると考えてしまいがちです。確かに、その現実が動かしがたく、そのなかで生きていかねばならないとすれば、そこにおいて最も適切な行為とは何か探究することには意味がありますし、その探究によって最も適切とされる行為を選択すべきでしょう。

しかしながら、その現実のほうに問題があるとすれば、そこで最も適切とされた行為は「適切」であるにしても、「正しい」行為ではないはずです。

(注 1) 所与の：与えられた

(注 2) ～に依拠する：～に基づく

(注 3) ともすると：ここでは、つい

56) 大きな誤りと何か？

1. あるべき社会の姿と現実とを区別できず、的確な判断ができないこと。
2. 現実社会における行動の判断基準があるにもかかわらず、従わないこと
3. 現実<sup>3</sup>は動かしようがないと諦めて、自ら働こうとしないこと。
4. 現実を変えられないものとして受け入れ、そのなかでしか行働を考えないこと

57) その現実とあるが、どのようなものか。

1. 不正義が行われている現実
2. 何が不正義か決められない現実
3. 社会が正義を求めている現実
4. あるべき会社を求めている現実

58) 行為の適切さと正しさについて、筆者はどのように考えているか。

1. 現実においては、正しい行為より最も適切とされる行為を選択すべきだ。
2. 現実で適切とされる行為が、いつも正しい行為であるとは言えない。
3. 行為の正しさを追求しすぎて、現実における適切さを忘れてはいけない。
4. 最も適切な行為を探究しても、正しい行為は見つけ出せない。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、これでは、現実には不正義が行われていても、それを問うことはできません、なぜなら、そのような現実を前提にして、正しい行為とは何かのルール設定がなされているからです。

2、目の前の現実が正義にかなっていない場合、そこでの行為の正しさやよさを問うことはできないと私は考えていますが、ともすると私たちは、②その現実の範囲内での「適切な」行為を「正しい」行為であると考えてしまいがちです。

煦和日语  
クワニホンゴ

3、しかしながら、その現実のほうに問題があるとすれば、そこで最も適切とされた行為は「適切」であるにしても、「正しい」行為ではないはずです。

## 第 80 篇

互いに視線を向けるという場面では、サルと人間には大きな違いがある。サルにとって相手をじっと見つめるのは軽い威嚇になり、強いサルの特権である。弱いサルは、見つめられた決して見返してはいけない。挑戦したとみなされて攻撃を受ける羽目になりがちだ。強いサルの視線を避けて横や下を向くか、歯をむき出して笑ったような表情をすればいい。

強いサルは自分の優位性を確認できれば、それ以上威嚇することはない。ただ、自分が強いサルの関心を引きそうな食物に手をかけていたら、すぐさまその場を退いたほうがいいだろう。競合する場面では、弱いサルが強いサルに譲るように誰もが期待しているからだ。それがサル社会のルールである。

人間ではサルとは違ったことは起こる。時折「眼をつけただろう」とすごまれることがあるが、見つめるという行為はふつう威嚇にはつながらない。むしろ、相手に積極的な関心を向けたり、許容や忠告、愛の表現であったりする。視線の向け方にも作法があり、目をかっと見開いたり、細めたり、丸くしたり、四角にしたり、横目や流し目、上目づかいや見下すなど。多種多様である。その作法は文化によっても、性別や年齢、身分や服装によっても違ってくる。それは人間にとって、顔と顔を合わせ、視線を交わすことが重要なコミュニケーションであるからだ。

実際、言葉が発達した私たちの社会でも、重要なことは直接会って決めることが多いし、面接は人物を確かめる手段として重用されている。

(中略)

ところが、現代情報機器はこの視線の作法をあまり使わなくてもすむ社会をつくってしまった。人々は毎日インターネットやメールをのぞくために多くの時間を使っている。家族や親しい仲間とじっくり顔を合わせて、対話や協同作業を楽しむ時間を失いつつある。

その結果、多様な視線の作法を忘れ、他人と視線を合わせることが億劫となっているのではないだろうか。だが、言葉は視線のコミュニケーションを代替できない。言葉は意味を、視線は感情を伝える。むしろ意味があいまいであるからこそ、視線は暖かくも冷たくもなりうるし、そこで受けた印象を後で変えることもできるのである。

言葉は視覚で得た映像や画像を意味として切り取る。そして文字はその言葉を化石化する装置である。それが持ち運び可能な効率な手段だからこそ、人間は世界を言葉や文字で塗り替えた。だがそのおかげで、私たちは豊かな心を育んできた視線による対面の世界を忘れようとしている。それは皮肉にもサルのような視線を合わせない、優劣社会に移行することにつながるのではないかと私は不安に思っている。

(注 1) 眼をつける：相手の顔をにらむ



(注 2) すごむ：脅すような態度をとる。

59) 筆者によると、サル社会のルールとは何か。

1. 強いサルも弱いサルも、挑戦されれば相手を攻撃する
2. 強いサルは、弱いサルを威嚇することはない。
3. 弱いサルは、強いサルに挑戦するようなことはしない。
4. 弱いサルは、強いサルの関心を引こうとする

60) サルとは違ったこととは何か

1. 視線以外の手段を使って気持ちを表現すること。
2. 視線の向け方が場面によって決められること
3. 視線を向け続ければ威嚇につながる事
4. 視線を様々な意味に使い分けること

61) 筆者は、視線の作法をどのようにとらえているか。

1. お互いの感情をうまく伝え合うために必要なもの
2. 言葉によるコミュニケーションの替わりになるもの
3. 相手にいやな感情を伝えないようにするためのもの
4. 性別や年齢、身分や服装に惑わされないように使うもの

62) 筆者の考えに合うものはどれか。

1. 情報機器を使用せずに感情を伝え合うことは難しくなっている。
2. 情報機器によるよりも対面の方が、意味を伝え合うには効果的である。
3. 情報機器の使用も視線を交わすことも、コミュニケーションに不可欠である。
4. 情報機器の発達で、視線がコミュニケーションに果たす役割が見失われつつある。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、人間ではサルとは違ったことは起こる。時折「眼をつけたらろう」とすごまれることがあるが、見つめるという行為はふつう威嚇にはつながらない。

2、むしろ意味があいまいであるからこそ、視線は暖かくも冷たくもなりうるし、そこで受けた印象を後で変えることもできるのである。

3、だがそのおかげで、私たちは豊かな心を育んできた視線による対面の世界を忘れようとしている。それは皮肉にもサルのような視線を合わせない、優劣社会に移行することにつながるのではないかと私は不安に思っている。

煦和日语  
クワニホンゴ

## 第 81 篇

人に従順な飼い犬は、もともとオオカミの仲間を飼い馴らしたものである。

(中略)

ところが、「人間がオオカミを飼い馴らした」という話には謎が多い。犬が人間と暮らすようになったのは、15000 年ほど前の旧石器時代のことであったと推測されている。当時の人類にとって、肉食獣は恐るべき敵であった。そんな恐ろしい肉食獣を飼い馴らすという発想を当時の人類が持ち得たのだろうか。しかも犬を飼うということは、犬にエサをやらなければならない。わずかな食糧で暮らしていた人類に、犬を飼うほどの余裕があったのだろうか。また当時の人類は犬がいなくても、狩りをする事ができた。犬を必要とする理由はなかったのである。

最近の研究では、人間が犬を必要としたのではなく、犬の方から人間を求めて寄り添ってきたと考えられている。犬の祖先となったとされる弱いオオカミたちは、群れの中での順位が低く、食べ物も十分ではない。そこで、人間に近づき、食べ残しをあさるようになったのではないかと考えられているのである。弱いオオカミだけでは、狩りをする事ができないが、人間の手助けをすることはできる。そして、やがて人間と犬とが共に狩りをするようになったと推察されている。

こう考えると、当時、自然界の中で強い存在となりつつあった人間に寄り添うことは、犬にとって得なことが多かった。つまり、人間が犬を利用したのではなく、犬が人間を利用したかもしれないのである。

(稲垣栄洋『弱者の戦略』

による)

50) 謎が多いとあるが、謎に合うのはどれか。

- 1 犬ではなくオオカミを飼おうとしたこと
- 2 オオカミを肉食獣だと思わなかったこと
- 3 恐ろしいオオカミを飼って利用しようと考えたこと
- 4 狩りの邪魔になるのに恐ろしいオオカミを飼おうとしたこと

51) 筆者によると、どのようなオオカミが犬の祖先だと考えられるか。

- 1 人間から頼りにされたオオカミ
- 2 狩りの上手なオオカミ
- 3 群れから追い出されたオオカミ

#### 4 群れの中で下位のオオカミ

52) 犬の祖先が人間と暮らすようになったきっかけについて、筆者はどのように考えているか。

- 1 人間を利用して仲間からの危険を避けようとした。
- 2 人間に近づいて食糧を得ようとした。
- 3 人間が狩りの手助けをさせた。
- 4 人間がエサを与えた。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、最近の研究では、人間が犬を必要としたのではなく、犬の方から人間を求めて寄り添ってきたと考えられている。

2、犬の祖先となったとされる弱いオオカミたちは、群れの中での順位が低く、食べ物も十分ではない。そこで、人間に近づき、食べ残しをあさるようになったのではないかと考えられているのである。

## 第 82 篇

子どもはこれから自分は大人になっていくのだから、自分はどうなるのだろうとそれは一生懸命に大人を観察している。その大人に魅力を感じれば、あんなふうになりたいと思うかもしれない。ほんのちょっとチャームングなところを認めて、ああ失敗しても、どじ（注1）ばかりでもいいんだと思えることもあるかもしれない。あるいは、僕はあんな大人にはならないだろうけれど、あんなふうにするのもすてきだなと感じることもあるに違いない。とにかく子どもは、①そんなふうに常に大人を見ているのである。

（中略）

子どもはやがて大人になる。その大人に魅力がなかったら、それは自分に明日がないと言われているのと同じことだ。大人になってもつまらなそうだ。楽しいことがなさそうだと感じたら、君の未来はこの程度のものだと思いつけられているのと変わらない。②これほど子どもにとって不幸なことはない。大人はいつも子どもに見つめられている、子どもが自分を観察しているということを自覚していなければいけないと思う。

わが身をつくろって、いいカッコするのではない。正直に失敗するのなら、子どもより上手に失敗してみせよう、傷つくな子どもより上手に傷ついてみせよう。人生の先輩としてというより、現役の子どもに対してベテランの子どもとして、ベテランらしいところを見せてやろうじゃないか。そういう気概の（注2）大人がたくさんいれば、子どもたちはきっと大人の世界に魅力を見いだすに違いない。それが幸福な子どもの将来につながるのだと思う。

（大林宣彦『父の失恋娘の結婚一ベそっかきの幸福そうな顔』による）

（注1）どじ：うっかりした失敗

（注2）気概の：ここでは、強い気持ちを持った

53) ①そんなふうにとあるが、子どもはどんなふうに大人を見ているのか。

- 1 早く大人になりたいと思っている。
- 2 大人の姿から魅力的な部分を探している。
- 3 自分が失敗したときどうするか考えている。
- 4 あんな大人にはなりたくないと思っている。

54) ②これほど子どもにとって不幸なことはないとあるが、何が不幸なのか。

- 1 大人を見ても未来の自分に希望が持てないこと

- 2 大人を見てもすてきな大人になる自信が持てないこと
- 3 大人を見ても今何をしてあげばいいか分からないこと
- 4 大人を見ても将来自分のしたいことが見つからないこと

55) 筆者が大人に対して伝えたいことは何か。

- 1 人生の先輩らしく、いつもかっこいい大人でいよう。
- 2 ベテランの子どもとして、子どもを幸福な将来へ導いてあげよう。
- 3 子どもたちに、大人の魅力的な世界を教えよう。
- 4 子どもたちに、ベテランの子どもとしての行いを示そう。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、ほんのちょっとチャーミングなところを認めて、ああ失敗しても、どじ（注1）ばかりでもいいんだと思えることもあるかもしれない。

2、わが身をつくろって、いいかっこするのではない。正直に失敗するのなら、子どもより上手に失敗してみせよう、傷つくなら子どもより上手に傷ついてみせよう。

3、人生の先輩としてというより、現役の子どもに対してベテランの子どもとして、ベテランらしいところを見せてやろうじゃないか。

## 第 83 篇

科学記者を始めた 20 年ほど前、記者の訪問を歓迎しない科学者は、けっして珍しくなかった。「新聞記者との付き合いには何のメリットもなく、時間の無駄。記者と親しい科学者は、同僚からうさんくさい目で見られる。真理の探究に没頭する科学者が、記者なんていう世俗を相手にしては沽券（注 1）にかかわる」というわけだ。それが今は、まったく違う。科学者も、研究に税金を使うからには自分の仕事を積極的に世間に説明するのが当然だとみなされ、大学や研究所はメディア戦略を練るまでになった。変われば変わるものだ。

（中略）

科学者側の広報が巧みになればなるほど、科学ジャーナリズムが科学者集団のたんなる宣伝係で仕事をした気になってしまう恐れがある。「サイエンス」や英国の「ネイチャー」に載る科学者の論文を、どの新聞も毎週のように記事にして紹介している。その多くが、これらの論文誌の巧みな広報資料や研究者の記者発表をもとにしているのだが、これなどまさに、何を社会に伝えるかは自分で決めるというジャーナリズムの要（注 2）を、科学者集団側になかば預けてしまっているのではないか。

自分でネタ探しをするよりも、このほうがたしかに効率的なのだ。米国の科学ジャーナリズムの教科書には、科学者たちはマスメディアを自分たちの広報機関のようにとらえるものだと書いてある。科学ジャーナリズムは、広報戦略に長けてきた（注 3）科学者たちとどう付き合っていくべきか。その哲学と戦略を、こちら側も改めて肝に銘じて（注 4）おかなければならない時代になった。

（YOMIURI ONLINE 2010 年 3 月 7 日取得による）

（注 1）沽券にかかわる：体面を損ねる

（注 2）要：最も大切な部分

（注 3）長けてきた：上手になってきた

（注 4）肝に銘じて：忘れないように心にしっかりととどめて

56) 変われば変わるものだとあるが、科学者はどのように変わったのか。

- 1 以前は記者を世俗的だと見ていたが、現在はメディアを信頼するようになった。
- 2 以前は記者と距離を置いていたが、現在は積極的にメディアとかかわるようになった。
- 3 以前は同僚の目を気にしていたが、現在は記者の目をより気にするようになった。
- 4 以前は自らメディア戦略を練っていたが、現在は記者の力を借りるようになった。

57) 科学者との関係で、今のジャーナリズムにはどのような問題があるか。

- 1 科学者が望む論文を記事にしていない。
- 2 科学者が十分満足できる広報をしていない。
- 3 科学者から提供された情報をそのまま伝えている。
- 4 科学者から提供された情報を十分理解せずに報じている。

58) この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 科学者は、科学ジャーナリズムの立場をもっと理解すべきである。
- 2 科学者は、科学ジャーナリズムとの関係のあり方を改めて見直すべきである。
- 3 科学ジャーナリズムは、報道内容の決定にあたって主体的であるべきだ。
- 4 科学ジャーナリズムは、科学の価値を正しく認めてもらえるよう努めるべきだ。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、科学者側の広報が巧みになればなるほど、科学ジャーナリズムが科学者集団のたんなる宣伝係で仕事をした気になってしまう恐れがある。

3、その多くが、これらの論文誌の巧みな広報資料や研究者の記者発表をもとにしているのだが、これなどまさに、何を社会に伝えるかは自分で決めるというジャーナリズムの要（注2）を、科学者集団側になかば預けてしまっているのではないか。

3、米国の科学ジャーナリズムの教科書には、科学者たちはマスメディアを自分たちの広報機関のようにとらえるものだと書いてある。



## 第 84 篇

暮らしの中で身近な木といえば、街路樹と公園の樹木、そして住宅の庭の木あたりでしょうか。いずれも毎日目にはしているものの、あらためて意識することは少ないと思います。でも、例えばこれがすべて枯れてしまったとしたらどうでしょう。なんとも寂しく、無味乾燥な、あるいは何か病気を連想させるようなイメージのまちになってしまうのではないのでしょうか。

また、昨今は、維持管理の面などから街路樹を植えないまちなどもあるようですが、一見近代的、未来都市的なイメージもしますが、うるおいややすらぎのないまちのようにも見えます。このようにまちの樹木は、実はとても大きな役割を持っています。では、この木々たちは、ただ植えるだけ、存在するだけでいいのでしょうか。そうではありません。そこに意味や意義がなければならぬのです。わかりやすく言うと、街路樹の樹種を何にするかというようなことです。その土地の植生（注1）を踏まえ、その上に歴史性や未来性を重ね合わせる。

季節の移ろいの中で、人々がその木をどのように眺めながら暮らしていくのか。そんな積み重ねの上にはじめて「ここにはこの木を植えよう」ということになる。①それがその木がその場所に存在する意義です。住宅の庭木も同じです。単に自分の好みばかりでなく、その木が住宅街の小路をどのように演出するのか、まわりとの調和はどうなのか。そんなことを考えていくのがまちづくりの中の「木」です。昨今のガーデニングブームで、確かに個々の家の庭は立派になりました。花や木の種類もずいぶん増えて、ひと昔前には無かったような色や形も見られます。そして、ガーデニングをする人達の情報交流も盛んとなり、新たなコミュニティも生まれているようです。しかし、いま一つ自分の土地から外に広がっていない感じがします。

道路や公園は地域にとっての共有の庭であり、個々の部分と共有の部分が美しくなってこそはじめて全体が美しくなるのです。美しく楽しい庭を作っている人々には、②もっと欲張って美しく楽しいまちを作ってほしいと思います。「愛でる」という言葉があります。これは主に植物に対して使われます。満開の桜や初夏の新緑、真夏の木陰や秋の紅葉…。

私たちは折々に（注2）木々を眺め、そこに日々の暮らしを重ね合わせたり、育ちゆく木々に子供達の明るい未来を願ったりしているのではないのでしょうか。そしてそんな思いをこめて水やりや手入れをする。これが「愛でる」ということだと思うのです。その愛でる心と愛でられる木々があってはじめてよいまちとなるのです。

（加藤美浩『まちづくりのススメ』による）

（注1）その土地の植生：その土地にどのような植物が生えているか

（注2）折々に：ここでは、機会があるごとに

59) 筆者によると、まちの樹木の大きな役割とは何か。

- 1 人々に木が身近な存在であることを意識させる。
- 2 人々に未来都市的なイメージを与える。
- 3 人々を現実の煩わしさから逃れさせる。
- 4 人々を落ち着いた気持ちにさせる。

60) ①それとはどういうことか。

- 1 その土地に暮らす人々の好みに合わせた樹木を植えること
- 2 その土地の特性と人々の暮らしを考慮し、樹木を植えること
- 3 その土地の歴史的な樹木を大切にし、保存すること
- 4 その土地の季節の移ろいを感じさせる樹木を大切にすること

61) ②もっと欲張ってとあるが、筆者の気持ちと合うものはどれか。

- 1 自分の好みだけではなく、まち全体との調和も考えてほしい。
- 2 ガーデニングをする人達同士で、もっと情報交換をしてほしい。
- 3 個々の庭の花や木が、さらに美しく育つようにしてほしい。
- 4 個々の庭よりも、まちの共有の部分のほうに力を入れてほしい。

62) 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 人々がまちの木々を愛でることで、子供達が自然に関心を持つようになる。
- 2 人々がまちの木々を愛でることが、よいまちづくりにつながる。
- 3 人々がまちの木々の手入れを怠らなければ、よいまちになる。
- 4 人々が季節による木々の変化に関心を持つことで、愛でる心が生まれる。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、また、昨今は、維持管理の面などから街路樹を植えないまちなどもあるようですが、一見近代的、未来都市的なイメージもしますが、うるおいややすらぎのないまちのようにも見えます。

2、道路や公園は地域にとっての共有の庭であり、個々の部分と共有の部分が美しくなってこそはじめて全体が美しくなるのです。美しく楽しい庭を作っている人々には、②もっと欲張って美しく楽しいまちを作ってほしいと思います。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 85 篇

いつでも帰ってこられる場所があると思っていられるのは、ずいぶんと心強いことだと思うんです。別に帰ってこなくてもいい。「帰れるところがある」と思っている人と、そんな場所がない人では、人生の選択肢の数が違う。当たり前ですけど、「退路のある」人の方が発想がずっと自由になれる。ずっと冒険的になれる。

親子関係も同じじゃないかと思います。10 年ほど前に高校を卒業した娘が東京へ行くときに、ぼくが娘に言ったのは二つだけです。「金なら貸すぞ」と「困ったらいつでも帰っておいで」。親が子どもに向かって言ってあげられる言葉はこれに尽きるん（注 1）じゃないでしょうか。泊まる場所がなかったら、いつだって君のためのご飯とベッドは用意してあるよ。この言葉だけは親はどんなことがあっても意地でも言い続けたいといけないうんです。「そんなに甘やかすと自立の妨げになる」と苦言を言う人もいますが、ぼくはそれは違うと思う。

「人間は弱い」というのがぼくの間人観の根本なんです。だから、最優先の仕事はどうやってその弱い人間を慰め、癒し、支援する場を安定的に確保するか、です。（中略）家は、メンバーのポテンシャル（注 2）を高めたり、競争に勝つために鍛えたりするための場じゃない。そういう機会なら家の外にいくらでもある。家というのは、外に出て、傷つき、力尽き、壊れてしまったメンバーがその傷を癒して、また外へ出て行く元気を回復するための備えの場であるべきだどぼくは思っています。

（内田樹「ぼくの住まい論」による）

（注 1）これに尽きる：これしかない

（注 2）ポテンシャル：ここでは、可能性

50) 「帰れるところがある」と思っている人について、筆者はどのように述べているか。

- 1 人生の選択肢に迷わない。
- 2 人生の可能性が広がる。
- 3 自分に自信が持てる。
- 4 将来に不安を感じない。

51) 筆者は親が子どものためにどうすればよいと考えているか。

- 1 いつでも助けてあげられることを伝える。
- 2 「人間は弱い」ということを教える。
- 3 自立の妨げになることをしない。
- 4 将来お金に困らないようにする。

52) 筆者は、家はどのような場であるべきだと考えているか。

- 1 競争に勝つためにさらに自信をつける場
- 2 社会で自立するための能力を身につける場
- 3 どんなときでも、穏やかな気持ちになれる場
- 4 つらくなったときでも、活力を取り戻せる場

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、この言葉だけは親はどんなことがあっても意地でも言い続けたいといけないうんです。「そんなに甘やかすと自立の妨げになる」と苦言を言う人もいますが、ぼくはそれは違うと思う。

2、家というのは、外に出て、傷つき、力尽き、壊れてしまったメンバーがその傷を癒して、また外へ出て行く元気を回復するための備えの場であるべきだどぼくは思っています。

## 第 86 篇

何であれ、一個の製品を完璧に仕上げるのに要求される技能は、たいへんなものです。そんな芸当（注 1）が可能な職人の数は限られていることでしょう。作り出せる製品の数も、自然と限られてきます。ところが、作業工程を細分化してみますと、個々の工程は意外に単純だったりします。より単純な、一つひとつの工程であれば、きちんとこなせる職人の数は、製品をまるごと作れる職人の数に比べて、ずっと多くなるでしょう。また、未熟練だった職人が腕を上げる（注 2）のも、より単純な一工程に限定しての話であれば、ずっと容易です。作業の細分化と役割分担、つまり分業化は、確かに①生産性を向上させるものなのです。

一個の経済に属するということは、その経済に属する他の人たちと分業関係を取り結ぶことを意味します。あなたの仕事も、同じ日本に住んでいる面識もない誰かの仕事も、②同じ分業の網の目に属しているのです。今では分業関係は世界全体に広がっていますから、あなたがした仕事が、地球の裏側にいる誰かのした仕事と組み合わせさっているということも、ざらにあります。そして、分業の網の目が全世界に広がり、たとえば一個の工業製品を生産するために、構想からデザイン、原型の製作、部品の製造、組み立てといったさまざまな作業が全世界に広がっている現代は、確かに人類史上最も豊かな時代なのです。

（徳川家広「自分を守る経済学」による）

（注 1）芸当：普通の人にはまねのできない技

（注 2）腕を上げる：技術を上達させる

53) (①生産性を向上させるとあるが、なぜか。

- 1 作業工程が細分化されると、一つひとつの作業が速くなるから
- 2 作業工程が細分化されると、職人でなくてもできるから
- 3 一工程であれば、仕上げられる職人の数が増えるから
- 4 一工程であれば、どんな職人でもできるから

54) ②同じ分業の網の目に属しているとは、どのようなことを意味しているか。

- 1 一連の作業工程の中の一つの役割を担っているということ
- 2 作業工程が細分化されて分業関係が多様であるということ
- 3 誰もがどの工程でもこなせる状態にあるということ

4 同じ工程を分担している人が数多くいるということ

55) 筆者は現代をどのような時代だと考えているか。

- 1 世界全体に熟練した職人の技術が広められている。
- 2 世界全体の分業関係で経済が成り立っている。
- 3 世界中で工業製品の品質が高くなっている。
- 4 世界のすべての国で分業が重視されている。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、より単純な、一つひとつの工程であれば、きちんとこなせる職人の数は、製品をまるごと作れる職人の数に比べて、ずっと多くなるでしょう。

2、また、未熟練だった職人が腕を上げる（注2）のも、より単純な一工程に限定しての話であれば、ずっと容易です。

3、今では分業関係は世界全体に広がっていますから、あなたがした仕事が、地球の裏側にいる誰かのした仕事と組み合わさっているということも、ざらにあります。

## 第 87 篇

以下は、長年インタビューを仕事にしている人が書いた文章である。

何かと取材しつくされたような今の時代にも、乗った電車で横に座った、ぐらゐの近くにいる普通の人たちの辿った過去、精神的な道のり取材することには①可能性が残されている。これは幸福な感触だった。普通の人に対して、話題の人物と同じような方法でなるべく丁寧に話をうかがってみたけれど、そのうちの一部分は、これはある職業における普通の人たちへのインタビューとして、昨年発表した拙著「善き書店員」という本にまとめた。特殊な人物の発言よりむしろそんな普通の人たちの実感こそ、数十年後に振り返れば時代の証言にも聞こえるのではと思うようになっていった。②有意義な取材が開拓されきったような空白の時代に、特別で極端な物語はもういいやという状況で隙間を見つけようとして、そこら辺にごろんと転がっている声の実りにたまたま気づかされたわけだ。

過去は、文句の言えない形で③「これだ」と見せられるようなものではない。映像などで記録されていてさえ、人物の内面で起きた心の大事件みたいなものは捉えられなかったりもする。解釈は変化するから、同じ出来事への同じ人物の談話も十年前と今でかなり異なることもよくあり、つまり過去は人物の内面で揺れ動き続けていて、形を持たない怪物のようでもある。過去の解釈は、本人が切実に感じているからこそ人生に陰影を与えるため、主観の記憶の何が真実かさえも重要ではない場面がある。有名無名を問わず、さまざまな方に取材で話をうかがううちに、この過去という確固たる形を持たず動き続ける怪物にこそ人間は振り回されたり、あるいは歩き続けていくための滋養（注）をもらったりするようだな、と思うようになっていった。

（木村俊介「暮しの手帖」2014 年 6-7 月号による）

（注）滋養：ここでは、力

56) ①可能性とはどのようなことか。

- 1 普通の人の方が、丁寧に取材に応じてくれること
- 2 普通の人の実感に、取材すべきものを見いだせること
- 3 普通の人への取材では、共感できる話を聞けること
- 4 普通の人への取材の方が、幸福な時間に感じられること

57) ②有意義な取材とはどのようなものだったか。

- 1 普通の人から時代の証言になるような話を聞く。
- 2 普通の人から数多くの普通の話聞く。



- 3 話題の人物から日常の何げない話を聞く。
- 4 特別な人から特別な話を聞く。

58) 過去は③「これだ」と見せられるようなものではないとあるが、なぜか。

- 1 過去は心の中で形を変えていくものだから
- 2 過去はあまりに多くの出来事を含んでいるから
- 3 過去の記録は過去の一部でしかないから
- 4 過去の記憶は徐々に薄れていくものだから

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、有意義な取材が開拓されきったような空白の時代に、特別で極端な物語はもういいやという状況で隙間を見つけようとして、そこら辺にごろんと転がっている声の実りにたまたま気づかされたわけだ。

2、過去の解釈は、本人が切実に感じているからこそ人生に陰影を与えるため、主観の記憶の何が真実かさえも重要ではない場面がある。

3、有名無名を問わず、さまざまな方に取材で話をうかがううちに、この過去という確固たる形を持たず動き続ける怪物にこそ人間は振り回されたり、あるいは歩き続けていくための滋養（注）をもらったりするようだな、と思うようになっていった。

## 第 88 篇

視覚や聴覚などの情報処理においては、脳の働きの個人差は比較的少ない。丸いものを提示すれば、脳はそれを丸いものとして認識する。丸いものを提示した時に、それを「丸」と認識する人と「三角」と認識する人が相半ばする（注 1）ということはある得ない。同様に、あるピッチの音を聴いた時に、その情報処理に個人差はあまり見られない。

その一方で、ある事象に対する感情の反応においては、個人によるばらつきが大きくなるのが通例（注 2）である。同じものを前にしても、全ての人がそれを好きだと感じたり、逆に全ての人がそれを嫌いだと思うとは限らない。ある人が好きだと感じるものを、別の人が嫌いだと思うのはごく普通のことである。感情においては、脳の反応に大きな個人差が見られるのである。

そもそも、感情の働きとは何であろうか？ひと昔前には、感情とはある特定の刺激に対する類型的な（注 3）反応であると考えられてきた。大脳新皮質（注 4）が担っている理性の働きが環境の変化に応じて柔軟な情報処理を行うのに対して、「爬虫類の脳」とも呼ばれる古い脳の部位が重要な役割を担う感情は、一定の決まり切った反応をするものと思われていたのである。

しかし、近年の脳科学の発達により、感情は、むしろ生きる上で避けることのできない不確実性に対する適応戦略であることが明らかになってきた。理性では割り切れない、結果がどうなるかわからないような生の状況において、それでも判断し、決断することを支えるための情報処理のメカニズムとして、感情は存在していると考えられるに至ったのである。

（中略）

感情が不確実性に対する適応であると考えると、その反応において個人差が生じるのは自然なことである。不確実な状況の下では、とるべき選択肢の「正解」は一つとは限らないからである。

さまざまな人々が異なる戦略をとり、全体としてバラエティが増したほうが、人間という生物種全体としては、むしろ適応的である。生死にかかわるような状況においては、たとえ、ある選択をした人が不幸にして死んでしまったとしても、別の選択をした人が生きのびれば生物種としては存続できるからである。全体が同じ選択肢を選んでしまえば、環境の変化や予想のできない事態に対して脆弱になって（注 5）しまう。

他人が異なる感情の反応を見せることを許容することの倫理的基礎は、まさにこの点にある。他人が自分と異なる感情の中にあることに反発するのは自然な心の動きであるが、とらわれて（注 6）はいけな。自他の差異に対して許容的であることが、すぐれて生命哲学上の原理にかなっているのである。

（茂木健一郎「疾走する精神」による）

（注 1） 相半ばする：同じくらいである

（注 2） 通例：一般的

(注 3) 類型的な：型どおりの

(注 4) 大脳新皮質：脳の一部分

(注 5) 脆弱になる：もろくて弱くなる  
れる

(注 6) とらわれる：ここでは、ある考えに縛ら

59) 知覚の情報処理と感情の反応について、筆者はどのように述べているか。

- 1 いずれも大きな個人差が見られる。
- 2 いずれも個人差はあまり見られない。
- 3 知覚の情報処理のほうが大きな個人差が見られる。
- 4 感情の反応のほうが大きな個人差が見られる。

60) 近年、感情の働きはどのようなものだと考えられるようになったか。

- 1 避けられない状況を受け入れるためのもの
- 2 避けられない状況において、理性を保つためのもの
- 3 不確実な状況において、判断して決断するためのもの
- 4 不確実な状況において、正解を求めるためのもの

61) 個人差が生じることがどのようなことにつながるか。

- 1 人間という生物種の存続
- 2 人間と他の生物種との共存
- 3 生死にかかわるような事態の減少
- 4 環境の変化に対応できる生物種の増加

62) 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 人々が生きていくためには、感情の個人差を敏感に察知すべきだ。
- 2 人々が生きていく上では、感情の反応の個人差を受け入れたほうがいい。
- 3 感情の反応に個人差があることこそが、人間であることのあかしである。
- 4 感情の反応に個人差があることは、人間を取り巻く環境の変化によるものである。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、脳新皮質（注 4）が担っている理性の働きが環境の変化に応じて柔軟な情報処理を行うのに対し  
て、「爬虫類の脳」とも呼ばれる古い脳の部位が重要な役割を担う感情は、一定の決まり切った反応  
をするものと思われていたのである。

2、理性では割り切れない、結果がどうなるかわからないような生の状況において、それでも判断し、決断することを支えるための情報処理のメカニズムとして、感情は存在していると考えられるに至ったのである。

3、生死にかかわるような状況においては、たとえ、ある選択をした人が不幸にして死んでしまったとしても、別の選択をした人が生きのびれば生物種としては存続できるからである。



煦 | 和 | 日 | 语  
ク | ワ | ニ | ホ | ン | ゴ

## 第 89 篇

私たちは、日々、大量の情報を処理しなければならない現代において、本もまた、「できるだけ速く、たくさん読まなければいけない」という一種の強迫（注 1）観念にとらわれている。「速読コンプレックス」と言い換えてもいいかもしれない。しかも、楽をしてそれができるのであれば、言うことはない。巷に溢れかえっている速読法を説く本は、そうした心理に巧みにつけこむ（注 2）ように書かれている。

もちろん、時と場合によっては、速く読むことも必要だろう。「明日までに大量の資料を読んで書類を作らなければいけない」といった状況下では、速読や斜め読み（注 3）は避けられないだろう。しかしそれは、単に一時的な情報の処理であり、書かれた内容を十分に理解し、その知識を、自分の財産として身につけるための読書ではない。単に、情報の渦の中に否応なく巻き込まれてしまっているだけで、自分の人生を、今日のこの瞬間までよりも、さらに豊かで、個性的なものにするための読書ではないのである。

読書を楽しむ秘訣は、何よりも、「速読コンプレックス」から解放されることである！ 本を速く読まなければならない理由は何もない。速く読もうと思えば、速く読めるような内容の薄い本へと自然と手が伸びがちである。その反対に、ゆっくり読むことを心がけていれば、時間をかけるにふさわしい、手応えのある本を好むようになるだろう。

（平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による）

（注 1）強迫観念にとらわれている：ここでは、強い思いから逃げられない

（注 2）～に巧みにつけこむ：ここでは、～をうまく利用する

（注 3）斜め読み：ざっと読むこと

50) そうした心理とあるが、どのような心理か。

- 1 本をたくさん読めるようになりたい
- 2 大した努力なしに速読法を身につけたい
- 3 「速読コンプレックス」に縛られずに読みたい
- 4 内容を理解しなければという思いから解放されたい

51) 筆者によると、速読をしなければならないのはどのようなときか。

- 1 情報の渦の中に巻き込まれないようにするとき
- 2 多くの情報を急いで処理しなければならないとき
- 3 多くの知識を自分のものとして蓄えようとするとき

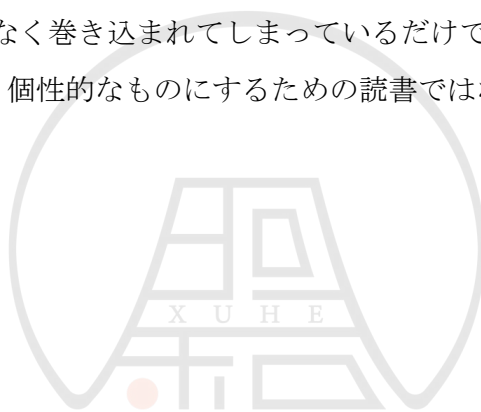
4 社会の変化の速さに取り残されないようにするとき

52) 筆者によると、読書を楽しむにはどうすればよいか。

- 1 手応えのある本を繰り返し読む
- 2 本の内容に応じて速さを変えて読む
- 3 速さにこだわらずできるだけ多くの本を読む
- 4 速さや量にこだわらず時間をかけて本を読む

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、単に、情報の渦の中に否応なく巻き込まれてしまっているだけで、自分の人生を、今日のこの瞬間までよりも、さらに豊かで、個性的なものにするための読書ではないのである。



煦和日语  
クワニホンゴ

2、その反対に、ゆっくり読むことを心がけていれば、時間をかけるにふさわしい、手応えのある本を好むようになるだろう。

## 第 90 篇

中学生や高校生の頃、歴史の時間が退屈だった。

(中略)

そんな私が四十歳の頃から歴史に興味を持ち始めた。何かを調べるとその辺りに知識の島ができ、別のことを調べるとまた別の島ができる。そのうちに孤立していたはずの二つの島が橋でつながる。

「こういうことだったのか」という①驚きがある。一見関係のなさそうな二つのものが結びつくという意外性は、自然科学における醍醐味の最たるものでもある。歴史を調べれば調べるほど島々がネットワークのように結ばれて行く。

人間や情報は地球上を移動するから当然なのだが、ネットワークの構築はなぜか脳にすこぶる心地よい。その上あらゆる現象に人間が絡んでいて余計に面白い。②歴史とは地球を舞台とした途方もなく (注 1) 壮大な演劇なのだ。自分や先祖も舞台の隅の隅の隅で参加している。それに人間の本质は変わらないから、人は似た状況で似たヘマ (注 2) を何度も繰返す。だから現在を考えるのに実に役立つ。

若い頃にこの面白さに気付いていれば、今と違い記憶力もよかったから強大かつ緻密なネットワークを完成することができ演劇をもっと深く味わえたのにも思う。無理だったかも知れない。中年にさしかかって初めてこれまで生きてきた、そしてそう遠くない将来に消える自分の立位置を確かめたくなるからだ。家系を調べたくなったり先祖や自らがどのような時代の流れの中で生を受け生を営んできたかを知りたくなる。無邪気なままこの世から退場したくなくなるのだ。十代で歴史に興味を持つ者の気持は私には不思議だが、中年になって歴史に興味を持たない者の気持はそれ以上に不思議だ。

(藤原正彦『週刊新潮』2010 年 10 月 28 日号による)

(注 1) 途 (と) 方 (ほう) もない : とんでもない。比べるものもない。

(注 2) ヘマ : 失敗

53) ①驚きがあるとあるが、なぜ驚いたのか。

- 1 調べれば調べるほど、歴史の新しい事実がわかってくるから。
- 2 自分は歴史が嫌いだと思っていたが、実は好きであることを発見したから。
- 3 全く別だと思っていたものの間に、思いがけない関連性が見えてくるから。
- 4 関連性があると思っていたものが、全く関係がないことがわかったから。

54) 筆者が考える②歴史とはどのようなものか。

- 1 先祖や自分たちもかかわって作ってきたドラマ
- 2 自分たちの先祖が残した完成されたドラマ
- 3 自分が生きてきた時代を映したドラマ
- 4 過去の人間が複雑に絡んでいるドラマ

55) 筆者の気持ちに合っているものはどれか。

- 1 若いうちは歴史に興味がないのに中年になって自然に興味をわいてくるのは驚きだ。
- 2 少しでも歴史を学べば時代の流れの中での自分の位置を知りたくなるのは当然だ。
- 3 中年になって歴史における自分の位置を知ろうとしない人もいることは意外だ。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、若い頃にこの面白さに気付いていれば、今と違い記憶力もよかったから強大かつ緻密なネットワークを完成することができ演劇をもっと深く味わえたのにも思う。

2、中年にさしかかって初めてこれまで生きてきた、そしてそう遠くない将来に消える自分の立位置を確かめたくなるからだ。



## 第 91 篇

人類は、「都市」という空間をつくったときに、それまでの部族的（注 1）、あるいは村落的な社会空間とは本質的に異なる社会空間を経験した。村落においては人々は、共に生き、共に死んでいくものとして、互のこゝと、そのまた親の世代のこゝと、祖先のこゝとまで熟知していることを前提とした社会的な関係を形成する。都市の街頭においては、人々は、互の匿名性を前提として、見ず知らずの他人同士の視線によるコミュニケーションを交わす。都市のなかの市場では相手の人柄や家族のことなどなにも知らないことを前提とした商品の売買や機能的な結びつきを形成する。さらにそれを恒常化した組織も、村落の人と人の関係とは違って人々の分業を最適な状態を実現するための機能的なつながりである。

都市の社会空間の経験は、人類にとっての社会のイメージを決定的に変えたし、したがって自己のイメージも変えた。人々は、自分を個人という単位として意識する機会が多くなり、財は一族（注 2）や集団のものではなく、個人のものと意識され、才能は個々の人間の属性（注 3）として考えられるようになった。

都市の人間の間にも、うわさが飛び交うような口頭のコミュニケーションは発達したが、都市社会が大型化し、複雑化するにしたがって、それだけでは情報の共有に不安定性が拡大してくる。マスメディアは、誰でもアクセス可能であることを原理とする一方向の公開型メディアである。そのため、都市型のコミュニケーションを補完（注 4）し、あるいはそれを強化する機能をになっている。

（成田康昭『メディア空間文化論—いくつかの私との遭遇』による）

（注 1）部族：共通の文化を持つ地域的集団

（注 2）一族：血縁関係の集団

（注 3）属性：人やものに備わる固有の性質

（注 4）補完する：補う

56) 都市の社会空間の特徴について、筆者はどのように述べているか。

- 1 人々が他人に関心を持たず、社会的なつながりが希薄になっている。
- 2 人々が互を知らないことを前提として、機能で結びついている。
- 3 人々が相手との親密さより、機能的なつながりを優先している。
- 4 人々が匿名性を前提としたコミュニケーションを好んでいる。

57) 都市の社会空間の経験によって、人々の自己に対する意識はどう変わったか。

- 1 集団のなかの一員という立場を意識するようになった。
- 2 個人であるということをより強く自覚するようになった。

- 3 自分が果たすべき義務をより明確に意識するようになった。
  - 4 自分の才能は社会のなかで生かすべきものだと考えるようになった。
- 58) 都市社会におけるマスメディアについて、筆者はどのようにとらえているか。
- 1 人々の間の情報共有を安定させている。
  - 2 人々の社会的な関係を強化している。
  - 3 情報の複雑化を抑制している。
  - 4 口頭のコミュニケーションの発達を促している

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、都市の街頭においては、人々は、互の匿名性を前提として、見ず知らずの他人同士の視線によるコミュニケーションを交わす。

2、人々は、自分を個人という単位として意識する機会が多くなり、財は一族（注2）や集団のものではなく、個人のものと意識され、才能は個々の人間の属性（注3）として考えられるようになった。

3、都市の人間の間にも、うわさが飛び交うような口頭のコミュニケーションは発達したが、都市社会が大型化し、複雑化するにしたがって、それだけでは情報の共有に不安定性が拡大してくる。

## 第 92 篇

私は、一人の作曲家として、色々な機会に、自分の作曲について語ってきた。しかしそれは、私自身が、自分の作曲についてよく知っている、ということの意味するわけではない。私の作曲には、言葉で説明できるような組織的な方法論はない。作曲するときの私は、単に、感覚に頼って、直観的に「これが好い」と納得できる音の連なりを探し続ける。そして、「ここが曲の終わりだ」と感じる処に到ったとき、一つの曲の出来上がりとなる。ただそれだけである。「これが好い」あるいは、「ここが曲の終わりだ」という感覚的な判断の根拠は、説明できない。そして、そのようにして作った曲が何であるのかについても、よく分からないのである。

もっとも、私は、自分の作曲について本当に何も知らないというわけではない。そもそも、どうやって何を作るかということと全く知らずに物を作ることは、不可能である。例えば、もし、ガラスのことも、そして、花瓶というものがどのようなものかも知らなければ、ガラスの花瓶を作ることはできない。同様に、作曲の場合にも、素材である音と、その音の構成の仕方について知らなければ、そしてさらに、音楽というものがどのようなものなのかを知らなければ、曲を作ることなどできない。作曲をするからには、作曲者は、当然、それらについて一応知っている。

(中略)

作曲は、必ず、何らかの伝統における「基本的な」知識を前提としている。だが、その「基本的な」知識をそのまま（大抵の場合、無意識的に）受け容れてその範囲で作曲する「保守的な」作曲家達がいる一方で、前衛主義に代表されるような、新たな音楽の可能性を求める作曲家達は、自らが出発点とした伝統における「基本的な」知識の外に踏み出そうとする。そして、この伝統からの踏み出し—あるいは、「逸脱」と言うべきかもしれない—は、常に、実験的な性質を帯びる。

つまり、非伝統的な素材を用いることによって、あるいは、非伝統的な音構成法を試みることによって、伝統に由来する「基本的な」知識が告げる音楽というもののイメージから逸脱した未知のものが産み出される可能性があり、そして、この未知なるものを相変わらず「音楽」と呼ぶとしても、それがどのような意義と価値をもつ音楽なのかは、判らないのである。その意義と価値を判断するためには、そこに生まれてきた音楽そのものを吟味してみるほかはない。

私が、自分自身の作曲について語り得ることは、まさにこのこと、つまり、自らが行った実験的な試みの結果として産み出された音楽についての吟味であり、言い換えれば、自らが行ったこととその結果についての自分自身による解釈なのである。

(近藤譲『＜音楽＞という謎』

による)

59) そのようにして作ったとあるが、どのように作ったのか。

1 曲全体の出来上がりをイメージしながら作った。

- 2 曲の終わりを意識して納得できる音を探しながら作った。
- 3 美しいとされている音の連なりを組み合わせで作った。
- 4 音の連なりを理屈ではなく感覚的に選んで作った。

60) 筆者は、ガラスの花瓶の例を挙げて何を言おうとしているのか。

- 1 音楽の素材として適している音があること
- 2 作曲家はどのような仕事をしなければならないかということ
- 3 作曲家は何の知識もなく曲を作ることはできないこと
- 4 自身の作曲について知らなければいい曲はできないこと

61) 新たな音楽の可能性を求める作曲家達の音楽とは、どのようなものか。

- 1 伝統的なイメージから離れた実験的な音楽
- 2 「基本的な」知識を知らずに作った未知の音楽
- 3 「基本的な」知識を元にして作った新しい音楽
- 4 非伝統的だが「保守的な」イメージを失わない音楽

62) 筆者によると、自分自身の作曲について語れることはどのようなことか。

- 1 自身の曲の意義と価値
- 2 自身の方法論についての解釈
- 3 自身の試みと、曲についての解釈
- 4 自身の作曲過程と、実験的音楽の可能性

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、だが、その「基本的な」知識をそのまま（大抵の場合、無意識的に）受け容れてその範囲で作曲する「保守的な」作曲家達がいる一方で、前衛主義に代表されるような、新たな音楽の可能性を求める作曲家達は、自らが出発点とした伝統における「基本的な」知識の外に踏み出そうとする。

2、つまり、非伝統的な素材を用いることによって、あるいは、非伝統的な音構成法を試みることによって、伝統に由来する「基本的な」知識が告げる音楽というもののイメージから逸脱した未知のものが産み出される可能性があり、そして、この未知なるものを相変わらず「音楽」と呼ぶとしても、それがどのような意義と価値をもつ音楽なのかは、判らないのである。



## 第 93 篇

以下は、ある映画監督が書いた文章である。

勝負を続けている限りは、負けは確定しない。勝ったり負けたりしながら、人生は続いていく。ただ、勝負を続けていくうちにだんだん勝負感はいってくるし、くだらない失敗はしなくなってくる。スキル（注 1）上がってくるからだ。

映画の話で言えば、僕は映画制作のシステムそのものに、大負けをしない仕掛けを組み込んだ。それは、①「他人と仕事をする」ということだ。他人という客観性を映画製作の現場に持ち込めば、独りよがりな（注 2）作品に突っ走ることを彼らが防いでくれる。それに僕は優秀なやつとしか組まないから、僕一人で何もかも考えるよりずっと映画の質は高くなるのだ。

勝負を続けていると、思わぬ成果が飛び込んでくることがある。かつて負けたと思い込んでいた勝負に、後になって勝ってしまうことがあるのだ。僕の例で言えば、愚直（注 3）に映画を撮り続け、ある程度の評価を得るうちに、かつてボロクソに言われた作品に光が当たり、再評価されるようなこともある。

（中略）

だから②絶対に勝負を諦めてはいけない。ただし、常勝を狙うのは禁物だ。勝負をしなければ勝つことはできないが、必ず勝とう、絶対に失敗しないようにしようと意気込んだら、緊張感や気負いや、そんな余計なものを背負い込んで結果的に負けてしまう。

（押井守「凡人として生きるということ」による）

（注 1）スキル：技術

（注 2）独りよがりな：ここでは、自己満足の

（注 3）愚直：ここでは、まじめに、こつこつと

（注 4）ボロクソに言われる：ここでは、ひどい評価を受ける

50) ①「他人と仕事をする」ことの利点について、筆者はどのように述べているか。

1. 負けた責任をひとりで背負わなくて済むため、楽な気持ちで作品が作れる。
2. 思い込みによる失敗がなくなり、誰にでも受け入れられる作品が作れる。
3. 仕事の負担が減り、作品の質を高めることに集中できる。
4. 作品の客観性が保たれる上に、質も上げられる。

51) 絶対に勝負を諦めてはいけないとあるが、なぜか。

1. 後で作品の価値が認められることがあるから

2. 良い作品はかならず評価されるものだから

3. どんな勝負にも得るものがあるから

4. 勝負に慣れて緊張しなくなるから

52) 筆者によると、勝負を続ける上で、気をつけるべき点は何か。

1. 勝負以外のことは考えてはいけない

2. 勝ち負けにこだわってはいけない

3. いつも勝とうと思っではいけない

4. 負ける自分を想像してはいけない

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、他人という客観性を映画製作の現場に持ち込めば、独りよがりな（注2）作品に突っ走ることを彼らが防いでくれる。



2、勝負をしなければ勝つことはできないが、必ず勝とう、絶対に失敗しないようにしようと意気込んだら、緊張感や気負いや、そんな余計なものを背負い込んで結果的に負けてしまう。



## 第 94 篇

環境が高速化しても、私たちの神経的な伝達速度や知覚認知の処理時間は変化しないことから、人間が一時にできる認知的課題の数もそれほど変わらないことが推察される。このことは、様々な情報が手に入り、やりたいこと、したいこと、そして実際にできる可能性が高まったとしても、①実際にできる事柄の数がそれほど増えるわけではないことを示唆している。

もちろん、技術革新によって、一つの事柄をやり遂げるまでに要する時間は大いに短縮された。筆者自身、パーソナルコンピュータを使って論文などを書くようになって、論文一本あたりにかける時間と労力はずいぶん減少したと思う。特に、原稿を清書したり作図したり、という手作業の階段に要する時間はかなり減った。

しかし、そうはいつでも、論文を書く際に論理展開をまとめるのに要する時間はそれほど短縮されるわけではない。考えるためには、どうしてもそれなりの時間が必要だ。

(中略)

人間が一つのことをやり遂げるにはどうしても一定の時間がかかる。その時間が技術革新や経験、学習によって、増えた欲望を満たすのに必要な時間以上に短縮されないとしたらどうなるだろうか。当然、潜在的な可能性に基づいて肥大する欲望のうち、実際に満たされるものは一部のみということになる。この場合、やりたいこと、やれるはずのことは数多くあるのに、なかなかそれが実現できない②ジレンマが生じる。

そうなると、むしろ、できる事柄が少なかったころよりも時間が足りず、忙しく、やりたいことができないという感覚が強くなっているかもしれない。

(一川誠「大人の時間はなぜ短いのか」による)

53) ①実際にできる事柄の数がそれほど増えるわけではないのはなぜか。

1. 人間は高速化した環境課題を考える時間があまりないから
2. 人間が物事を認知できる速度はあまり変化しないから
3. 人間の認知的な能力を超えた課題が増えているから
4. 人間に与えられた時間は限られているから

54) 技術革新によって、一つの事柄の完成に要する時間はどうなったのか。

1. 質の高さが求められるようになったため、完成までの時間は変わらない
2. 考える時間は短縮されないため、完成までの時間は変わらない
3. 様々な情報が入手しやすくなり、完成までの時間も短縮された



4. 手作業の時間が短縮された分、完成までの時間も短縮された

55) ②ジレンマが生じるとあるが、なぜか。

1. 人間の欲望が増えすぎて、できることとできないことが見極められないから
2. 人間の欲望が増えたが、欲望を満たすのに必要な時間は短くならないから
3. 技術革新で作業効率が上がったが、しなければならないことも増えているから
4. 技術革新の速度が速すぎて、追いつくのが難しくなっているから

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、人間が一つのことをやり遂げるにはどうしても一定の時間がかかる。その時間が技術革新や経験、学習によって、増えた欲望を満たすのに必要な時間以上に短縮されないとしたらどうなるだろうか。当然、潜在的な可能性に基づいて肥大する欲望のうち、実際に満たされるものは一部のみということになる。

煦和日语  
クワニホンゴ

2、そうなると、むしろ、できる事柄が少なかったころよりも時間が足りず、忙しく、やりたいことができないという感覚が強くなっているかもしれない。

## 第 95 篇

類人猿（注 1）の四足歩行と人間の二足歩行を比べると、時速 4 km くらいの速度で歩くと、二足歩行のほうがエネルギー効率がいい。しかも長く歩けば歩くほどエネルギーの節約率が高くなる。すなわち、初期の人類は長い距離をゆっくりした速度で歩く必要性に迫られて、直立二足歩行を採用したと考えられるのだ。これは初期の人類が徐々に熱帯雨林を出ようとしていたこととびったり符合する（注 2）。熱帯雨林の外では果実が散在していて、広い範囲を探し回る必要がある。これを可能にする歩行様式として、二足で歩くことが有利になった可能性がある。

しかし、長距離を歩くことになると群れの全員がまとまって移動するのは困難になる。子供や身重（注 3）の女性、老人など速い速度で長距離を歩くことが難しい仲間がいる。そのため、体力のある男たちが少数のグループを組み、広く歩き回って食物を集め、それを女や子供たちのもとへ持ち帰っていっしょに食べたのではないかと思われるのだ。これが食物共有仮説である。だが、サバンナへ出たサルたちは二足にならなかった。なぜ人間だけがなったのか。それは、サバンナ（注 4）へ出たパタスザルやアヌビスヒヒ、マントヒヒたちはオスがメスより格段に大きくなり、長い犬歯を発達させて群れの防衛をするようになったからである。しかも胃腸の強い彼らは人類ほど広い範囲を歩き回って食物を探す必要はなかった。一方、人類の先祖は男が大きくなるどころか、性差が小さく、犬歯（注 5）も縮小して武器としては使えなくなっている。これは人類の男たちが捕食動物と戦うよりも、その目を避けながら食物を探し歩いていたことを物語っている。

（朝倉敏夫編「火と食」による）

（注 1） 類人猿；人類学上、最もヒトに近いサル類

（注 2） 符合する：合う

（注 3） 身重：妊娠中

（注 4） サバンナ：熱帯地方に見られる草原

（注 5） 犬歯：ここでは、特に鋭い歯

56) 筆者によると、人類が二足歩行を採用したのはなぜか。

1. 広い範囲を長く歩き続けられるから
2. 広い範囲を時間をかけずに移動できるから
3. 遠くまで見渡しながらかけるから
4. 必要に応じて速度を変えながらかけるから

57) 群れの行動は、二足歩行によってどのように変化したと考えられるか。

1. 移動が困難な者がグループを組み、ゆっくり食物を探し歩くようになった
2. 移動が困難な者を体力のある者が助けながら、共に食物を探すようになった
3. 体力のある者のグループができ、その中で食物を共有するようになった
4. 体力のある者のグループができ、移動が困難な者に食物を分け与えるようになった

58) 人類の先祖について、筆者の考えに合うのはどれか。

1. 男たちが身体をより大きく見せて群れを防衛していた
2. 男たちが捕食動物との遭遇を避けながら食物を探し回っていた
3. 男たちが捕食動物からできるだけ遠くへ逃げて身を守っていた
4. 男たちが武器を持って群れを防衛しながら食物を探し回っていた

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、すなわち、初期の人類は長い距離をゆっくりした速度で歩く必要性に迫られて、直立二足歩行を採用したと考えられるのだ。これは初期の人類が徐々に熱帯雨林を出ようとしていたこととびつたり符合する（注2）。

2、そのため、体力のある男たちが少数のグループを組み、広く歩き回って食物を集め、それを女や子供たちのもとへ持ち帰っていっしょに食べたのではないかと思われるのだ。

3、これは人類の男たちが捕食動物と戦うよりも、その目を避けながら食物を探し歩いていたことを物語っている。

## 第 96 篇

以下は、歴史学者について、歴史小説家との比較を中心に書かれた文章である。

歴史学では、忠実の究明にももちろんのこと、新しい歴史像を提示する時にも史料（注 1）の根拠が必要です。そして、この史料根拠を基盤とするがゆえに、歴史学者の歴史像は、相互に批判可能なものです。これは、物理や化学といった自然科学の世界で新理論を展開する場合に、その論拠、論理を他の学者にも検証可能な形で提示しなければならないことと同様です。

しかし、小説にこうした論証を求めるのは無理というものです。最近小説家に歴史研究者同様の姿勢を求める向きもあるようですが、これは筋違いとしか思えません。やはり、歴史研究と歴史小説は、そもそも目的も手段も違うものなのだとしか言いようがないのです。

また、あるいは、次のような話が参考になるでしょうか。

ある時、理学部の天文学（注 2）の先生に、「どうして彗星や小惑星などの新天体を発見する人には、アマチュアのアマチュアが多いのですか」と聞いたことがありました。新聞でも報じられるような天体現象の発見に、意外と専門研究者が少ないことが気になっていたからです。

すると天文学の先生は、「天文学の先端では、彗星などの発見よりは、大きな電波望遠鏡を使って、ある一定の方向から地球に届く宇宙からの電波情報を継続的に受け取り、その数値の分析によって宇宙の大きさを推測したり、宇宙の成り立ちを究明したりしているのです」と教えてくれました。

（中略）

歴史学者と歴史小説家の違いも、これに近いものがあります。歴史小説家を歴史のアマチュアとするつもりはありませんが、同じく歴史を扱いながらも、その立ち位置は違うものだと言えるでしょう。

歴史小説では、誰もがよく知っている人物や事件をとりあげ小説にすることが多いようですが、歴史研究ではむしろ誰も知らないような人物や事件を入り口として史実を究明することがほとんどです。また、政争に誰がいかにして勝ったかというような政治のダイナミックな人間の動きよりは、制度的な政治システムの変遷を追究する方が研究手法としては主流です。そのため、歴史学者が世間一般の歴史ファンを驚かせるような新説を立てる、というようなことは、稀なこととなるのです。

もちろん、天文学者であれば研究機関に属していようが星に無関心でないのと同様に、歴史研究者もメジャーな歴史トピックに関心がないわけではありません。しかし、一見地味な事例研究を積み重ねることによって、それまでの通説を修正する新しい視点が見いだされていくことを、研究者は知っているのです。つまり、一足飛びに（注 3）通説を覆そうとして、特定の視点から史料を読むような真似（注 4）は禁物なのです。

（山本博文「歴史をつかむ技法」

による）

（注 1）史料：歴史を研究するための文献と遺物

(注2) 天文学：宇宙と天体について研究する学問

(注3) 一足飛びに：ここでは、手順を無視して一気に

(注4) 真似：ここでは、行動

59) 筆者によると、歴史学と自然科学の共通点は何か。

1. 研究の価値は新説を示すことで認められること
2. 新説の展開には、学者同士の相互批判が欠かせないこと
3. 新説の根拠を検証可能な形で示すのは容易ではないこと
4. 他の学者が検証できるように、新説の根拠を示す必要があること

60) 天体現象の発見に専門研究者が少ないのは、なぜか。

1. 専門研究者は、新天体の発見には価値がないと考えているから。
2. 専門研究者は、新天体の発見より宇宙そのものの探究を目的としているから。
3. 専門研究者は、アマチュアのアマチュア天文家との役割分担を意識しているから。
4. 専門研究者は、アマチュアのアマチュア天文家の発見を集約して宇宙全体を研究しているから。

61) 歴史小説家について、筆者はどのように述べているか。

1. 制度的な政治システムを題材としている。
2. 誰も知らない史実を面白く物語にしている。
3. 有名な人物や出来事などを題材としている。
4. 歴史学者が気がつかないような視点で書いている。

62) 歴史学者について、筆者はどのように述べているか。

1. 通説を覆すために、新しい史実を発見しようとしている。
2. 通説に惑わされず、特定の視点から歴史をとらえようとしている。
3. 個々の事例研究を踏まえて、史実を明らかにしようとしている。
4. 知られていない史実を取り上げ、人々の歴史認識を改めようとしている。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、歴史小説では、誰もがよく知っている人物や事件をとりあげ小説にすることが多いようですが、歴史研究ではむしろ誰も知らないような人物や事件を入り口として史実を究明することがほとんどです。

2、もちろん、天文学者であれば研究機関に属していようが星に無関心でないのと同様に、歴史研究者もメジャーな歴史トピックに関心がないわけではありません。



## 第 97 篇

市場の製品のほとんどに何らかのマークが付いています。それに気づく人は少数であり、その意味を知ろうとする人は更に少数でしょう。見方によればこれは①市場の健全さの表れです。製品が満足なもので取引がスムーズなら問題は起こらないでしょう。しかし、中には使用者に損害を与えたり危険にさらしたりする製品もあるのが現実です。

成熟した社会では、公共の利益に反する製品を市場から排除するために様々な仕組みと手段が使われていますが、製品に付けられている「適合マーク」もその一つです。これは製品が何らかの基準に適合していることの証明であり、製品の供給者から購入者及び使用者に情報を伝える手段です。適合マークは、業者間の取引における要件として、また、消費者の購入判断を助ける手段として古くから使われてきましたが、それらは主に地域社会のツールであり、意味や使い方は地域社会のルールでした。

この事情は 1980 年代に一変します。市場のグローバル化により、見知らぬマークを付けた外国製品が各国の市場に溢れたからです。(中略)

適合マークが②本来の機能を果たすには、そのマークが多数の人々に認知され、意味が正しく理解されていることが必要です。また、マークが伝える情報の信頼性を支える適合性評価が適切に行われたことの証拠が必要です。そこで、ISO(国際標準化機構)は 1996 年に適合マークに関する検討グループを設置し、問題の分析と解決策の検討を開始しました。

(田中正躬監修・編著『氾濫するマークー多様化する認証』による)

50) ①市場の健全さの表れとあるが、何が健全さの表れか。

- 1 製品のマークに無関心な人が多いこと。
- 2 製品のマークの意味を知らない人がいないこと。
- 3 製品のほとんどにマークが付いていること。
- 4 製品の質がマークによって保証されていること。

51) ②本来の機能とあるが、どのような機能か。

- 1 製品の不具合や問題点が解決されていることを証明する。
- 2 外国製品と自国の製品とを区別するための情報を与える。
- 3 消費者の購入意欲を高めるとともに、地域社会の経済を支える。

4 消費者に安心できる製品であることを伝え、公共の利益を守る。

52) 適合マークについて、検討が必要になったきっかけは何だと筆者は述べているか。

- 1 外国製品に対する消費者の関心が高まったこと。
- 2 各国の適合性評価への信頼性が失われていったこと。
- 3 各国の適合テーマが混在して理解しにくくなったこと。
- 4 適合マークが付いていない外国製品が流通し始めたこと。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、成熟した社会では、公共の利益に反する製品を市場から排除するために様々な仕組みと手段が使われていますが、製品に付けられている「適合マーク」もその一つです。



煦和日语

クワ・ニ・ホン・ゴ

2、適合マークは、業者間の取引における要件として、また、消費者の購入判断を助ける手段として古くから使われてきましたが、それらは主に地域社会のツールであり、意味や使い方は地域社会のルールで



## 第 98 篇

ぼくらは、自由という言葉にある重さを感じる。自由と勝手とは似て非なるもので、自由を与えられると、その尊さ故にどう扱っていいかと緊張するのである。そのように教えられたわけではないのだが、その解釈する感性が少なくとも備わっていたということだろう。日常の仕事のことでもいい、ちょっと思い返すと、①それが実感できる。

②自由におやり下さいと言われると、無邪気に、あるいは無責任に、これは楽だと思えるだろうか。自由におやり下さいの自由は、あなたの思うまま好きな世界を構築して結構ですという、全幅（注 1）の信頼や神の如き好意ではないのである。

もっとつき放している。お手並（注 2）拝見という底意地の悪さもある。だから、言われた側の本心としては、自由にやらせていただけるのですかと、感動のリアクション（注 3）を示しながら、実は大して期待していないな、要するにあてにされていないなと思ったりするのである。

それもこれも、自由という言葉の持つ重さと、それを使いこなす困難さを知っているからである。だから、ぼくらは若い時、自由に書いて下さい、自由に解釈して下さい、自由に生きて下さいと言われると、捨てられたような戦慄を覚えた（注 4）ものである。自由に善玉、制約は悪玉だと伝えられているが、制約を示された方が人は安心して生きられるところもあるのである。（中略）

ぼくは、自由を理解し、自由を享受し、自由を主張するためには、無免許であってはならないと思っている。少なくとも許されることと、許されざることの判別が可能な人だけに交付されるべきなのである。

（阿久悠『清らかな厭世一言葉を失くした日本人へ』による）

（注 1）全幅：最大限

（注 2）手並：技量

（注 3）リアクション：反応

（注 4）戦慄を覚える：ここでは、ひどく恐ろしいと感じる

56 ①それが実感できるとあるが、何が実感できるのか。

1 自由という言葉の重さ

2 自由という言葉のあいまいさ

- 3 自由という言葉の解釈の違い
- 4 自由という言葉の使い方の難しさ

57 ②自由におやり下さいと言われると、どのように感じると筆者は述べているか。

失敗すると思われている。

- 2 責任を押しつけられている。
- 3 思いどおりにやらせてもらえる。
- 4 あまり頼りにならないと思われている。

58 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 自由を定義できなければ、自由を主張するべきではない。
- 2 自由の本当の意味がわからなければ、自由を与えられるべきではない
- 3 自由に伴う責任を感じられなければ、自由という言葉を使うべきではない。
- 4 自由と不自由の違いがわからなければ、自由に生きることを許されるべきではない。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、自由におやり下さいと言われると、無邪気に、あるいは無責任に、これは楽だと思えるだろうか。自由におやり下さいの自由は、あなたの思うままお好きな世界を構築して結構ですという、全幅（注1）の信頼や神の如き好意ではないのである。

2、だから、言われた側の本心としては、自由にやらせていただけるのですかと、感動のリアクション（注3）を示しながら、実は大して期待していないな、要するにあてにされていないなと思ったりするのである。

## 第 99 篇

アジアであれヨーロッパであれ、あるいは、三日であれ 1 カ月であれ、旅から帰って成田空港（注 1）に着く。（中略）私はいつもバスではなくて列車で家まで帰る。都心に向かう列車には、旅から帰ってきた人と、これから旅する人たちが乗っている。話している人たちがいても、不思議に静かだ。帰る人の疲れと、旅する人の緊張が混ざり合ったような、ほかの路線ではなかなか味わえない静けさである。

列車がトンネルを出ると、私は窓の外の景色を見る。空港からしばらくは、田園風景が続く。彼方まで続く田んぼは、季節によって一面の緑だったり茶色だったり、はられた水が空を映して青かったりする。山々が、遠くに見えたり近くに迫ってきたりする。冬枯れの景色でも、緑濃い初夏でも、自然の色彩が非常にやわらかいことに毎回あらためて気づかされて、そうして、帰ってきたなあ実感する。

アジアにもヨーロッパにもそれ以外のどこにでも、ゆたかだったそうではなかったりする自然がある。田舎を旅すればむせかえるような（注 2）緑のなかを歩くことになる。見慣れた田んぼとそっくりな光景を見ることもある。葉の落ちた木々が針のような枝を空に突き刺す景色に見とれることもある。緑の多い町だ、とか、水墨画（注 3）みたいだ、とか、その程度の感想は抱くが、その色彩についてとくべつ何も思わない。

帰ってきて、車窓から景色をみて思うのだ。この国の色彩は本当にやわらかい、と。木々の緑も、四季（注 4）に即した山の色も、川も空も。旅先で見てきた木々や空や海といったものが、なんと強烈な色を放っていたのかとこのときになって気づく。

窓の外に緑が少なくなって、次第に家やビルが増えてくる。都心が近づくにつれ、どんどん建物や看板が増えてくる。さっきより「ああ、帰ってきた」がもう少しふくらむ。都心の、空の狭い、ごたついた（注 5）風景をきれいだと思ったことは一度もないけれど、でも、帰ってくると毎回近しく（注 6）思う。好きとか嫌いではなくて、私に含まれているかのような近しさを覚えるのだ。

先だって、成田空港まで人を迎えにいった。旅のにおいをまだ濃厚に漂わせている人を到着口で迎え、いっしょに列車に乗り込んだ。旅の話を聞きながら、窓の外を眺めていて、ちょっとびっくりした。旅から帰って見る景色とぜんぜん違う。退屈な、見るべきところもない田園風景が広がっているのである。そうか、旅のあとじゃないと、ただの日常の光景なのか。都心が近づいてくる。窓の外に私が見ている光景と、旅から帰ったひとから見ている景色は、まったく違うんだろかなあと思った。

旅というのは、空港に着いたときに終わるのではなくて、周囲の景色が、わざわざ目を凝らすこともない日常に戻ったときに終わるのだと知った。

(角田光代『トランヴェール』2012年3月号による)

(注1) 成田空港：日本の国際空港

(注2) むせかえるような：ここでは、圧倒されるような

(注3) 水墨画：墨を使って、白黒の濃淡で描かれた絵

(注4) 四季に即する：ここでは、四季によって変わる

(注5) ごたつく：ごちゃごちゃする

(注6) 近しい：ここでは、心理的に近い

59 帰ってきたなあと実感するのは、どんなときか

- 1 都心に向かう列車のなかで静けさを感じたとき
- 2 日本の自然の色合いをあらためて意識したとき
- 3 日本には緑が多いことにあらためて気づいたとき
- 4 四季の変化が感じられるような色に気づいたとき

60 外国を旅しているときの、筆者の自然に対する反応はどのようなものか。

- 1 色彩の多様さに驚くことはあるが、とくべつよいとは思わない。
- 2 色彩が強烈だと思うことはあるが、見とれることはあまりない。
- 3 景色にひかれることはあるが、色彩にとくべつな印象は持たない。
- 4 懐かしい景色だと思うことはあるが、色彩がやわらかいとは思わない。

61 帰国したときに都心の風景を見て、筆者はどう感じるのか。

- 1 自分の一部であるような親しみを感じる。
- 2 自分を受け入れてくれる優しさを感じる。
- 3 自分の好みに合っている場所だと感じる。
- 4 自分のふだんの生活に戻ったように感じる。

62 筆者は、旅というものをどのようにとらえているか。

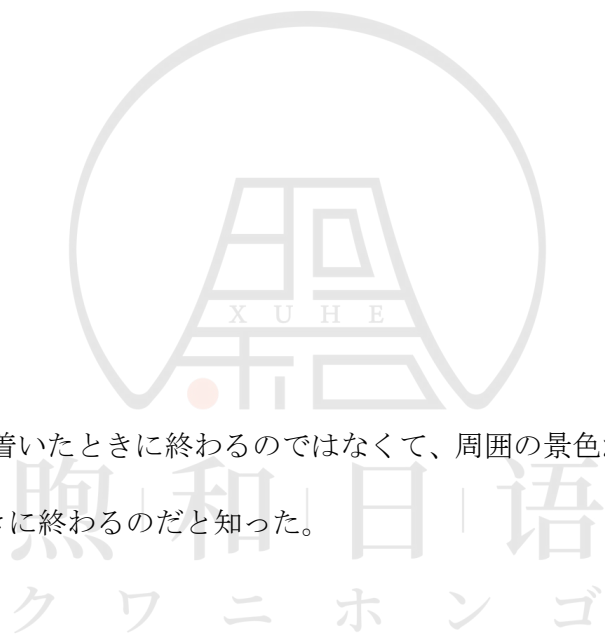
- 1 旅は、慣れ親しんだ景色のよさを再確認させてくれる。
- 2 旅は、見慣れた風景に新しい何かを発見することを可能にする。
- 3 旅は、旅先と慣れ親しんだ景色の違いに気づいたとき終わる。
- 4 旅は、見慣れた風景が再びありふれた日常になるまで続いている。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、旅から帰って見る景色とぜんぜん違う。退屈な、見るべきところもない田園風景が広がっている  
のである。そうか、旅のあとじゃないと、ただの日常の光景なのか。

2、都心が近づいてくる。窓の外に私が見ている光景と、旅から帰ったひとから見ている景色は、まったく違うんだろかなあと思った。

3、旅というのは、空港に着いたときに終わるのではなくて、周囲の景色が、わざわざ目を凝らすこともない日常に戻ったときに終わるのだと知った。



## 第 100 篇

不安は、正体がつかみきれないときほど膨らんでいく。長く引きずる。人間だれでも、自分に都合の悪いこと、恐ろしいことは考えたくない。そういう心理が働くから、無意識のうちに問題をあいまいにして解決を保留にする。

そうして結局、いつまでも不安をダラダラと抱え続けてしまう。

逆に自分の何がどのように不安なのか、不安に思う必要があるのかどうかを把握すれば、それだけで不安は減る。不安の正体が明確になって、これは何かしなくてはまずいと認識されれば、それは「危機感」になる。危機感とは不安と違う。危機感をもてば、行動を起こそうという意欲が湧く。さらに情報を集めて、行動計画をたてようとする。やるべきことが明確になる。だからスタートが切れるのだ。

問題は鍵となる不安は何なのかということだ。様々な不安の中から、それを特定して意識する。その不安に、思いきり光を当てて自分で正体を見極められれば、次にどうすればいいかの対策も講じられる。

(中略) 不安には、しばらく保留にしておいても大丈夫な不安もある。それがわかった瞬間、不安は、また少し減る。

こうして、自分が何をやらなければいけないかが見えてくる。やる気が出てくる。動く気になる。不安の解決策を考えながら、夢が膨らんでくることもある。

(佐々木直彦『「仕事も人生もうまくいく人」の考え方』による)

50) いつまでも不安をダラダラと抱え続けてしまうとあるが、なぜか。

- 1 不安の原因がいくつもあって対処できないから
- 2 不安について考えることを避けてしまうから
- 3 不安が一人では解決できないほど大きいから

4 不安に向き合うと不安はさらに膨らんでいくから

51) 筆者によると、危機感をもつとどうなるか。

1 次の行動に移れる。

2 行動に自信がもてる。

3 不安の原因が把握できる。

4 不安の正体を突き止めたくなる。

52) 不安について、筆者はどのように考えているか。

1 解決しやすい不安から順々に対応するといい。

2 保留にするべきではない不安をまず特定するといい。

3 不安を感じたときはすぐに解決策を考えて実行するといい。

4 不安の原因が何かわかるまでしばらく保留にしておくといい。

■ 次の文を中国語で訳してください。

1、問題は鍵となる不安は何なのかということだ。様々な不安の中から、それを特定して意識する。

その不安に、思いきり光を当てて自分で正体を見極められれば、次にどうすればいいかの対策も講じられる。